

一夫一妻婚ノ研究

A STUDY OF MONOGAMOUS MARRIAGE

I.

教 授

外 岡 茂 十 郎

PROF. M. TONOOKA

1926

目次

第一章 緒論

- I. 序言.....1—4
- II. 本稿ノ目的ト範圍.....4—15
- (1) 本稿ニ於テ取扱フ論題——(2) 超國家的婚姻法存在ノ可能——
- (3) 文化現象ノ類似ハ全人類ノ通有性ニ基ク社會生活上ノ必要ガ類似スルガ爲デアアル(文化非繼受論)——(4) 人文ノ發展ハ全人類ノ通有性ニ基ク法ガ受クル地域的國民的影響ヲ減少セシメル——(5) 比較立法學ト人種學的法律學
- III. 參考書目.....15—18
- (1) 邦文參考書——(2) 外國文參考書

第二章 婚姻制度ノ起源

第一節 總論

- I. 婚姻ノ意義.....19—30
- (1) 序言(A. 婚姻ノ意義ヲ明確ニスルコトノ重要——B. 原始雜婚制ノ存否ニ關スル論争ハ婚姻ノ意義如何ニ依テ定マル) 19—21
- (2) 意義(A. ダーウエン、スターク、ウエスターマック、フリードリッヒス氏ノ與ヘタ定義——B. 生物學的現象トシテノ婚姻ト社會學的現象トシテノ婚姻——C. 「婚姻ハ共諾ニ成リテ共諾ニ成ラズ」トノ法諺——D. 我民法ニ於ケル婚姻ノ二意義——E. 祖先崇拜ノ俗ガ婚姻ノ意義ニ與ヘタ影響——F. 建部遜吾博士、穗積陳重博士ノ與ヘタ婚姻ノ定義) 21—30
- II. 研究方法.....30—105
- (1) 序言(A. 研究方法ヲ明確ニスルコトノ重要——B. 資料ニ對スル

- 觀察、解釋ノ相違ハ之ニ對シテ與フル價值ニ差異ヲ來ス) 31—31
- (2) **歴史上ノ記錄**(A. 歴史上ノ記述ハ婚姻制度ノ起源ニ關シ直接ニ資料ヲ供給スルモノデハナイ——B. 人類歴史ノ記錄ノ有無ガ直チニ以テ法律學ノ限界ヲ定ムルモノデハナイ——C. 文獻ノ存セザル社會モ法律學ノ對象トナルニ適スル) 32 — 33
- (3) **神話及ビ傳説**(A. 神話及ビ傳説ハ神話的乃至傳説的歴史テハナクテ歴史的な神話乃至傳説デアル——B. 神話傳説ニ依ツテノミ爲ス探究ハ吾人ヲシテ満足セシムルニ足ラヌ) 33—37
- (4) **野蠻民族及ビ遺風** 37—100
- A. 總説 (a. 進化論ノ應用 —— b. 野蠻民族ト原始人、遺風ト先住民族 —— c. 之ニ對スル批判 —— d. 野蠻人ノ狀態ヲ傳フル記述ノ不正確 —— e. フイゾン氏ノ報告ト團體結婚説 —— f. 表象若クハ遺風ノ解釋) 37—50
- B. The Classificatory System of Relationship (a. 親族稱呼ハソレニ對應スル實際ノ若クハ蓋然ノ血族關係ヲ示スモノデアルト云フモルガン氏ノ主張 —— b. 血族關係ヲ表ハス言葉ノ三種ノ組織ト之ニ對應スル三種ノ婚姻ノ形式 (The Malayan System of Consanguinity —— The Consanguine Family. The Turanian System of Consanguinity —— The Punaluan Family. The Aryan System of Consanguinity —— The Monogamian Family.) —— c. マレイ式親族稱呼、ツラン式親族稱呼及ビリアン式親族稱呼ノ比較表 —— d. モルガン氏ノ學說ニ對スル批判 (トーマス氏ノ説明 —— 英法ニ於ケル filii nullius —— ウエスターマーグ、クロバー、リヴァース、ラング氏ノ説明)) 50—72
- C. Pre-Nuptial Unchastity (a. 未婚男女ノ淫奔ハ原始雜婚ノ遺風デアルトナスボスト氏ノ主張 —— b. ボスト氏ノ説明ニ對スル批判 (1. 淫奔ナルコトハ低級民族ノ一般的特徴デハナイ —— 2. 野蠻人ノ淫奔的ナ風習ハ多クノ場合ニ於テ開化人ノ誘致シタモノデアル —— 3. 性的關係ノ放縱ハ文明ノ進歩スルニツレテ其ノ度ヲ増シテユク —— 4. 性慾ノ強弱及ビ倫理思想ノ高低ハ野蠻人ノ婚姻前ニ於ケル男女關係ニ

重大ナル影響ヲ及ボスモノデハナイ)) 72—79

D. The Jus Primae Noctis (a. 「初夜權」若クハ「妻貸シ俗」ハ原始
雜婚ノ遺風デアルトナスラホツク氏ノ主張——b. ラホツク氏ノ説明
ニ對スル批判(マツクレナン・ウエスターマーグ氏ノ説明——此等ノ
風習ハ原始雜婚ノ存在ヲ推論セシムルニ足ラヌ) ——c. 「妻ノ交換
俗」) 79—89

E. Mother-right (a. バツホーフエン、マツクレナン氏ノ「母權制度」論
——b. 「母權制度」論ニ對スル批判 (1. mother-right ト mother-rule
—— 2. 母系親族制ハ常ニ父系ノ不明ニ基因スルトハ限ラナイ —— 3.
父系ノ不明ハ當然ニ原始雜婚ノ結果トノミ觀ルコトモ出來ナイ ——
4. 母系親族制ノ存在理由 —— 5. 母系親族制ヲ説明スルニ原始雜婚
ノ存在ヲ假定スルヲ要シナイ —— 6. 母系親族制ハ父系親族制ニ先キ
立ツタト云フ説明ニ對スル批判)) 89—100

(5) 結論

100—105

A. 社會的現象ノ過去ニ於ケル普遍的存在ヲ臆斷スルコトニ關スル條
件——B. 婚姻制度ノ起源ニ關シテハ其ノ生物學的原因ヲ探究スルハ
極メテ重要ナ事デアル——C. 一定ノ豫備知識

——(第二章第二節本論以下未完)——

一夫一妻婚ノ研究

外岡茂十郎

第一章 緒 論

1. 序 言

婚姻制度ハ、後段ニ於テ詳述スルガ如ク、吾々人類ガ持ツタ最モ古キ歴史ヲ有スル繼續的共同生活ノ組織デアツテ、其ノ進化ノ過程ハ全人類ガ單獨唯一ノ進路ヲ通過シテ來タモノデハナイ。從ツテ其ノ徑路ヲ辿ネ、更ラニ遡ツテ其ノ起源〔註〕ヲ

〔註〕 茲ニ云フ所ノ起源ハ、必ズシモ人類ガ婚姻制度ヲ持ツタ眞ノ出發點ヲ云フモノデハナイ。蓋シ斯クノ如キ出發點ヲ、科學的考證ニ基ヅクコトナク、想像的ニ畫キ出スコトハ、社會制度トシテノ婚姻殊ニ之ニ關スル法的規範ヲ研究セントスル者ニトツテハ、何等ノ價值モナイコトデアルカラデアアル。從ツテ私ガ茲ニ云フ所ノ起源ナル言葉ハ、絶對的意義ニ於テ、之ヲ用フルノデハナクシテ、今日ノ科學ノカヲ以テ近ヅキ得ル婚姻進化ノ最低階段ヲ意味スルニ外ナラナイ。

探究スルガ如キコトハ誠ニ至難ノ業ニ屬スル。「モルガン」(L. H. Morgan)「マツクレナン」(McLennan)及ビ「ラボック」(Sir J. Lubbock)等ノ古代開化史ニ關スル研究ハ、既ニ吾々ヲシテ

此種ノ問題ニ關スル或ル種ノ觀念ヲ會得セシムルモノハアツタガ、其ノ紛々タル異論ハ、古代ニ關スル知識ヲ得ルコトノ不可能ナルヲ思ハシムルコト再三ナルモノガアル。而モ婚姻制度ノ研究ハ人事法研究ノ根幹ヲナスモノデアアルガ故ニ (Marriage is The origin of statues) 人事法ヲ研究セントスル者ハ一度ハ通ラネバナラヌ難關デアアル。而シテ之ガ研究ハ、先ヅ之ガ起源ニ於テ始メラレネバナナルマイ。凡ソ社會ノ制度ハ一トシテ其ノ存在理由ヲ有セザルモノハナイ。此ノ存在理由ヲ理解スルニ非ザレバ、其ノ制度ノ本質ハ之ヲ理解スルコトハ出來ナイ。而シテ存在理由ノ理解ハ、先ヅ第一ニ之ガ發生理由ノ理解ニ求ムベキデアラウ〔註〕。

〔註〕 勿論、自分ハ或ル社會制度ノ起源ノ説明ガ、必然的ニ其ノ社會制度ノ現ニ存在シテ居ル理由ノ説明トナルモノデアルトハ思ハナイ。既ニ「メーン」(Sir Henry Sumner Maine, 1822—1888)ハ其ノ名著古代法(Ancient Law, 1861. 但シ私ノ手許ニアルノハ一八八五年ノ第十版デアアル。以下引用スル頁數モ凡ベテ此ノ第十版ニヨルモノデアアル)ニ於テ、吾人ニ制度ノ存在理由ト發生理由トハ、之ヲ混同スベキモノニ非ザルコトヲ教ヘテ居ラレル—— The warning can never be too often repeated, that the grand source of mistake in questions of jurisprudence is the impression that those reasons which actuate us at the present moment, in the maintenance of an existing institution, have necessarily anything in common with the sentiment in which

the institution originated. (p. 189) ——要ハ婚姻ノ本質ヲ探究セントスル自分ハ、勢ヒ其ノ起源ノ探究ニマデ遡ルノ已ムナキノミデアアル。

蓋シ今日吾々ノ有スル婚姻制度ノ如キモ、幾多ノ日時ト幾多ノ變遷トヲ經テ、今日ノ有様ニ達シタモノデアツテ、突然トシテ天ヨリ降り、若シクハ地ヨリ湧キ出タモノデナイ以上ハ、今日ノ婚姻制度ガ過去ノ婚姻制度ニ、更ニ遡ツテ、其ノ起源ニモ關係ヲ持ツテ居ルモノデアアルコトハ、容易ニ理解スルコトガ出來ルコトデアリ、其ノ起源ヲ探究スルコトニ依ツテ、過去並ビニ現在ノ婚姻制度ヲ理解スルノ階梯トナシ、以テ其ノ本質ヲ探究セントスルコトハ、決シテ無理カラヌ普通ノ企デアアルカラデアアル。是レ婚姻制度ノ研究ガ、先ヅ婚姻制度ノ起源ノ研究ニ始マル所以デアアル。

前述セシガ如ク、多數ノ學者ノ研究ノ結果ハ、多クノ重要ナル點ニ於テ甚ダシク其ノ見解ヲ異ニシ、吾人ヲシテ幾多ノ疑念ヲ抱カセルモノガアルガ、研究ノ一階梯トシテ、一先ヅ「ウエスターマーク」(Edward Westermarck)ノ The History of Human Marriage (5th. edit., London, 1921.)ニ基キ、此ノ種ノ問題ニ關スル自分ノ思想ヲトリマトメルコトニシタ。固ヨリ其ノ尙早ニシテ且ツ未熟ナルコトヲ知ラス者デモナイガ、之ニ依ツテ先輩諸賢ノ示教ヲ仰グ機會ヲ作り、今後ノ講究ニ資シ度イト思フタカ

ラデアル。

II. 本稿ノ目的ト範圍

本稿ハ、前段ニ於テ、婚姻制度ノ起源ヲ探究スルコトニ依ツテ、婚姻ノ本質ヲ明カニシ、以テ一夫一妻婚ノ由來ニ及ビ、後段ニ於テハ、婚姻ノ形式ト題シテ、此ノ一夫一妻婚ガ各民族ノ間ニ如何ニ採用サレタカト云フ事實ト、更ラニ出來得ベクンバ其ノ事實ノ原因ノ説明ト、其ノ事實ノ行ハルル理法ノ闡明トニ及バントスルモノデアル (Westermarck, op. cit. vol. I, p. 24.)。而シテ第一章ノ緒論ニ至ツテハ、即チ此等ノ説明ヲ試ミル豫備的研究ヲナスモノニ他ナラナイ。

前段ニ於テ、婚姻制度ノ起源ヲ探究スルコトハ、或ヒハ男女ノ性ノ區別ノ起源ト云フ様ナトコロマデ、遡ルベキモノデアルカモ知レナイ。蓋シ婚姻制度ハ男女兩性ノ存在ヲ前提トスル問題デアルカラデアル。或ヒハ又少クトモ、社會ノ起源ト云フ様ナトコロマデ、遡ルベキモノデアルカモ知レナイ。蓋シ社會制度トシテノ婚姻ヲ取扱フ者ニトツテハ、其ノ探究ハ、人類ガ社會生活ヲ營ミ始メタ時代以上ニ古ク、遡ルコトノ必要モナイヤウデアルカラデアル。然シ本稿ハ、實ハ婚姻法ト云フモノヲ、場所ト云フ點ニ於テ我國ノ婚姻法ニ、又時代ト云フ點ニ於テ現在ノ婚姻法ニ、制限セラルルコトナク、廣ク婚姻法ノ原理ヲ、綜合的ニ考察シテミタイト云フ希望ノ下ニ書き出シタノデア

ル〔註〕。

〔註〕 法ノ歴史的展開ヲ綜合的ニ考察シテ、法律進化ノ一般形式ヲ論定スルコトガ、果シテ可能ナリヤ否ヤニ關シ、栗生武夫氏ハ「法律ハ、風俗ヤ言語ノヤウナ無意識的自然的ノ產物ニアラズシテ、爲政者ノ個人的意思ニ依リ製作セラル、場合モアルノデアルカラ、同一文化階段ニ立ツ國民ニシテ全く其法ヲ異ニスル場合モナイデハナイ。若シ各國互ニ獨自ノ法律史ヲ有ツモノトスレバ、法ノ一般進化階段ナルモノヲ立テ得ザルコト勿論デアアル」ト述べラレテ居ル（法學論叢第六卷第六號同氏「西洋法制史研究ノ必要ニ就テ」一三九頁參照）。然シ私カラ之ヲ觀レバ、寧ロ法律ガ爲政者ノ個人的意思ノミニ依リテ、製作セラルルコトノ可能ヲ疑ハザルヲ得ナイ。勿論法制史上ノ事實ハ、形式的ニ之ヲ觀レバ、法律ガ爲政者ノ個人的意思ノミニ依リテ製作サレタカノ様ナ場合モアラウガ、其ノ法律ガ法律トシテ行ハルルノハ、其ノ奥底ニソレヲ行ハセシムル國民ノ法的確信（欲望）ガ、意識的ニ又ハ無意識的ニ潜在シテオツタ結果ニ外ナラヌノデアアル。爲政者ノ個人的意思ニ基クモノデアアル以上ハ、其ノ意思ノ内容如何ヲ問ハズ、從ツテ其ノ法律ノ内容ガ社會的存在性ヲ缺クトモ、之ヲ以テ法デアルトナス分析法學派ノ態度ヲ駁スルコトハ、茲ニハ省略スル。「同一文化階段ニ立ツ國民ニシテ全く其法ヲ異ニスル場合」ハ、其ノ爲政者ノ個人的意思ニ依ル結果デハナク、寧ロ其ノ固有ノ風俗、國民性乃至經濟事情ニ基クモノデハアルマイカ。爲政者ノ個人的意思ハ其ノ國民的確信（欲望）ヨリ離レテハ、法律ヲ制定變更廢止スルノ力ヲ有セザルモノデハナカロウカ。之ヲ要スルニ法律ハ其ノ社會ノ欲望ト離レテ、爲政者ノ個人的意思ノミニ依リテ製作セラルル場合モアルカラ、タト

ヒ同程度ノ文化階段ニ立ツ民族ハ、互ヒニ類似ノ欲望ヲ抱クモノデアルトスルモ、其ノ各自ノ有スル法律ハ全く相異ナル場合モアリ、從ツテ法律進化ノ一般法則ナルモノハ之ヲ立テルコトガ出來スト云フ主張ハ、到底是認セラルベキモノデハナイ。

寧ロ場所ヲ異ニシ、時代ヲ異ニスル異種ノ種族モ、等シク人類ト云フ同種ノ生物デアルガ故ニ、其ノ欲望ハ、タトヒ處ト時トヲ異ニスルモ、自ラ互ヒニ類似スベキガ故ニ、此ノ點ニ於テ、「法ノ進化」ナルモノノ存在ヲ疑フベキ餘地ガアルデハアルマイカ。但シ「法ノ進化」トハ人類トシテ有スル欲望ガ、場所ト時代トニ從ヒ、法ノ上ニ如何ナル形ヲ以テ現ハルルカト云フ「法ノ變遷」ヲ説明スルコトデアルトスレバ、ソレハ自ラ別問題トナロウ。從ツテ自分ハ「法ノ進化」トハ、「法ノ質ノ進化」ヲ説明セントスルモノニハ非ズシテ、單ニ「法ノ形ノ變遷」ヲ説明セントスルモノニ他ナラズト解ス。

詳言スレバ、由來親族法殊ニ婚姻法ハ、土地ニヨリ、人種ニヨリ、又時代ニヨリテ、其ノ法律慣習ヲ異ニスルモノデアツテ統一的傾向ノ極メテ少イモノトサレテ居ルノデアルガ、然シ又他面ニ於テ、古代ニ於ル人類モ、現在ニ於ル人類モ、又東洋ニ於ル人類モ、西洋ニ於ル人類モ共ニ廣イ動物學ノ上カラ之ヲ觀レバ、等シク「人類」ト云フ範圍ヲ出デナイノデアル。從ツテ此ノ「人類」ニハ、又ソコニ「人類」トシテノ通有性ガナケレバナラナイ筈デアル。從ツテ又此ノ通有性ニ基礎ヲ置イタ婚姻法ガナケレバナラヌ筈デアル。比較社會學(Comparative Sociology)ハ既ニ吾々ニ其ノ住居ノ地ヲ異ニスル異種ノ種族間ニ於

テ、類似ノ文化現象 (The resemblances of culture-phenomena) ノ存スルコトヲ教ヘテ居ル。例ヘバ各異種族ガ持ツテオル宗教ニ關スル信仰及ビ其ノ實行ハ、之ヲ大體ニ於テ萬有精神主義 (Animism) 「トーテミズム」 (Totemism) 祖先崇拜 (Ancestor-worship) 多神教 (Polytheism) 及ビ唯一神教 (Monotheism) ニ分類スルコトガ出來ル。又其ノ神話 (Myth) ニ至ツテモ、之ヲ大體ニ於テ、日出日没ヲ標題トスル神話 (Myths of sunrise and sunset) 日蝕月蝕ヲ標題トスル神話 (Eclipse-myths) 地震ヲ標題トスル神話 (Earthquake-myths) 等ニ分類スルコトガ出來ルシ、更ニ其ノ使用シタ武器 (Weapon) ノ類ニ至ツテモ、之ヲ槍 (Spear) 棍棒 (Club) 投石器 (Sling) 弓矢 (Bow and arrow) 等ニ分類スルコトガ出來ル。斯ノ如ク、異種ノ種族ガ類似ノ文化現象ヲ有スルニ至ツタ原因ハ、蓋シ人類ノ通有性ニ基ク類似ノ社會生活上ノ必要 (欲望) ガ、其ノ各自ノ文化現象ヲシテ類似ナラシメタルニ外ナラナイノデアアルマイカ。詳言スレバ、人類ハ、タトヒ其ノ住居ノ地ノ異ナルニモカカハラズ、又其ノ民族ノ異ナルニモカカハラズ、孰レモ人類デアルト云フ點ニ於テ、共通ノ性質ヲ持ツテ居ルガ故ニ、其ノ社會生活上ノ必要ハ自ラ互ヒニ類似スベキモノデアツテ、此ノ各自ノ社會生活上ノ必要ガ、互ヒニ類似デアルコトカラシテ、各民族間ニ類似ノ思想ヤ信仰ヤ風習ガ自ラ形成セラルルニ至ツタモノデアルト觀察サルベキデアロウ。勿論、皮相的ニ之ヲ觀察シテ、或ル場合ニ

ハ其ノ相互間ニ於ケル社會的交通 (Social Intercourse) ニ基ク
 傳承 (繼受) ノ結果デアルトシテ、説明サレ得ルヤウナ場合モ
 アラウガ〔註〕

〔註〕 例ヘバ「ナポレオン」法典ガ「イタリー」「ベルギー」等ノ諸國ニ
 傳承サレタガ如キ、若クハ明治維新以後ニ於ル我國ノ立法ノ如
 キハ、是ガ顯著ナルモノデアラウ。

然シ此ノ傳承ノ結果トシテハ、其ノ居住ノ地ヲ異ニスル異種
 ノ種族ガ、類似ノ文化現象ヲ全ク同時ニ持ツニ至ツタ場合ハ之
 ヲ説明スルコトガ出來ナイ。蓋シ此ノ場合ニハ此ノ兩種族間ニ
 因果ノ關係 (Causal connection) ガ存スルト見ルコトガ出來ナイ
 カラデアアル〔註〕。

〔註〕 相接近シテ居ル異種ノ種族ガ、時ヲ異ニシテ互ヒニ類似ノ文
 化現象ヲ持ツニ至ツタ場合ニ於テモ、之ガ發生原因ハ、必ズシ
 モ相互ノ間ニ於ル社會的交通ニ基ク傳承 (繼受) ノ結果トノミ
 ハ、論ジ去ルコトハ出來ナイ。例ヘバ、結婚式舉行ノ際ニ卵ヲ
 用フル慣習ハ、一般ニ原始的民族ノ間ニ行ハルルコトデハアル
 ガ、此ノ慣習ガ斯ク一般ニ廣ク行ハルルニ至ツタコトハ、必ズ
 シモ一民族カラ他ノ民族ニ傳承サレタ結果デハナイ。寧ロ自發
 的ニ其ノ民族ノ間ニ發生シタモノトシテ説明サレル場合ガ決シ
 テ少クナイ。蓋シ其ノ各民族ガ結婚式ニ卵ヲ用フルコトニ依ツ
 テ、表示セントスル思想ハ必ズシモ同一デハナイノミナラズ、原
 始的民族間ニ於テハ、動作ヲ以テ或ル種ノ思想ヲ表示スル方法
 ハ、極メテ制限サレテ居ル結果、類似ノ動作ガ異ツタ場合ニ、異

ツタ意義ニ於テ、用ヒラルルコトガ屢々アルモノデアラカラル。例ヘバ或ル民族ニ於テハ、結婚式ニ卵ヲ用フルコトハ、之ニ依ツテ其ノ多産(Fecundity)ヲ助長スル意味デアリ、或ル民族ニ於テハ、其ノ白色ニ依ツテ將來ノ幸運ヲ祝福スル意味デアリ、又或ル民族ニ於テハ、卵ノ外殻ノ破レ易キコトヨリシテ、結婚完結(床入り——破瓜)ヲ容易ナラシムル象徴トシテ結婚式ニ之ヲ用フルモノデアリ、更ニ或ル民族ニ至ツテハ、分娩(Delivery)ヲ助長スル意味ニ於テ之ヲ用フルモノデアリ。斯ノ如ク結婚式ニ卵ヲ用フルコトニ對スル解釋ノ相違ハ、即チ此ノ慣習ガ傳承ノ結果ニ基クモノデハナイコトヲ語ルモノデアリ。

之ニ加フルニ、表面的ニ傳承(繼受)ノ關係ガアルトシテモ、若シ此ノ兩種族間ニ其ノ通有性ニ基ク類似ノ社會生活上ノ必要(欲望)ガ存シテ居ラナカツタナラバ、其ノ傳承ノ結果ハ、或ヒハ一時ノ流行ヲ惹起スルコトガアツテモ、決シテ、ソレハ永続的ノ慣習乃至制度トシテハ殘ラナカツタデアラウ。從ツテ表面的ニハ傳承ノ結果ト觀察シ得ル場合デアツテモ、ソレハ單ニ傳承ノ形式ヲ經テ、ヨリ早く其ノ發生ヲ見タニ過ギナイノデアツテ、タトヒ其ノ傳承ノ關係ガナクトモ、既ニ其ノ間ニ、類似ノ社會生活上ノ必要ガ存シテ居ルナラバ、早晚ハ其ノ發生ヲ見ルベキ性質ノモノニ外ナラナイノデアリ。別言スレバ、甲ノ社會ノ需要ニ基イテ發生シ發達シタル法律ガ、傳承サレテ乙ノ社會ノ法律トナツタ現象ハ、乙社會ノ社會生活上ノ必要(需要)ガ、傳承(繼受)ノ形式ヲ通シテ、乙社會ニ其ノ法律ヲ發生セシメ

タニ外サラスモノデアツテ、斯クシテ、甲ノ社會ト乙ノ社會トガ類似ノ法律ヲ有スルニ至ル根本的基礎ハ、實ニ甲ノ社會ノ需要ト乙ノ社會ノ需要トガ、類似シテ居ツタコトデナケレバナラナイ。

之ヲ要スルニ、自分ハ超國家的全人類の婚姻法ノ存在ノ可能ヲ主張スルモノデアル〔註一〕。其ノ世界各國ノ婚姻法ガ、地域のニ、時代的ニ、又國民的ニ差異ガ存スルノハ、蓋シ物的條件——氣候、地理、經濟事情等——ト心的條件——民族觀念、道德、宗教等——トガ相互ニ繼續的ニ影響ヲ與ヘタル結果ニ、他ナラナイノデアツテ〔註二〕此ノ表面的差異ハ、此ノ差異存スルガ爲ニ、其ノ奥底ニヒツム人類ノ本質的的基本的ノ共通性ニ基ク婚姻法ノ存在ヲ否定スルモノデハナイノデアル。別言スレバ各國ノ婚姻法ハ、全人類性ニ根底ヲ有スル原則ガ、地域のニ、時代的ニ、國民的ニ各異各種ノ相ヲ表現シタルニ過ギナイノデアツテ、之ヲ譬フレバ、各國法ノ根源ヲナス原則法ト各國法トノ關係ハ、一大樹幹ト其ノ一分枝トノ關係ニ他ナラナイノデアル。

〔註一〕 民法編纂ノ企ハ、明治三年太政官ニ制度局ヲ設ケタノニ始マル。當時、同局ノ民法編纂會ノ會長デアツタ江藤新平氏ノ言葉ハ、此ノ意義ニ於テ誠ニ意味深イモノガアル（穗積陳重博士法窓夜話二〇八頁以下参照）。即チ同氏ハ「日本ト歐洲各國トハ各其風俗習慣ヲ異ニスト雖モ民法無カル可カラザルハ則チ一ナリ。宜シク佛國ノ民法ニ基キテ（フランス民法ノ邦譯ヲ殆ンド

其ノ儘ニ日本ノ民法ト爲ヨウトスル敷キ寫シ主義ニ依ツテ) 日本ノ民法ヲ制定セザル可ラズ」ト云フ意見ヲ持ツテ居ツタトノコトデアル。津田眞道先生ハ之ヲ評シテ「秀吉ノ城普請ノヤウニ一夜ニ日本ノ五法ヲ作り上ゲヨウトスルハ無理ナ話デ到底出來ヨウ筈ガナイ」ト云ハレタトノコトデアル (同書二一〇頁)。然シ「フランス」人モ日本人モ共ニ等シク人類デアル。從ツテ其ノ間ニハ人類共通ノ性質ガ存スル。ソレ故ニ「フランス」人ニ適當ナ民法ハ又日本人ニモ適當ナ民法デナケレバナラヌ筈デアル。此ノ點ニ於テ、江藤新平氏ノ意見ニハ誠ニ意味ノ深イモノガアル。然シ又、「フランス」人ト日本人トノ間ニハ、全ク其ノ人類ノ通有性ニ基ク同一原理ニ依ツテ、支配セラルル方面ガアルト同時ニ、又ソレゾレ固有ノ風俗、國民性乃至經濟事情等ニ適合スル各國獨自特有ノ原理ニ依ツテ、支配セラルル方面モアルト云フコトヲ、力説セラレタ點ニ於テ津田眞道先生ノ言葉ニモ亦意味深イモノガアル。

〔註二〕 穂積陳重博士ハ、嘗テ一國ノ法律ハ、固有法分子 (Indigenous element) ト繼受法分子 (Foreign element) トノ二要素ヨリ成ルコトヲ教示セラレタ (N.Hozumi, Lectures on the New Japanese Civil Code as material for the study of comparative jurisprudence, pp. 31. 32. 同氏法窓夜話二一四頁乃至二一七頁。穂積重遠博士法理學大綱八〇頁參照)。而シテ其ノ繼受法ノ分子ガ存スルト云フモ、結局ハ其ノ繼受ノ行ハレタ各民族ガ、互ヒニ類似ノ欲望ヲ有シテ居タコトヲ、前提トシテ、法ノ繼受ガ可能デハアルマイカ。果シテ然ラバ、繼受法ハ其ノ繼受ノ行ハレタ各民族ノ通有性ニ基ク法デナケレバナラナイ。又其ノ固有法ノ分子トハ、結局ハ此ノ通有性ニ基ク法ガ、單ニ其ノ國ノ固有ノ風俗、國民性、經濟事情等ニ依リテ影響サレタル部分ニ外ナラヌ

部分デハアルマイカ。從ツテ一國ノ文明ノ程度ハ、其ノ國ノ法律ニ於ケル固有法分子ニ對スル繼受法分子ノ分量ノ増加デ秤ルコトガ出來ルトスレバ (The higher the community stands in the scale of civilization, the greater is the proportion of the foreign to the indigenous element. —N. Hozumi, op. cit. p. 32. 同氏、法信說論評——法學協會雜誌第二十六卷三號殊ニ一七六頁以下參照) 法ノ進化スベキ又其ノ進化ノ行程ハ、人類ノ通用性ニ基ク法ガ地域的ニ、時代的ニ、又國民的ニ受クル影響ノ減少シツツアル現象デナケレバナラナイ。

而シテ自分ガ茲ニ試ミントスル仕事ハ、此ノ國家ヨリモ更ニ廣イ社會ヲ規律スル全世界的ニシテ且ツ全人類的ノ婚姻法ヲ探究スルコトニ依ツテ〔註一〕〔註二〕婚姻法ガ進化スベキ基準ヲ知り、之ヲ知ルコトニ依ツテ現在及ビ將來ノ國法ニ對シ、或ヒハ解釋的ニ、或ヒハ立法的ニ材料ヲ供セントスルコトデアル。此ノ事ハ在來行レテ居タ各國婚姻法規ノ異同ヲ比較スルコトニ依ツテ其ノ利害得失ヲ批判スル研究方法ト共ニ、婚姻法研究ノ重要ナル一方面ヲ爲スベキモノデアアルマイカ〔註三〕。

〔註一〕 但シ其ノ比較探究ノ對照トナリ得ル國ヲ、自國ト同種ノ開化、類似ノ經濟的生活、其他歷史上ノ關係等ニ依リ類似ノ法律生活ヲ有スル國ノ法制ニ限り、此等ノ各國ノ法制中ヨリ普遍的元素ヲ抽出セントスルモノ (「ラムベール」E. Lambert.) ト、普ネク總テノ開明諸國ノ法制ニ共通ナル原則ヲ抽出セントスルモノ (「サレイユ」R. Saleilles.) ト、更ニ其ノ探究ノ手ヲ古今未開民族ノ法制ニマデ延バシ、之ヲ比較研究セントスルモノトガア

ル(「ポスト」A. H. Post.)。前二者ハ孰レモ其ノ普遍的元素ヲ抽出スルコトニ依ツテ、自國ノ法律ノ制定(及ビ解釋)ノ參考トナサントスルコトヲ、其ノ當面ノ目的トシテ居ルトコロカラ比較立法學(*la législation comparée*)ト稱セラレ、後者ハ未開民族ノ法制ヲ比較研究スルコトニ依ツテ、史的材料ノ缺ケタル古代原始民族ニ關スル法制狀態ヲ類推シ、以テ綜合的ニ法律ノ進化論ヲナサントスルモノデアルカラ、人種學的法律學(*die ethnologische Jurisprudenz*)ト稱セラレテ居ル(穗積重遠博士法理學大綱七六頁以下参照)。

〔註二〕斯クノ如クニ法律ヲ世界的ニ綜合シテ觀察シヨウトスル企テハ、從來、國家間ノ爭鬪、人種間ノ軋轢ヲ力説シテ、世界各國ハ各自其ノ獨自ノ國民性、民族精神ヲ有スルガ故ニ、到底融合スルコトノ難キヲ説ク者カラ之ヲ觀レバ、恐ラクハ不可能ノ事トシテ一笑ニ附セラルルコトト思フ。又婚姻制度ノ起原ト題シテ現代ト全ク懸ケ離レタ時代ノ人類ノ歴史ヲ研究スルコトハ、閑人ノ道樂トシテ考ヘラルル人モ少クナイコトト思フ。然シ自分カラ之ヲ觀レバ、第一ノ點ニ關シテハ、斯クノ如キ國家主義的乃至人種主義的の見解ニ基イタ法律觀コソ、人類ヲシテ永遠ノ國家的乃至人種の鬪爭ノ渦中ニ置カシムルモノデハアルマイカ。全人類ガ本質的ニ同一性ヲ有スルコトヲ信ズル者ノ、歩ムベキ道ハ世界主義的乃至全人類の見解ニ基イタ法律觀デハアルマイカ。若シモ「國民トシテ飯ヲ食フ、結婚スルト云フヨリモ、人間トシテ飯ヲ食フ、結婚スル」(穗積重遠博士民法講義要領一頁)モノデアルト、觀察サルベキデアルトスレバ、國家ヲ單位トスル各自特殊ノ國民トシテノ生活ヲ律スルコトニ專ラデアツタ近代法律ハ、超國家的ニ、世界的ニ、全人類的ニ改造サルベキモノデハアルマイカ。更ニ第二ノ點ニ關シテハ、西村眞次氏

ガ之ヲ明快ニ説明シテ居ラレル。——若シ私達ノ今日ノ文化ノ中、ドコカニ惡イモノ、誤ツテキルモノ、望マシカラヌモノガアルナラバ、私達ハ其惡クナカツタ前、誤ラナカツタ前、望マシカラヌヤウニナラナカツタ前ニ戻ツテ、善ク、誤ラヌ、望マシイ點カラ再度ノスタートヲ切ルコトニ努力セネバナラヌ——ト。是レ婚姻法ノ研究範圍ガ人類ノ國家生活以後、記述歴史以後ニ限ラルベキモノデナイコトヲ主張スル所以デアル（後段三二頁三三頁參照）。

〔註三〕 法律學ニ於テ法律ヲ時間的ニ、空間的ニ、又國民的ニ比較觀察スルコトニ依ツテ、地域的ノ、時代的ノ、若クハ國民的ノ差異ト類似トヲ明ニスルト云フ方面モ存スルト同時ニ、又比較ソレ自體ヲ一ノ Science トセズシテ、單ニ一ノ method トシテユク方面モアロウ。前者ハ博物學者ガ其ノ動植物ヲ綱 (Class) 目 (Order)、科 (Family) ニ分類スルガ如ク、其ノ差異ト類似トニ從ツテ、全ク自然科學的觀察ヲ以テ法律ヲ分類スルコトソレ自體ガ手段デアリ且ツハ同時ニ目的デアルガ、後者ニ於テハ比較ハ或ル種ノ原理探究ノ手段ニ過ギナイ (N. Hozumi, op. cit. pp. 29. et seq, 殊ニ IV Methods of Comparative Jurisprudence)。「ウエスターマーク」氏ハ此ノ點ニ關シ次ノ如ク述ベラレテ居ル——The task of comparative sociology is not restricted to that of classifying the different phenomena of culture with a view to making out their distribution in geography and history. Its ultimate object is, of course, the same as that of every other science, namely, to explain the facts with which it is concerned, to give an answer to the question, Why? Hence, when similar customs, beliefs, legends, or arts, are found among different peoples, the question arises how the similarity

is to be accounted for. (History of Human Marriage, vol. i. p. 2.) —要スルニ此ノ二ツノ分科ハ共ニ親族的ノ關係ニ立ツモノデアツテ、前者ハ後者ノ補助的地位ニアルモノト觀ルコトガ出來ヨウ (遊佐慶夫氏「法律史實ト法律史」トノ説明——早稻田法學第一卷同氏「ハンムラビ法典ノ研究」一七、一八頁參照)。

III. 參考書目

第一、邦文(ABC順)

- (1)、秋山蓮三氏、内外普通動物誌 (脊椎動物篇及ビ無脊椎動物篇)。
- (2)、穗積陳重氏、「タブー」と法律 (土方教授在職二十五年紀念私法論文集一頁乃至一二九頁)
- (3)、穗積重遠氏、法理學大綱
- (4) 河田嗣郎氏、家族制度研究
- (5)、西村眞次氏、文化人類學
- (6)、岡村周諦氏、生物學精義
- (7)、砂川寛榮氏、日本家族制度史研究
- (8)、高橋清吾氏、歐洲社會制度發達史
- (9)、建部遜吾氏、普通社會學 (殊ニ第三卷社會靜學)
- (10)、田崎仁義氏、家族制問題 (現代社會問題研究第二十一卷)

- (11)、戸水寛人氏、法律學綱領
- (12)、内田清之助氏、鳥類講話
- (13)、和田于一氏、婚姻法論

第二、外國文

- (1)、Bebel (August), *Woman in the Past, Present and Future*. Trans. by H.B.Adams Walther, London.
- (2)、Bosanquet(H.), *The Family*. London, 1915.
- (3)、Bryce (James, Lord), *Studies in History and Jurisprudence*, 2 vols. Oxford, 1901.
- (4)、Burge (William), *Commentaries on Colonial and Foreign Laws*. Ed. by A. Wood Renton and G. Grenville Phillimore. 4 vols. London, 1907—1914.
- (5)、Burne(Charlotte Sophia), *The Handbook of Folklore*. New edition revised and enlarged by. London, 1914.
- (6)、Darwin (Charles), *The Descent of Man*. London, 1913.
- (7)、Engels (Fr.), *The Origin of the Family, Private Property and the State*, Trans. by Ernest Untermann, Chicago, 1902.
- (8)、Howard(G.E.), *A History of Matrimonial Institutions*. 3 vols. Chicago & London, 1904.
- (9)、Hozumi (N.), *Lectures on the New Japanese Civil Code*. Second and revised edition. Tokyo, 1912.

-
- (10)、——Ancestor-Worship and Japanese Law. Third and revised edition. Tokyo, 1913.
- (11)、Hutchinson (Walter), Customs of the World. 2 vols. London.
- (12)、Johnston (Sir Harry), The Living Races of Mankind. 2 vols. London.
- (13)、Joyce (T.Athol) and Thomas (N.W.), Women of All Nations. 2 vols. London.
- (14)、Lang (Andrew) and Atkinson (J.J.), Social Origins and Primal Law. London, 1903.
- (15)、Letourneau (Ch.), The Evolution of Marriage and of the Family. Trans. London, 1904.
- (16)、Lubbock (Sir John), The Origin of Civilisation and the Primitive Condition of Man. Seventh edition London, 1912.
- (17)、McLennan (J.F.), The Patriarchal Theory. London, 1885.
- (18)、——Studies in Ancient History. The Second Series. Ed. by his widow and A.Platt. London, 1896.
- (19)、Maine (Sir Henry Sumner), Ancient Law. London, 1885.
- (20)、Morgan (L.H.), Ancient Society. Chicago, 1907.

-
- (21)、Parsons (E.C.), *The Family*. New York, 1906.
- (22)、Schuster (Ernest J.), *The Principles of German Civil Law*. Oxford, 1907.
- (23)、Starcke (C.N.), *The Primitive Family in its Origin and Development*. London, 1889.
- (24)、Sutherland (Alex.), *The Origin and Growth of the Moral Instinct*. 2 vols. London, 1898.
- (25)、Westermarek (Edward), *The History of Human Marriage*. Fifth edition rewritten. 3 vols. London, 1921.
- (26)、—— *The Origin and Development of the Moral Ideas*. 2 vols. London, 1912—1917.
- (27)、Williams (Ivy), *The Sources of Law in the Swiss Civil Code*. Oxford, 1923.

以上ノ外、雜誌論文其他部分的ニ引用シタ著書、論文ノ類ハ之ヲ引用シタ場所ニ掲グルガ故ニ、茲ニハ之ヲ省略スル。

第二章 婚姻制度ノ起源

第一節 總 論

I. 婚姻ノ意義

(1) 序言

「ダーウキン」(Charles Darwin) ハ其ノ名著 *The Descent of Man and Selection in Relation to Sex* ニ於テ謂フテ居ラレル——「ジョン、ラボック」(Sir J. Lubbock) ノ所謂 *Communal Marriage* [註一]即チ一族内ノスベテノ男女ガ、互ヒニ皆ナ夫デアリ妻デアルト云フ婚姻制度ヲ、持ツテ居ル種族ガ、今日ニ於テモ尙ホ存在シテ居ルト云フコトガ、主張サレテ居ル。勿論、多數野蠻民族ノ其ノ放縱淫奔ハ、吾人ヲシテ驚カシムルニ足ルモノガアリ、加フルニ此ノ種ノ問題ニ關スル McLennan (*Primitive Marriage.*), Lubbock (*The Origin of Civilisation.*), Morgan ('*Proc. American Acad. of Sciences*', vol. vii. Feb. 1868.), Bachofen (*Das Mutterrecht.*) 等ノ學者ノ研究ハ、頗ル精細ナルモノガアツテ、且ツ此等ノ學者ハ *Communal Marriage*——兄弟姉妹間ノ近親結婚ヲモ此ノ中ニ包含サセテ——ヲ以テ、婚姻ノ原始的形式デアツテ、又全世界ヲ通ジテ行ハレタ普遍的形式デアレル (*Communal marriage.....was the original and universal form throughout the world*) ト考ヘテハ居ルガ [註二] 而モ吾人ヲシテ此ノ雜婚制ガ、總テノ原始社會ノ特徴デアルコトヲ信

ゼシムルニハ、更ニ幾多ノ證據ヲ要スルモノガアルト思フ。現ニ南「アフリカ」ノ内地ヲ廣ク旅行シ、多數ノ野蠻人ノ慣習ニ付イテヨク知ツテ居ル「スミス」(Sir A. Smith)氏ハ、自分ニ告グテ曰ク「女子ガ其ノ部落ノ財産デアルト考ヘラルル様ナ種族ハ決シテ存在シテ居ラナイ」ト。思フニ此ノ點ニ關スル學者間ノ異論ハ、一般ニ婚姻ナル語ノ意義如何ニ依ツテ、生ズルモノニ他ナラナイ——ト (Ibid., pp. 896, 897)。

斯クシテ、「ダーウキン」ハ雌雄淘汰 (Sexual Selection) ヲ研究スル上ニ於テ、必要ナル婚姻ノ意義ヲ定メタ (後段參照)。私モ亦此ノ「ダーウキン」ノ研究方法ニ倣ツテ、社會制度トシテノ婚姻ノ起源ヲ論ズルニ當ツテ、先ヅ婚姻ノ意義ヲ定メル必要ガアル。蓋シ之ヲ現代ニ付イテ云フモ、婚姻ノ意義ハ必ズシモ一致シテ居ラナイ〔註三〕。法律家ノ云フ婚姻ハ多クノ場合ニ於テ、成文法的色彩ヲ多量ニ含ミ、宗教家ノ云フ婚姻ハ、同様に宗教的色彩ヲ動物學者ノ云フ婚姻ハ、同様に動物的色彩ヲ帶ビテ居ツテ、法律家ノ婚姻ト呼ブモノ、必ズシモ動物學者ノ所謂婚姻デモナク、又宗教家ノ所謂婚姻デモナイノデアアル。而モ此ノ婚姻ノ意義如何ハ、先キニ「ダーウキン」ガ喝破セシガ如ク、婚姻ノ最初ノ形式ガ、所謂雜婚制デアツタカ否カノ問題ニ對スル結論ヲモ異ニスルニ至ルデアラウシ、又用語ノ不明確ハ、研究ヲシテ益々不明晰ナラシムルモノガアルト思フカラデアアル。

〔註一〕 Communal Marriage ノ意義ニ關シテハ、後段八一頁〔註三〕参照。

〔註二〕 See also Lubbock, The Origin of Civilisation, etc., pp. 79. 80.

〔註三〕 木村徳藏氏ハ其ノ著「兩性問題ト生物學」ニ於テ、婚姻ニ關スル種々ノ定義ヲ對比シテ居ラレル（同書三六二、三六六頁）、必要部分ヲ抜粹スレバ、

- (1)。小説家ハ、結婚ヲ定義シテ、「人類求愛ノ最極」デアルトナシ、
- (2)。「ラスキン」(Ruskin) ハ、結婚トハ、一時的奉仕ガ不斷ノ奉仕ニ、且ツ發作的ノ愛ガ永久ノ愛ニ變ゼシコトヲ表ハス契約ノ調印ニ外ナラナイト定義シ、
- (3)。法律家ハ、結婚トハ、法律上夫ト妻トノ關係ニ於テ結合セル一人ノ男子ト、一人ノ女子トノ身分デアルト爲シ、
- (4)。基督教ヲ信ズル諸國デハ、結婚トハ相互ノ尊敬ト情愛トノ上ニ正當ニ基礎ヅケラレ、且ツ適當ニ是認サレ、死ニ至ルマデ夫婦トシテ同棲スル相互ノ任意ノ約束デアル。結婚ノ主要ナル目的ハ家庭ヲ作りテ、道德上並ニ社會的ノ純潔ヲ維持シ、種族ヲ繼續シ、人生ノ義務等ニ對シテ子供ヲ訓練スルニアルト解シテ居ル云々。

(2) 意義

動物ハ個體維持ノ作用 (Maintainable Function of Individual) ノ爲メニ、若クハ種族維持ノ作用 (Maintainable Function of Race) ノ爲メニ、種々ノ形式ノ群居生活ヲ營ンデ居ル。餌ヲ取

ル爲メノ鷗ノ群居、眠ル爲メノ蝙蝠ノ群居ノ如キハ、共ニ其ノ生存上ノ群居生活デアラウシ、又多クノ肉食ノ哺乳類及ビ鳥類ニ於テ見出サルル生殖時期ニ於ケル集合ハ、其ノ生殖上ノ群居生活デアラウ。而シテ此ノ生殖上ノ群居生活ヲ爲ス者ノ間ニ於テ、孵化乃至育兒等ノ爲メニ、一定ノ雌雄(親)ガ、多少持續的ノ共棲生活ヲ爲スモノガアル。例ヘバ沙鷄科 (Pteroclididae) 燕科 (Hirundinidae) ニ屬スル諸鳥ノ如キハ是デアアル。而シテ、此ノ協同生活關係ヲ以テ、直チニ婚姻ト稱スル學者モアル。例ヘバ「ダーウキン」ガ、此處ニ婚姻トハ、養育期 (Breeding-Season) 若クハ一年間ヲ通ジテ、一雄ガ一雌ト共棲シ、極力其ノ雌ノ獨占ニ努ムル場合ニ、其ノ動物ヲ博物學者 (Naturalist) ガ一雌一雄ノ (Monogamous) 動物デアルト稱シ、若クハ一雄ガ多雌ト共棲スル場合ニハ、之ヲ多雌一雄ノ (Polygamous) 種族デアルト稱スルノト、同様ノ意味デアルト云フガ如キ〔註一〕「スターク」 (C.N. Starcke) ガ、廣義ニ於テ婚姻トハ、單ナル男女間ニ於ケル瞬間的ノ結合ヲ云フニハ非ズシテ、其ノ結合ガ持續スル間ハ、彼等ハ其ノ生計ノ資ヲ得ント共同シテ努力スル所ノ結合 (即チ生活ヲ共同ニスル所ノ結合) ヲ云フノデアルトナスガ如キ〔註二〕〔註三〕若クハ「ウエスターマーク」ガ婚姻トハ、單ナル繁殖動作 (the mere act of propagation) ダケヲ云フモノデハナクテ、其ノ子供ノ出生後マデモ續ケルトコロノ、雌雄間ノ多少永續的ナ結合ヲ云フモノデアアル〔註四〕ト爲スガ如キハ

共ニ是ニ屬スル。然シ此ノ意味ニ於ケル婚姻ハ、全ク博物學 (Natural History) 上ニ於ケルモノデアツテ、吾々人類ノミ有スル獨占的現象デハナイノデアル。サモアレ、「ウエスターマーク」ハ其ノ名著ニ The History of Human Marriage ナル表題ヲ附シテ、特ニ「人類ノ」結婚ノ沿革史デアルコトヲ示サント企テタ〔註五〕。

〔註一〕 Darwin, op. cit. p. 897

〔註二〕 Starcke, The Primitive Family, p. 13.

〔註三〕 「フリードリツヒス」(Dr. Friedrichs) ハ、此ノ「スターク」ノ與ヘタ婚姻ノ定義ヲ、大體容認シテハ居ラレルガ、猶ホ不充分ナル點ガアルトナサレテ、婚姻ヲ次ノ如クニ定義シテ居ラレル——Eine von der Rechtsordnung anerkannte und privilegierte Vereinigung geschlechtsdifferenter Personen, entweder zur Führung eines gemeinsamen Hausstandes und zum Geschlechtsverkehr, oder zum ausschliesslichen Geschlechtsverkehr. (Familienstufen und Eheformen, ZVR., X, 253—56.) (Quoted from Howard, op. cit. vol. i. p. 102)。「ウエスターマーク」ハ此ノ「フリードリツヒス」ノ與ヘタ定義ヲ Social Institution トシテノ婚姻ノ定義トシテハ、最善ノモノデアルトナサレテ居ル (Idem), The Origin, etc., vol. ii. p. 364)

〔註四〕 Westermarck, op. cit. pp, 19,20. (3. Edit.).

Idem, The Origin, etc., vol. ii. p. 364.

「ウエスターマーク」ハ此ノ定義ニ對シテ更ニ Social Institution トシテノ婚姻ノ定義ヲ其ノ第五版ニ於テ與ヘテ居ラレル (Ibid., vol. I. pp. 26. 27. See also The Origin. etc., vol. II. p. 364)

〔註五〕 The marriage of mankind, as we have seen, is not an isolated phenomenon, but has its counterpart in many other animal species and is probably an inheritance from some pre-human ancestor. It is in order to emphasise this that I have called my book “the history of human marriage,”.....(Westermarck, op. cit.vol. i. p. 72.) The expression “human marriage” will probably be regarded by most people as an improper tautology. But, as we shall see, marriage, in the natural history sense of the term, does not belong exclusively to our own species. (Ibid., p. 6 (3. Edit.))

私ガ茲ニ云フ婚姻ハ、斯クノ如キ博物學上ノ意義ニ於テ、云フモノデハナクテ、社會制度トシテノ婚姻ヲ云フモノデアアル。別言スレバ單純ナル生物學的現象 (Biological Phenomena) トシテノ婚姻ヲ云フモノニ非ズシテ、社會學的現象 (Sociological Phenomena) トシテノ婚姻ヲ云フモノデアアル。蓋シ本稿ハ社會制度トシテノ婚姻ノ起源ヲ、探究スルニアルカラデアアル。勿論、婚姻ガ社會制度トシテ確立スルニ至ツタノハ、其ノ根底ヲ遠ク博物學上ノ意義ニ於ケル婚姻ヨリ發シクモノデアツテ、社會制度トシテノ婚姻ノ基調ハ、博物學上ノ意義ニ於ケル婚姻ニ、深ク根ザシテ居ルモノデハアルガ——從ツテ又兩者ノ間ニ、基礎的差異ノ存スル筈モナイノデアアルガ——而モ尙ホ此ノ兩者ノ間ニハ、次ノ如キ重要ナル差異ガ存スルモノデハナカロウカ。詳言スレバ、兩者ハ共ニ異性間ノ協同生活關係〔註一〕デハアルガ、

社會制度トシテノ婚姻タルニハ、其ノ者ノ屬スル社會ニ於ケル慣習又ハ法律ニ從ツテ、婚姻トシテ公認セラレタルモノデナケレバナラナイ。元來、社會ハ其ノ道德的感情ニ基イタトコロノ婚姻ニ關スル種々ノ慣習又ハ法律ヲ持ツテ居ル。例ヘバ或ル一定ノ人々ノ間ニ、婚姻關係ノ存在スルニ至ルコトヲ、禁止スル慣習乃至婚姻締結ノ方式ニ關スル慣習等ハ即チ是デアル。而シテ社會制度トシテノ婚姻ハ、即チ此ノ種ノ慣習ナリ法律ナリノ要求スルトコロノ、條件ヲ充タシタ男女間ノ協同生活關係ヲ云フデアル〔註二〕。勿論此ノ種ノ道德的感情ハ、其ノ社會ノ沿革、文明ノ程度ニ應ジテ、各社會必ズシモ一様デハナイ。從ツテ又婚姻ニ關スル慣習モ法律モ、必ズシモ同一ノ事項ヲ同様ニ規律シテ居ルモノデハナイ。極メテ野蠻的感情ニ基イタ、野蠻の慣習ノ行ハレテ居ル社會モアラウシ、又高度ノ文明ニ浴シ、精練サレタ感情ニ基イタ規範ヲ有スル社會モアラウ。例ヘバ男子ノ婚姻資格ニ關シ、臺灣ノ「アタヤール」人 (The Atayals)、¹「ルスン」ノ「ガッダン」人 (The Gaddanes of Luzon)、²「セーラム」ノ「アルフル」人 (The Alfoors of Ceram)、³「ボルネオ」ノ「ダイアク」人 (The Dyaks of Borneo)、上「アサム」ノ「ナガ」人 (The Nagas of Upper Assam) 等ノ間ニ存スルト云ハレテ居ル——男子ハ自己ノ剛勇ノ表象トシテ、少クトモ人間ノ首ヲ一個得タ後デナケレバ、婚姻スルコトガ出來ナイ——「云フ慣習ト〔註三〕優生學 (Eugenics) 乃至優境學 (Euthenics) ヲ

婚姻法ニ應用シ、花柳病者、癩癩病者、濫酒習癖者等ノ如キ惡質男女ノ婚姻ヲ禁止シ、以テ人種ノ體質的改善ヲ計ラントスル米國其他「ノルウエー」「スウエーデン」等ノ婚姻法〔註四〕トヲ比較スルナラバ、其ノ文化ノ點ニ於テ、思ヒ半バニ過ギルモノガアラウ。而モ夫々其ノ社會ノ慣習、法律ニ從フコトニ依ツテ、夫々其ノ社會ノ道德的感情ヲ満足サセル點ニ至ツテハ、全く同一デアツテ、均シク其ノ社會ノ、其ノ時代ノ社會的規範タル本質ヲ失フモノデハナイノデアル〔註五〕。從ツテ又苟クモ其ノ社會ノ慣習法律ニ從ツテ、締結サレタ婚姻デアル以上ハ、其ノ慣習、法律ノ内容ノ如何ヲ問ハズ、均シク社會制度トシテノ婚姻トシテ觀察セラルベキモノデアル。

〔註一〕 從ツテ同性間ノ性的關係 (Intercourse between Individuals of the Same Sex. Homosexuality. — See Westermarck, The Origin, etc., vol. ii, ch. XLIII.) ハ、假令社會制度トシテ觀察サレ得ル場合デアツテモ、尙ホ婚姻トナルコトハナイ。

〔註二〕 既述シタルガ如ク婚姻ヲ以テ、公認セラレタル男女間ノ協同生活關係デアルトナス他、我民法ニ於テハ、斯クノ如キ協同生活關係ヲ創設スルコトヲ目的トスル法律行爲、即チ結婚行爲ヲ指シテ、婚姻ト云フ場合ガアル。例ヘバ民法第七百九十八條ノ「婚姻ヨリ生ズル一切ノ費用」トカ、同八百二十條ノ「婚姻中ニ懷胎シタル子」トカ、ト云フ場合ノ婚姻ハ、前者即チ「夫婦タルノ關係」ヲ指スモノデアアルガ、例ヘバ民法第七百三十八條同七百三十九條同七百四十一條ニ云フ「婚姻ニ因リテ他家ニ

入りタル者」トカ、同七百六十五條乃至七百七十四條ニ云フ「婚姻ヲ爲ス」若クハ「再婚ヲ爲ス」トカ、ト云フ場合ノ婚姻ハ、後者即チ「結婚行爲」ヲ指スモノニ他ナラナイ。然シ社會制度トシテノ婚姻ヲ論ズル者ハ、婚姻ヲ以テ「夫婦タルノ關係」デアルトナシ、「結婚行爲」ハ「婚姻ノ儀式」トシテ之ヲ取扱フガ普通デアリ且ツ自然デアロウ。

〔註三〕 Westermarck, op. cit. vol. i p. 52.

〔註四〕 穂積重遠博士「婚姻制度講話」一四九頁以下及ビ同博士「離婚制度の研究」六一七頁以下参照。

〔註五〕 此ノ點ニ關シ、「ルトウルノヲ」(Ch. Letourneau) ノ一妻多夫婚ノ存在理由ニ關スル説明 (L'évolution du Mariage et de la Famille, Paris, 1888, trans. London, 1904.) ハ、誠ニ適切ナモノデアロウ。即チ—— I have no longer to prove that morality is variable and Perfectible, that it results from social life, and is only to be taken together with the other needs, desires, and necessities of the struggle for existence. Our moral sentiments are simply habits incarnate in our brain, or instincts artificially created; and thus an act reputed culpable at Paris or at London may be and frequently is held innocent at Calcutta or at Peking. In order to judge impartially of Polyandric marriage we must remember these elementary truths. (The Evolution of Marriage, pp. 73, 74.) 猶ホ高柳賢三氏「新法學ノ基調」四〇九頁乃至四一五頁参照。

從來「婚姻ハ共諾ニ成リテ、共諾ニ成ラズ」ト云フ言葉ガアル。是ハ、社會制度トシテノ婚姻ガ成立スルガ爲メニハ、當事者

間ノ共諾ノ外、更ニ慣習法律ニ依ル社會ノ公認ヲ要スルコトヲ雄辨ニ物語ルモノデアアル。婚姻ノ儀式ハ、此ノ社會ノ公認方法トシテ、沿革上屢々重要ナ役目ヲ演ジテ來タモノデアアル〔註一〕。之ヲ要スルニ、社會ノ此ノ種ノ公認ノ有無ハ、社會制度トシテノ婚姻 (A recognized marriage) ト、然ラザル男女間ノ結合 (An illicit connection) トヲ區別スル重要ナル要素 (element) ヲナスモノデアアル〔註二〕。本稿デハ、此ノ兩者ヲ區別スル爲メニ、便宜上前者ハ之ヲ「婚姻」ト呼ビ、後者ハ之ヲ單ニ「共棲生活」ト呼ブコトニスル。

〔註一〕 Westermarck, History, etc., vol. II. pp. 432, et seq.,

中川善之助氏「婚姻ノ儀式」(法學協會雜誌四四卷一號四八頁乃至七〇頁) 參照。

〔註二〕 C.S. Burne, The Handbook of Folklore, p. 203.

タダ茲ニ異性間ノ協同生活ト云フモ、常ニ必ズシモ性的生活若クハ子女ヲ擧ゲルコトノミヲ目的トスル、生活ヲ意味スルモノデハナイ。其ノ協同生活ノ本質ハ「相共ニ飲ミ、相共ニ食ヒ相共ニ寢ル」(Boire, manger, coucher ensemble est mariage, ce me semble.)〔註一〕ト云フコトニアアルモノデアアル。彼ノ婚姻ヲ以テ、其ノ家ノ祖先祭祀ノ繼承者ヲ得ルノ方法デアアル(Marriage was regarded as the Means of obtaining a successor to the sacra of the house) ト觀念スルガ如キハ、蓋シ祖先崇拜ノ

俗 (Ancestor-worship) ノ盛ナルガ爲メニ、受ケタ影響ニ他ナラナイ〔註二〕。從ツテ現在ニ於テハ、一家ノ戸主タラザル者若クハ將來戸主タリ得ザル者デアツテモ、法律上婚姻ヲ爲スヲ禁ゼラルルモノニ非ザルト同時ニ、現ニ一家ノ戸主タル者若クハ將來戸主タルベキ者デアツテモ、法律上他ヨリ婚姻ヲ爲スコトヲ強制セラルルコトハナイ

〔註一〕 Westermarck, History, etc., vol. I. pp 71, 72.

〔註二〕 我國ニ於テハ、從來、戸主若クハ其ノ家督相續人ニ對シテハ、獨身禁止ノ慣例 (Customary prohibition of celibacy) 存シ其ノ以外ノ家族ニ對シテハ、寧ロ獨身ヲ強制シ、此等ノ者ハ適法ノ婚姻ヲ爲スコトガ出來ナカツタ。蓋シ死後ニ於ケル祖先ノ幸福ハ、一ニ祖先祭祀ノ執行ニ依ルト思惟セラレタ時代ニ於テハ、一家ノ戸主タル者若クハ其ノ家督相續人が、其ノ祭祀ノ永續ヲ圖ルガ爲メニ婚姻ヲ爲シ、其ノ繼承者ヲ舉グルハ、將ニ其ノ祖先ニ對スル重大ナ義務デアルト考ヘラレタト同時ニ、其ノ以外ノ家族ニ對シテ、婚姻ヲ禁止シタノハ、蓋シ此等ノ者ハ、祭祀ヲ繼承スルガ爲メニ婚姻ヲ爲シテ、子ヲ舉グルノ必要存セズト思惟シタノニ依ルモノデアル (N. Hozumi, Ancestor-Worship and Japanese Law, pp. 129, et seq. H. Bosanquet, The Family, p. 23)。此ノ事ハ明治四年八月二十三日大政官布告ニ「華族ヨリ平民ニ至ルマデ互ニ婚姻被差許候條双方願ニ不及其時々戸長ヘ可届出事」トアリ、更ニ明治八年五月五日内務省指令ニ「次三男在官非職ニ拘ハラズ娶妻差許シ可然」トアルニ照シテモ、推察スルコトガ出來ル。蓄妾ノ制 (Legal recognition of concubinage) ノ如キ、若クハ大寶令ノ戸令ニ於テ無子ヲ以

テ離婚原因ノ劈頭ニ置キタルガ如キ、孰レモ婚姻ノ目的ヲ以テ祖先祭祀ノ繼承者ヲ得ルニアリト爲シタノニ歸因スルモノニ他ナラヌ。此ノ事ハ獨リ我國ニ於テノミナラズ、一般ニ廣ク行ハレタヤウデアル (Hozumi, op. cit. p. 129—131. Maine. Ancient Law. pp. 192, et seq. H. Bosanquet, op. cit. p. 25)

以上、述ベタルトコロニ從ツテ要約スレバ、茲ニ社會制度トシテノ婚姻トハ、「特定ノ男女間ニ於ケル協同生活關係デアツテ、其ノ屬スル社會ノ慣習又ハ法律ニヨツテ公認セラレタルモノ」ヲ云フノデアアル〔註〕。

〔註〕 建部遜吾博士ハ社會學上ヨリシテ、婚姻ヲ定義シテ「男女ノ有性的協同生活 (Sexual Association) ナリ」トナサレ(前掲書三九頁八四頁八五頁)、穗積陳重博士ハ男女ノ性交關係ガ、緩キ意義ニ於テモ、婚姻ト稱シ得ベキガ爲メニハ少クトモ、(1)性交ノ繼續的ニシテ且ツ終生的關係ナルコト、(2)固體的ニ定マリタル配偶者アルコト、(3)性交ノ排他的ナルコト、(4)其ノ性交關係ノ公認セラレタルモノナルコト、ノ要素ヲ具フルコトヲ要スト説カレテ居ル(「タブー」ト法律。八四頁八五頁)。サレド、建部博士ノ定義ハ、社會制度トシテノ婚姻ヲ説明スルモノトシテハ、果シテ適當ナリヤ。又穗積博士ノ説明ニ至ツテハ、(1)乃至(3)ノ要件ハ主トシテ、社會制度タル婚姻トシテ其ノ社會ノ公認ニ關スルモノニ非ザルナキカ。

II. 研究方法

(1) 序言

婚姻制度ノ起源ヲ探究スルニ先立ツテ、其ノ研究ノ方法ニ付テハ、特ニ一言シテ置ク必要ガアル。蓋シ研究方法ノ曖昧ハ、其ノ研究ノ徑路ヲ不明ニスルバカリデナク、其ノ方法ノ如何ハ研究ソレ自身ニ對シテモ、重大ナル影響ヲ及ボスモノデアラカラデアアル。就中、或ル資料ヲ觀察シ解釋スルニ當ツテ、其ノ觀察ノ方法、解釋ノ仕方ヲ異ニスル爲メニ、之ニ對シテ與ヘラレル價值ニ差異ヲ來スコトハ、其ノ最モ重大ナルモノデアロウ。例ヘバ後段ニ於テ詳述スルガ如ク、「バツホーフエン」(Bachofen)ガ神話乃至傳説ニ非常ナ注意ヲ拂フタノモ、「マツクレナン」(McLennan)ガ象徴若クハ遺風ニ大キナ價值ヲ與ヘタノモ、又「モルガン」(Morgan)ガ親族關係ヲ表ハス言葉ニ非常ナ重要サヲ認メタノモ、結局ハ、此等ノ學者ガ採ツタ研究方法ノ差異ガ、然ラシメタノニ他ナラナイ〔註〕。

〔註〕 此ノ點ニ關シテ「ウエスターマーク」ガ The various investigators have, in many important questions, come to results so widely different, that the possibility of thus getting any information about the past might easily be doubted. These differences, however, seem to me to be due, not to the material, but to the manner of treating it. (History of Human Marriage, 3. ed., 1901, p. 2.) ト云ハレテ居ルノハ誠ニ意義深イ言葉デアアル。

(2) 歴史上ノ記録 (Written Records)

在來ノ歴史上ノ記述 (written evidences of history) ハ、婚姻制度ノ起源ヲ探究スルニ付イテ、直接ノ資料ヲ供給スルモノデハナイ。蓋シ歴史ノ記述スルトコロハ、文明ノ程度ガ既ニ比較的高マツタ時代ニ始マルノデアツテ、其ノ以前ノ古式ニ關スル社會制度ノ起源及ビ其ノ初期ニ於エル發達 (The origin and early development of social institutions) ニ付テハ、吾々ニ何等直接ニ知識ヲ與フルモノデハナイカラデアアル。凡ソ、歴史上ノ記録 (written records) ニ基イテ遡リ得ル過去 (Historic Age) ハ、大體ニ於テ、五六千年ノ昔ニ過ギナイ。而モ近代科學ハ、人類ガ其ノ何百倍ト云フ極メテ舊イ昔カラ、地球上ニ棲息シテ居ツタモノデアルト云フ事實ヲ——勿論、過去幾十萬年ノ昔ニマデ遡リ得ルカト云フコトニ關シテハ、精確ナ年數ハ與ヘラレテハ居ラナイガ——最早、單ナル假説 (Hypotheses) トハ思ハレナイ程ノ確實サヲ以ツテ吾々ニ教ヘテ居ル。從ツテ記述的歴史ニ現ハレテ居ル最初ノ婚姻制度ガ、人類ノ有史以前 (Prehistoric Age) ニ於テモ有シタリシ婚姻制度ナルカ否カハ、之ヲ歴史上ノ記録ニ頼ツテノミ、究メルコトハ出來ナイ。更ニ他ノ資料、方法ニ基イテ講究セネバナラナイノデアアル。

或ヒハ、法律ハ人類ガ社會生活、殊ニ國家生活ヲ爲スニ至リテ、始メテ成立スルモノデアアルガ故ニ、國家以前ノ人類ノ生活現象ハ、法律學ノ取扱フベキモノデナイト云フ議論ガ考ヘラレ

ル。勿論、自分モ現在若クハ將來ノ法律ニ對シテ、最モ重要ナル資料ヲ與フルモノハ、人類歴史ノ展開ニ於テ、所謂人類ノ國家生活以後ニ於ケル生活現象ト、之ニ對應シテ發生シタ法的規範トノ研究デアルコトヲ否定スル者デモナイガ、サラバト云フテ、私ハ國家ノ有無乃至人類歴史ノ記録ノ有無ガ、直チニ以テ法律學ノ限界ヲ定ムルモノデアルトモ考ヘラレナイ。科學的考證ノ許ス限リニ於テハ、文獻ノ存セザル社會モ、文獻ノ存スル以後ノ社會ト同等ニ、法律學ノ對象トナルニ適スルモノ——否ナ對象トセネバナラヌモノ——ト考ヘルノデアル。蓋シ近世ニ於ケル進化論ノ教フル所ニ據レバ、文獻ノ存セザル社會ハ、内容的ニ之ヲ觀レバ、文獻ノ存スル社會ノ先行段階ヲ爲スモノデアツテ、兩者ハ確然ト區分サレタ限界ノアル、別個ノモノデハナイカラデメル。要ハ、婚姻制度ノ起源乃至其ノ初期ニ於ケル展開ヲ、科學的ニ探究センガ爲メニ、勢ヒ研究ノ範圍ガ有史以前ニモ遡ルノミデアル。

(3) 神話及ビ傳説

吾々ハ神ヤ君主ヤ支配者ガ、神ノ子、臣民乃至其ノ被支配者ノ爲ニ婚姻制度ヲ創設シタト云フ幾多ノ神話 (Myths) ヤ傳説 (Traditions) ヲ聞キ傳ヘラレテ居ル。例ヘバ「エヂプト」人ハ「メネス」 (Menes) ニ依ツテ、支那人ハ「フォヒ」 (Fohi) ニ依ツテ、又「ギリシア」人ハ「セクロプス」 (Cecrops) ニ依ツテ、

更ニ「インド」人ハ「スヴェタケツ」(Svetaketu)ニ依ツテ婚姻制度ヲ持ツニ至ツタモノデアルト云ハレテ居ル〔註〕。

〔註〕 Westermarck, The History, etc., vol. i, p. 105.

McLennan, Studies in Ancient History, p. 95.

Lubbock, The Origin of Civilisation and The Primitive Condition of Man, p. 69.

即チ支那ノ史紀ノ物語ル所ニ依レバ、人間ハ其ノ初メニ於テハ、生活方法ガ他ノ動物ト何等異ナルトコロガナカツタ。彼等ハ森林ノ中ニ漂泊シテ居テ、スベテ女子ハ其ノ共有ニ屬シテ居ツタガ故ニ、此ノ共產的性關係カラ生ズル子供等ハ、自分達ノ父ヲ知ラズ、單ニ自己ノ母ノミヲ知ツテ居ルニ過ギナカツタ。

「ファウヒ」(Fou-hi)帝ハ此ノ亂雜ナ性的關係ヲ廢止シテ、婚姻ナル制度ヲ創設シタト〔註〕。

〔註〕 Goguet, Origin of Laws, Arts, and Sciences, iii. 311, 313.

(quoted by Westermarck, op. cit. vol. I, p. 105.)

之ト同様ナ記述ハ「インド」ノ敍事詩「マハバラタ」(Mahābhārata)ノ中ニ於ケル「パーンヅ」(Pāṇdu)其ノ妻「クンテイ」(Kuntī)及ビ「ウッダーラカ」(Uddālaka)ノ子「スヴェータケツ」(Svētakētu)ノ物語ノ中ニ於テモ〔註一〕又「アツェンズ」ノ傳説 (Athenian tradition)ニ表ハレテ居ル「アツェンズ」ノ第

一代ノ國王「ケクロプス」(Kekrops) ニ關スル物語ノ中ニ於テモ見出サレルシ、更ニ「ラブランド」(Lapland)人ノ「ヌジャヴス」(Njavvis) ト「アットヂス」(Attjis) ニ關スル歌ノ中ニモ之ト同様ナ物語ヲ見出スコトガ出來ル〔註二〕。

〔註一〕 Mahabharata, i. 122. 4sq. Muir, Original Sanskrit Texts, ii. 327. (quoted by Westermarck)

〔註二〕 See also Westermarck, op. cit. vol. I, p. 105.

然シ科學的ニ婚姻制度ノ起源ヲ探究シヨウトスル者ニトツテハ、此種ノ傳説ノ内容ソノモノヲ以テ、直チニソノ儘歴史の記述デアルト見ルコトハ許サルベキデハナイ。「ウエスターマール」ノ言葉ヲ以テスレバ、此ノ種ノ神話傳説ヲ以テ、直チニ原始雜婚ノ證據トナスコトハ、恰モ舊約全書創世記第二章ノ記述ヲ以テ、直チニ原始一夫一妻婚ノ證據トナス〔註〕ト同罪デナケレバナラヌ——Legends of this sort can no more be regarded as evidence of primitive promiscuity than the second chapter of Genesis can be quoted in proof of primitive monogamy.

(Ibid., p. 106.)——元來、神話ヤ傳説ハ直接ニ吾々ニ歴史の事實ヲ物語ルモノデハナイ。其ノ性質ハ神話的乃至傳説的の歴史デハナクシテ、歴史的神話乃至傳説——古代民族ノ風俗習慣ヤ宗教道德ニ關スル思想ヲ傳説化シ、象徵化シタモノ——トシテ觀察サルベキモノデアルニ過ギナイ。從ツテ自分ハ神話ヤ傳説ガ

人類學、考古學等ト相待ツトキハ、古代研究ニ對シ、有力ナ資料ヲ提供スルモノデアルコトヲ是認スル者デアルト同時ニ、而モ神話ヤ傳説ノ記述ヲソノ儘ニ史的事實トナシ、之ニ依ツテノミ、古代ヲ研究セントスル方法ヲ否認セントスル者デアル。又假リニ、神話ヤ傳説ノ傳フル所ヲソノ儘ニ史的事實トシテ承認サルルコトガアツタトシテモ、上述ノ婚姻制度起源ニ關スル説明ハ、以テ科學的立場ニ立ツテ婚姻制度ノ起源ヲ探究セントスル者ヲ満足サセルコトハ出來ナイ。蓋シ凡ソ社會ノ制度タルヤ、發生ノ原因ナクシテ發生スルコトハナイ。此ノ內的又ハ外的要求ニ基イタ發生ノ原因ヲ探究スルコトナクシテ、單ニソレヲ一人ノ賢明ニシテ權威アル統治者ノ指揮命令ニ歸シテ了フニハ、若クハ至高至上ノ神意ノ發現ナリトシテ説明シテ了フニハ、婚姻制度ハ吾々人類ノ個人生活ノ上ニ於テモ、又社會生活ノ上ニ於テモ、アマリニ、重要ニシテ且ツ直面ノ制度デアルカラデア。之ヲ要スルニ、人類ノ內的又ハ外的要求ガ、統治者ヲシテ婚姻制度ヲ形成セシムルニ至ツタ關係ニアルモノデアルコトヲ承認スル以上ハ、此ノ內的又ハ外的要求ヲ研究スルコトナクシテ、單ニ形ノ上ノミノ起源ヲ論ズルコトハ、到底吾々ノ堪へ得ザル事ニ屬スル。

[註] Bishop Jeremy Taylor's Works, Ed. 1848, p. 207 (Sermon on the Marriage Ring). "Marriage was not originated by

human law. When God created Eve, she was a wife of Adam; they then and there occupied the status of husband to wife and wife to husband." Grigsby v. Rieb, 105 Tex. 597(1913) "Marriage was first instituted by God Himself in paradise between Adam and Eve," says a writer on Canon Law in 1734. (Aylyffe, Parergon Jurise Canonici Anglicani, p. 359.) — quoted by Otto E. Koegel, Common Law Marriage, p. 7. —

(4) 野蠻民族及ビ遺風

A. 總說

神話ヤ傳説ノ傳フル所ヲソノ儘ニ史的事實デアルト考へ、之ニ依ツテ、社會、家族、婚姻ノ起源及ビ其ノ初期ニ於ケル發達ヲ説明セントスル獨斷的研究方法ニ對シ、科學的ニ其ノ起源及ビ發達ヲ探究シ出シタノハ、實ニ第十九世紀中葉以後ノコトデアル。蓋シ其ノ端緒ハ一八五八年ノ「チャールズ、ダーウキン」(Charles Darwin, 1809—1882)ノ進化論(Selection Theory of Darwin)ニ開カレ、「モルガン」(L.H.Morgan, Ancient Society, 1877)「マツクレナン」(J.F. McLennan, Studies in Ancient History, 1886)「ラボック」(Sir J. Lubbock, The Origin of Civilisation and The Primitive Condition of Man, 1889)等ニ依ツテ、此ノ進化論ノ理論ハ社會、家族、婚姻等ノ起源發達ノ説明ニ應用セラレ、遂ニ近代ニ於ケル科學的研究方法ノ確立ヲ見ル

ニ至ツタノデアル。即チ諸種ノ野蠻民族及ビ未開民族ニ關シテ探究スルコトハ、是レ即チ文明諸民族ノ經過シ來レル進化ノ經路ヲ明ラカニスルモノデアルトナシテ、幾多ノ野蠻民族及ビ未開民族ノ間ニ現存スル若クハ嘗テ存シタト云フ慣習乃至制度ハ即チ今日ニ於テハ既ニ開化シタル文明民族ト雖モ其ノ進化發達ノ階段ニ於テ、嘗テハ之ヲ有シタリシモノデアラウト推論スルガ如キ、若クハ文明諸民族ノ間ニ於ケル其ノ保守的社會力ニ依ツテ、保有セラレル表象乃至遺風ヲ探究スルコトニ依ツテ其ノ表象乃至遺風ニ相當スル先住民族ノ生活狀態ヲ推論スルガ如キハ、孰レモ此等ノ學者ノ採リタル研究方法ニ外ナラス。「マツクレナン」ガ一八八六年ノ *Studies in Ancient History* ニ於テ、「凡ソ人類社會ノ古代史ニ關スル知識ノ主要ナル源泉ヲ爲スモノハ先づ第一ニ原始狀態ニ在ル種族ノ研究デアリ、第二ニハ進化セル國民ガ權利ヲ設定スルニ當リ若クハ權利ヲ實行スルニ當ツテ其ノ進化シタ國民ガ使用スル表象 (Symbols) ノ研究デアル」ト述ベラレテ居ルノハ、實ニ此ノ研究方法ヲ摘要シタモノデアル (Ibid, p. 1.)。

例ヘバ、原始時代ニ於ケル人類ハ其ノ性的關係ニ付イテ、何等ノ制限拘束ナク亂雜ニ交接ヲ爲シタモノデアルト云フ證據ノ一ニ、旅行家ヤ古代學者ノ遺シタ記録ニ基イテ、多數ノ野蠻民族ガ雜婚 (Promiscuity) [註]ノ狀態ニ於テ生活シテ居リ、若クハ生活シテ居ツタト云フ事實ヲ舉ゲルガ如キ (Lubbock, The

Origin of Civilisation, etc., pp. 54, et seq.)

〔註〕 Promiscuity ヲ譯シテ雜婚トナスハ建部遜吾氏ノ譯ニ依ル
 (同氏普通社會學第三卷社會靜學九五頁參照)。或ヒハ之ヲ亂婚
 ト稱スル學者モアル (高田保馬氏——經濟論叢第四卷一號一二
 四頁參照)。

若クハ、夫ガ死亡セル場合ニ、其ノ妻ハ亡夫ノ兄弟ノ嫁トナ
 ルト云フ「レヴィレート」(Levirate)〔註〕ノ制度ノ存在カラシテ
 先住民族ノ間ニ於テハ、同家族中ノ兄弟ハ、共同ノ妻ヲ持ツテ
 居ツタモノデアルト云フ即チ一妻多夫 (Po'yandry) ノ制度ノ存
 在ヲ推論スルガ如キ (McLennan's theory of the polyandric ori-
 gin of the levirate,—McLennan, op. cit. p. 112 sq. Idem, "Le-
 virate and Polyandry," in Fortnightly Review, N. S. xxi. 703
 sqq.) ハ即チ此ノ研究方法ニ外ナラヌ。

〔註〕 Levirate ヲ譯シテ中山太郎氏ハ假リニ「逆縁婚」トナス (社
 會學雜誌第一號「我國ニ於ケル逆縁婚ニ就テ」參照)。和田于一
 氏モ亦之ニ從フ (同氏婚姻法論五三頁乃至五九頁參照)。

我國ニ於テモ、此ノ研究方法ヲ採用シテ居ル學者ハ、決シテ
 少クナイ〔註〕、

〔註〕 例ヘバ和田于一氏ガ其ノ「婚姻法論」ニ於テ——定婚論者モ
 認ムルガ如ク、或ル種ノ蠻族間ニハ亂婚ガ現實行ハレテ居タコ

トハ疑ナイノデアルカラ、此事實ニ徴スレバ、現時ノ定婚制ハ
 原始亂婚制ヨリ進化シタモノト爲ス説ガ有力デアルト信ゼラレ
 ル——ト説カレルガ如キハ（同書二八頁）、若クハ砂川寛榮氏が
 其ノ「日本家族制度史研究」ニ於テ——予ハ古代ノ著者及近世
 ノ旅行家ガ未開民ノ亂婚制ニ就テ語レルコト且ハ今日ノ未開民
 間ニハ古代ノ亂婚制ノ名殘トモ見ルベキ奇習例ヘバ濠洲ヤ「エ
 スキモー」ノ或部族ガ現時尙ホ妻貸（Wifelending）ヲ實行シ、
 「ハワイ」ノ或部族間ノ群婚、又ハ「ニュージールランド」ヤ「ニュ
 ーメキシコ」ニ於テ結婚ノ當夜花嫁ヲ先ヅ酋長、僧ニ差上ゲル
 風（Jus primae noctis）アルヲ聞キ、殊ニ今日文明ノ華ヲ以テ
 誇レル佛國ニ於テモ文藝復興期前後マデハ一部ニ此ノ風習ノア
 ツタコトヲ信ズベキ著者ニ依テ知ラサレタルニ及ンデハ、人類
 史ノ最初ノ頁ニ或程度迄ノ亂婚ガ書カルベキヲ信ズルモノデア
 ル——ト説カレルガ如キ（同書五〇、五一頁）ハ孰レモ此ノ研
 究方法ニ屬スルモノデアラウ。其他之ト同種ノ思想ハ中村彌三
 次氏ノ「社會法學」「早稻田法學第一卷）中VIII. 集團婚ノ復活
 ニ於テモ、又佐野學氏ノ「社會ノ進化」（同書八頁）ニ於テモ
 之ヲ窺フコトガ出來ル。

此ノ研究方法ニ依ルコトニ就イテモ亦吾々ハ、躊躇セザルヲ
 得ナイ點ガアル。吾々ハ或ル制度ガ二、三ノ野蠻人ノ間ニ現ニ
 行ハレ、又ハ嘗テ行ハレタト云フコトノミヲ以テ——他ニ充分
 ニ、其ノ行ハルル若クハ行ハレタ理由ヲ明ラカニスルコトナク
 シテ——直チニ其ノ制度ハ、全人類ガ其ノ進化發達ノ階段ニ於
 テ、嘗テハ之ヲ有シタル制度デアルト推論スルコトハ、其ノ論
 法粗笨ナリト云フベキデハアルマイカ〔註〕。

〔註〕 「ウエスターマーク」ハ此ノ點ニ關シ、次ノ如ク述ベラレテ居ル——An error of method which was very prevalent among the evolutionary school in those days when the first edition of this work was written, and which is still committed by certain writers, is the practice of inferring, without sufficient reason, from the prevalence of a custom or institution among some savage peoples, or from facts interpreted as survivals of it, that this custom or institution is a relic from a stage of development which the whole human race once went through. (Westermarck, op. cit, vol. I. p. 19.)

勿論、現存セル野蠻人ハ、今日ノ文明人ガ其ノ原始時代ニ在リシ面影ヲ其ノ生活ニ、又其ノ習慣ニ保有シテ、以テ吾々ニ人類ノ進化發達ニ關スル幾多ノ暗示ヲ提供シツツアルモノデハアルガ、而モ人類ノ生活狀態竝ビニ其ノ發達ハ、其ノ住居セル土地氣候其他諸般ノ事情ヲ無視シテ之ヲ論ズルコトハ出來ナイノデハアルマイカ。又或ヒハ、現存セル野蠻人ガ今日ノ文明人ト異ナル、缺陷アル家族組織ヲ有スルコトガ、其ノ社會的發達ヲシテ不可能ナラシメ、以テ今日ノ野蠻狀態ニ在ラシムル主要ナル原因ヲナスモノニ非ザルナキカ〔註〕。

〔註〕 Helen Bosanquet, The Family, pp. 27, 28. 猶ホ「ボザンケ一」ハ「オーストラリア」ノ土人ノ有スル風習ヨリ推論シテ、我ガ「アールリア」人ノ祖先ノ有シタリシ風習ヲ論證スルガ如キハ、正當ニ非ズトナシテ、此ノ研究方法ガ有效ナルガ爲メニハ

少クトモ、其ノ前提要件トシテ、第一ニハ現存セル野蠻人ハ進化ノ初期ニアルモノデアツテ、退歩シテ此ニ至レルモノ (degenerates) ニ非ザルコトヲ明ラカニスルコトヲ要シ、第二ニハ、スベテノ人種ハ孰レモ同一ノ階段ヲ經テ發達スルモノナルコト及ビ同一ノ社會的現象乃至制度ヲ有スルモノナルコトヲ立證スルヲ要スト謂ハレテ居ル。

況シテ、野蠻人ノ状態ヲ傳フルモノトシテ、其ノ引用サレル旅行家ノ記録ニ至ツテハ、幾多ノ誤謬ヲ含ム場合ガ極メテ多イノデアツテ、此ノ事ハ此ノ研究方法ヲシテ、益々不正確ナラシムルモノデアアル。蓋シ性的關係ノ如キ私事ニ關シ、單ナル巡遊者ノ見聞ハ、往々ニシテ異常ノ若クハ偶發ノ (abnormal or accidental) 出來事ヲ以テ、常態ノ風習デアルト誤解スル場合モアラウシ、又旅行家ハ此等ノ土地デ奇異ニ感ジタ家族組織ヲ、事實以上ニ誇張シテ報告スル場合モアラウシ、更ニ又自己ノ屬スル種族ニ對シ持ツテ居ル優越觀念ハ、時ニ野蠻人ニ對スル輕蔑、僻見、嫌惡ノ感情トナツテ表ハレ、其ノ結果、野蠻人ニ對スル報告、事實ニ對スル解釋ガ、幾多ノ曲解ヲ含ム場合モ亦決シテ少ナクナイカラデアアル。之ヲ要スルニ野蠻人ノ生活乃至慣習ヲ、眞實ニ觀察スルコトノ困難、及ビ其ノ觀察シタルコトヲ誤リナク解釋スルコトノ困難ハ、此ノ研究方法ヲシテ益々困難ナラシムルモノデアロウ〔註〕。以下「ウエスターマーク」ノ比較檢討ニ從ツテ、此ノ種ノ報告ヤ記述ガ、如何ニ不確實ノモノデ

アルカ、二、三ノ例ヲ以テ之ヲ示サウ〔註二〕。

〔註一〕 Westermarck, op. cit. vol. I. pp. 40, 41.

Maine, Ancient Law, p. 121.

Bosanquet. op. cit. pp. 28—31.

〔註二〕 Westermarck, op. cit. vol. I. pp. 106—124.

「サー、エドワード、ベルチャー」(Sir Edward Belcher) ハ「アンダマン」(Andaman) 群島ニ於テハ、男女ハ其ノ子供ガ乳ヲ離レルマデハ同棲シテ居ルガ、既ニ乳ヲ離スニ至レバ、彼等ハ分レテ別々ニ各々新シイ配偶者ヲ探スト云フ習慣ノアルコトヲ述ベテ居ル〔註一〕。然シ「マン」(E.H. Man) 氏ノ「アンダマン」島民ニ關スル報告ニ依レバ、重婚(Bigamy) --- 夫多妻(Polygamy) 一妻多夫(Polyandry) 竝ビニ離婚(Divorce) ト云フコトハ、彼等ノ間ニハ全く知ラレテ居ラナイ。彼等ハ嚴格ニ一夫一妻(Monogamy) ヲ守ツテ居ツテ、夫婦ガ一生誠實ヲ盡シ合フコトハ、其ノ例外ヲナスモノデハナクテ原則デアルト〔註二〕。此ノ點ニ關シ「ポートマン」(M.V. Portman) 氏ハ明確ニ云フテ居ル——「ベルチャー」氏ノ記述ハ全く誤ツテ居ル。假リニ彼ノ云フガ如クデアルトシテモ、其ノコトハ雜婚存在ノ證據ニハナラナクテ、寧ロ短イ持續期間ノ一夫一妻婚(Monogamous Marriage) ノ存在ヲ聯想セシムルモノガアル——ト〔註三〕。此事ハ「ウエスターマーク」氏モ述ベラレテ居ル〔註四〕。

- 〔註一〕 Belcher, 'Notes on the Andaman Islands'; in Trans. Ethn. Soc. London, new ser. vol. V. p. 45.
- 〔註二〕 Man, 'On the Aboriginal Inhabitants of the Andaman Islands'; in Jour. Anthr. Inst. vol. xii. p. 135. (Westermarck, 3.ed., p. 57.)
- 〔註三〕 Portman, History of Our Relations with the Andamanese, p. 519.
- 〔註四〕 Westermarck, 3.ed., 1901, P. 55.'

「クッキーン、チャーロット」(Queen Charlotte) 群島ノ「ヘーダ」人 (The Haida) ニ關シ、「プール」(F. Poole) 氏ハ云フテ居ル——彼等ノ間ニハ婚姻制度ト云フ様ナモノハナクテ、スベテノ女子ハ同族ノ者 (稀ニハ他族ノ者) ト亂雜ニ同棲シテ居ル——ト〔註一〕。サレド「ジャコブセン」(Jacobsen) 船長ノ北「アメリカ」ノ北西海岸ニ於ケル航海記ニ依レバ、此等ノ群島ノ土人ノ間ニ於テハ、夫ハ屢々其ノ妻ニ賣淫ヲサセルコトハアルガ尙ホ婚姻ナルモノハ存スルト〔註二〕。更ニ「ヘーダ」人ノ中ニ十ヶ月ヲ過シタ「スウオントン」(J.R. Swanton) 氏ハ、彼等ノ婚姻ニ關シテ種々詳細ニ物語ツテ居ル——婚姻ハ屢々子供ガ生レルヤ否ヤ取り極メラレル。ソシテ又、實際男ガ婚姻後ニ於テ不貞ナルニ於テハ、男ノ義母 (Mother-in-law) ハ男カラ巨額ノ財産ヲ強請スルノデアアル。若シモ妻ガ不貞ナルニ於テハ夫ハ一般ニ個人的復讐 (Personal Revenge) ヲナスノデアアル——ト〔註

三)。

〔註一〕 Poole, Queen Charlotte Islands, p. 312.

〔註二〕 Woldt, Capitain Jacobsen's Reise an der Nordwestküste
Amerikas, pp. 20, 21, 28, et seq.

〔註三〕 Swanton, The Haida, p. 50 sqq.

「フュージアン」人 (The Fuegian) ニ關シテ、「フィツロイ」
(B. Fitzroy) 大將ハ云フテ居ル——少數ノ女ト多數ノ男トガ共
棲シテ居ルノデ、雜婚生活ガ存在スルト思考スベキ理由ガアル
——ト〔註一〕。此ノ點ニ關シ「フュージアン」人ノ間ニ三十年
間住ンデ居ツタ「ブリッジス」(Bridges) 氏ハ「ウエスターマー
ク」氏ニ報告シテ居ル——雜婚生活ヲシテ居ツタト云フ土人ノ
夫婦ニ關スル「フィツロイ」大將ノ臆說ハ誤ツテ居ル。姦通
(Adultery) ヤ淫猥 (Lewdness) ハ肉慾ノ情ガ強烈ナ爲ニ屢々
行ハレルコトデアアルガ、決シテ夫又ハ妻若クハ親ノ同意ヲ得
テ行ハレルノデアナク、又此等ノ行爲ハ惡行トシテ責メラルル
所デアアル——ト〔註二〕。

〔註一〕 King and Fitzroy, Narrative of the surveying Voyages
of the "Adventure" and "Beagle," vol. ii. p. 182.

〔註二〕 Westermarek, op. cit. vol. 1. p. 119.

以上述べタル他、「スマトラ」ノ「ルブ」人 (The Lubus of

Sumatra) 「スマトラ」島ノ西海岸沖ニ在ル「ポツギー」(Poggy) 島ノ島民、「ボルネヲ」(Borneo)ノ「オロ、オト」人(The Olo Ot) 其他二、三ノ種族、「セレベス」(Celebes)ノ東方「ペーリング」(Peling)ノ山地住民及ビ「マラツカ」(Malacca)ノ「オランダ、サカイ」人(The Orang Sakai)「オランダ、セマング」人(The Orang Semang)「オランダ、ビノー」人(The Orang Benua)ニ關スル「ウイルケン」(G.A. Wilken, *Over de verwantschap en het huwelijks-en erfrecht bij de volken van het maleische ras*, pp. 20, 82 note.)ノ報告ハ C.A. Van Ophuijsen ('De Loeboes,' in *Tijdschrift voor indische taal-, land-en volkenkunde*, vol. xxix. 97 sq.) John Crisp ('Account of the Inhabitants of the Poggy Islands,' in *Asiatiek Researches*, vol. vi. 87 sq.) H.Rosenberg (*Der malayische Archipel*, p. 199.) J.J. Hollander (*Handleiding bij de beoefening der land-en volkenkunde van Nederlandsch Oost-Indië*, i. (1895) p. 615.) C.A.L. M. Schwanner (*Bornes* i. 230, 231 note) M. de Clercq (*Bijdragen tot de kennis der residentie Ternate*, p. 131) Miklucho-Maclay ('Ethnological Excursions in the Malay Peninsula,' in *Jour. Roy. Asiatic Soc. Straits Branch*, no. ii. 215.) Maxwell (*Jour. Roy. Asiatic Soc. Straits Branch*, no. i. 112.) W.W. Skeat (*Account of the British Settlements in the Straits of Malacca*, ii, 379.) Dr. Rudolf Martin (*Die Inlandstämme der Malayischen Hal-*

binsel. p. 864. sq.) H. Vaughan Stevens (Materialien zur Kenntniss der wilden Stämme auf der Halbinsel Malâka ii. 132.) E. A. Swettenham ('Comparative Vocabulary of the Dialects of some of the Wild Tribes inhabiting the Malayan Peninsula,' in Jour. Roy. Asiatic Soc. Straits Branch, no. v. 156) 等ノ報告ト全ク相違シテ居ル。又「ジロー、チューロン」(Giraud-Teulon)ノ引證スル「ダッパ」(O. Dapper) 氏ノ Bornw 王國ニ關スル記述ハ (Description de l'Afrique, p. 223.) 「ポスト」(A.H. Post) 氏ノ述ベル所ト甚ダシク齟齬シテ居ル (Post, Afrikanische Jurisprudenz, i. 304) [註]、

[註] 嘗テ中村彌三次氏ハ「北「アフリカ」ノ「アウゼアン」人ニ就テハ、「ヘロドートス」ニヨツテ、「エチオピア」ノ「ガラマテ」人ニ就テハ「プリニー」ニヨツテ、「アイルランド」ノ「ケルト」人及ビ「アラビア」人ニ就テハ「ストラボ」ニヨツテ其等ノモノガ何レモ、動物ノ雜群ニ於ケル如ク、無規律ナル性的生活ヲナシツツアリシコトガ、確實ニ告ゲラレテキル」ト述ベラレテ居ルガ (早稻田法學第一卷同氏「社會法學ニ付テ」一九頁) 「ウエスターマーク」氏ノ比較檢討ニ從ヘバ中村氏ノ云フガ如クニ「確實ニ告ゲラレタ」モノデモナイ。詳細ハ同書參照。

此ノ他「ウエスターマーク」氏ハ、雜婚ノ狀態デ生活スルト云ハレテ居ル種族ニ關シ、一々比較檢討ヲ試ミラレテ居ルノデアアルガ、然シ私ガ此處ニ此種ノ記述ヲナス目的ハ、野蠻人ニ關

スル報告ガ、極メテ不正確ノモノデアアルコトヲ示スコトニアル
ノデアアルカラ、コレ以上、例示スルノ煩雜ヲ避ケル。タダ最後
ニ、彼ノ有名ナ團體結婚説 (Theory of Group-Marriage) ノ重
要ナ基礎ヲナス所ノ英國宣教師「ロリマー、フイゾン」(Lorimer
Fison) ノ南「オーストラリア」ノ土人「カミラロイ」(Kamilaroi
族〔註一〕ニ關スル報告ニ付イテ検討ヲナスニ止メル〔註
二〕。

〔註一〕 此ノ種族ハ「シドニー」(Sydney) ノ北方「ダーリング」
(Darling) 河流域ニ住ミ、其ノ用フル言葉ハ「カミラロイ」語
デアアル (Morgan, Ancient Society, p. 48.)。

〔註二〕 Westermarck, op. cit. vol. i. pp. 115. 116. vol. iii. pp.
258—261. Morgan, op. cit. pp. 47, et seq.

G. E. Howard, A History of Matrimonial Institutions, vol.
i. pp. 70. 71,

Bosanquet, op. cit. pp. 28, 29.

Lubbock, op. pp. 71. 72.

蓋シ「フイゾン」ノ記スル所ニ從ツテ Lubbock (Origin of
Civilisation, p. 84 sqq.) Morgan (in his 'Introduction' to Fison
and Howitt, Kamilaroi and Kurnai, p. 10.) Kohler ('Ueber
das Recht der Australneger,' in zeitschr. f. vergl. Rechtswiss.
vii. 344.) Kovalewsky (Tableau des origines de la famille, p.
13 sq.) 等ノ多數ノ學者ハ、「オーストラリア」ノ野蠻人ノ間ニ

於テハ、男ノ一團ガ女ノ一團ト事實上結合シテ居ルト主張シ〔註一〕更ニ進ンデハ、之ヲ以テ全人類ガ通過シタル婚姻進化ノ一階段ト觀察スルニ至ルノデアルカラ〔註二〕「フイゾン」ノ記述ヲ正確ニ理解スルコトハ、婚姻進化史上頗ル重要ナル問題タルヲ失ハヌカラデアアル。

〔註一〕 Westermarck, op. cit. vol. iii. p. 258.

〔註二〕 「モルガン」ハ此ノ點ニ關シテ、次ノ如ク明言シテ居ル——

The family, commencing in the consanguine, founded upon the intermarriage of brothers and sisters in a group, passed into the second form, the punaluan, under a social system akin to the Australian classes, which broke up the first species of marriage by substituting groups of brothers who shared their wives in common, and groups of sisters who shared their husbands in common,—marriage in both cases being in the group. For these reasons the Australian system, about to be presented, deserves attentive consideration, although it carries us into a low grade of human life. It represents a striking phase of the ancient social history of our race. (Morgan, op. cit. p. 48)。「ラボツク」モ亦次ノ様ニ云ハレテ居ル。——The communal marriage system..... (中略) represents the primitive and earliest social condition of man (Lubbock, op. cit. p. 79. See also *ibid.* pp. 71, 72)。

猶ホ我國ニ於テモ、高橋清吾氏ハ其ノ歐洲社會制度發達史ニ於テ「最近數十年來、我等ハ眞摯ナル學者達ノ賞賛スベキ努力、就中「オーストラリア」ノ炎熱ト闘ヒ終始變ラザル親切ヲ盡シテ土人等

ノ信賴ヲ受ケ遂ニ其ノ目的ヲ貫徹シタ「エー、ダブルユー、ホーウィット」氏、「ロリマー、フィソン」師「ボールドウィン、スペンサー」教授及ビ「ギレン」氏等ノ偉大ナル貢獻ニヨリテ可ナリ正確ニ原始人ノ生活状態ヲ知悉スルニ到ツタ。尙ホ、コレラ學者達ノ叙述ハ、「アメリカ、インディアン」ノ研究ニ於テ原始人ノ社會カラ族長社會ヘト發達シツツアル種族ノアルコトヲ發見シテ十九世紀ニ於ケル優秀ナル科學的產物ノ一ツト認メラレタトコロノ、カノ「古代社會」ノ著者「リウイス、モルガン」氏ノ研究ニヨリテ有益ニ補足セラレテキル」ト述ベラレテキル（同書一六、一七頁參照）。

「フィズン」ハ其ノ著 Kamilaroi and Kurnai ニ於テ、「カミラロイ」族ガ其ノ親族關係ヲ表ハス爲メニ使用シテ居ル言葉ガ、「モルガン」ノ所謂階級制度 (Classificatory System) ニ屬スルモノデアアルコトカラシテ、「カミラロイ」族ノ婚姻ハ共産的 (Communa¹) ノモノデアツテ、或ル部族ノ一區分ニ屬スル凡テノ男子ト、他ノ區分ニ屬スル同年代ノ凡テノ女子トガ、理論的ニハ共同シテ婚姻スルモノデアルト云フ結論ヲ導キ出シテ居ル (ibid. p. 50)。此ノ事ハ「ハウイット」(A. W. Howitt, 'Native Tribes in South-East Australia,' in Falk-Lore, xvii. 189)「スペンサー」及ビ「ギレン」(Spencer and Gillen, The Native Tribes of Central Australia, pp, 57—59)ニヨツテモ亦認メラレテ居ル。

B. The Classificatory System of Relationship.

元來、父トカ子トカ兄弟トカ姉妹トカノ親族稱呼ハ、ソレニ
 對應スル實際ノ若クハ蓋然ノ (Actual or Probable) 血族關係ヲ
 示スモノデアルトナシ、更ニ進ンデ、其ノ使用スル親族稱呼ガ
 階級制度 (Classificatory System of Relationship) ニ屬スルモノ
 ナルトキニハ、其ノ先住民族ノ間ニハ共產的結婚 (Communal
 Marriage) 又ハ團體的結婚 (Group Marriage) ガ存在シタモノ
 デアルト云フコトヲ、推斷スルコトガ出來ルト云フ思想ハ、「モ
 ルガン」ノ研究ニ於テ始メテ顯著ニ現ハレ (Morgan, Systems
 of Consanguinity and Affinity of the Human Family, p. 488.
 Quoted from Westermarck, op. cit. vol. i p. 239) 廣ク學界ヲ風
 靡スルニ至ツタ〔註〕。

〔註〕我國ニ於テモ西村眞次氏ガ「父母ト同一年輩ノ人々ヲ親シン
 デ呼ブ場合ニハ、子供達ハヨク「叔父サン」「叔母サン」ノ語ヲ
 用ヒ、又自分達ト同一年輩、或ハ同一地位ノ人々ヲ呼ブ場合ニ
 ハ「兄サン」、「姉サン」ノ語ヲ用ヒル。コレハ云フマデモナク
 群婚 (Group Marriage) ノ痕跡デアル……(中略)……群婚ハ
 ツマリ個婚ノ行ハレル前ニ存立シタ制度デ、文化人ノ間ニハ今
 日其ノ跡ヲ絶ツテ居ルケレド、言語ヤ慣習ノ上ニハ今日モ尙ホ
 ソレガ殘存シテキルノデアル」(同氏文化人類學一三三頁一三四
 頁參照) ト述ベラレルガ如キ、其他中村彌三次氏ノ「社會法學
 ニ付テ」五二頁以下參照。「エンゲルス」ハ此ノ點ニ關シテ次ノ
 如ク明言シテ居ラレル——「バリー」附近デ發見サレタ有袋動
 物 (Marsupialia) ノ骨骸カラシテ——今ハ絶エタル有袋動物デ

ハアルガ——嘗テハ其ノ地方ニ其ノ有袋動物ガ棲息シテ居ツタコトヲ「キュヴィアー」(Cuvier)ガ推論シ得タノト、同ジ程度ノ確實サヲ以テ、吾々ハ歴史的ニ傳承サレ來タ親族制度カラシテ——今ハ絶エタル家族形態デハアルガ——嘗テハ其ノ親族制度ニ對應スル家族形態ガ、存在シタモノデアルコトヲ推斷スルコトガ出來ル (Engels, *The Origin of the Family, etc.*, p. 37.) ——ト。尙ホ Sir James G. Frazer (*Totemism and Exogamy*, i. 303, 304, 501; ii. 69 sqq.) Josef Kohler (*Das Banturecht in Ostafrika*); in *Zeitschr. f. vergl. Rechtswiss.* vol. xv. p. 13.)モ亦此ト同一ノ見解ヲ採ツテ居ラレル。

「フイゾン」「ハウイツト」「スペンサー」「ギレン」ハ孰レモ此ノ思想ニ影響サレテ居ル〔註〕。

〔註〕 Fison and Howitt, *Kamilaroi and Kurnai*, p. 50.

Howitt, 'Native Tribes in South-East Australia,' in *Folk-Lore*, xvii. 189.

Spencer and Gillen, *Native Tribes of Central Australia*, p. 59.
(Quoted from Westermarck, *op. cit.* vol. i. p. 241)

蓋シ「フイゾン」ノ叙述スル所ハ、決シテ「カミラロイ」族ノ間ニ、團體結婚ガ現在行ハレテ居ルコト (present existence of group-marriages) ニ關スルモノデハナイ。彼自ラ云フテ居ル——親族關係ヲ表ハス爲メニ現在使用シテ居ル言葉ノ、意味スル通リノ親族關係ガ、現ニ存シテ居ル種族ヲ知ラナイ。現在行ハレテ居ル慣習ハ、何處ニ於テモ、言葉ガ意味スル所ノ親族制度

ヨリモ進歩シテ居ル。言葉ハ古代ノ親族制度ノ遺物デアツテ、
現行ノ慣習ヲ表示シテ居ラナイ——ト (Ibid. p. 159 sq.)。從
ツテ問題ハ、カカル階級制度 (Classificatory System of Relati-
onship) ノ行ハレテ居ルコトカラシテ、團體結婚ノ存在シタリ
シコトヲ、推斷スルコトノ可否ニ關スルモノデアツテ、決シテ
「フイゾン」自ラ事實上、現在カ、ル婚姻形式ノ存在スルコト
ヲ主張スルモノデハナイノデアアル。茲ニ於テカ、問題ハ一轉シ
テ親族稱呼ヨリシテ血族關係ヲ、更ニ婚姻ノ形式ヲ推論スルコ
トノ、妥當ナリヤ否ヤノ考究ニ移ラザルヲ得ナイ。

「モルガン」曰ク人類ノ家族組織ハ、其ノ社會ガ低級狀態ヨリ
高級狀態ヘト進歩スルニ隨ツテ、低級形體ヨリ高級形體ヘト進
歩シ、遂ニハ或ルーノ形體ヲ脱シテ、他ノヨリ高キ形態ニ達ス
ルモノデアツテ、決シテ不變ノモノデハナイ。之ニ反シテ、血
族關係ヲ表ハス言葉 (Systems of Consanguinity) ハ不變性ヲ有
シ、家族組織ガ爲シタル進歩ヲ長イ間記録シ、其ノ家族組織ガ
根本的ニ變化サレタ時ニ於テ、始メテ根本的ノ變化ヲナスノミ
デアアル。即チ前者ハ能動的 (Active) ノモノデ、後者ハ受動的
(Passive) ノモノデアアル。茲ニ於テカ、血族關係ヲ表ハス言葉
ガ、非常ナ不變性ト持續性トヲ有スルコト (The singular per-
manence and persistency of systems of consanguinity) ヨリシ
テ、之ニ基イテ、吾々ハ古代社會ノ狀態ヲ推論スルコトガ出來
ル——This element of permanence gives certainty to conclus-

ions drawn from the facts, and has preserved and brought forward a record of ancient society which otherwise would have been entirely lost to human knowledge. (Morgan, Ancient Society, p. 408) — 蓋シ血族關係ヲ表ハス言葉ハ、ソレガ設ケラレタル當時ノ家族組織ニ於ケル、實際ノ (Actual) 若クハ蓋然ノ (Probable) 血族關係ヲ表示スルモノデアアルガ故ニ、ソレハ又、ソノ當時ニ於ケル婚姻ノ形體ヲモ示スモノデアアルカラデアルト (Ibid. pp. 398. 401—403. 407—409. 411. 444.)。

斯クシテ、「モルガン」ハ人類進化ノ過程ニ於テ、血族關係ヲ表ハス言葉ニ、三種ノ異ツタ組織 (Three distinct systems of consanguinity) アルヲ發見シ、之ヨリシテ、之ニ對應スル重要ナル三種ノ婚姻形體ノ存在ヲ推論シタノデアアル〔註一〕〔註二〕。

〔註一〕 Ibid. pp. 393. 394. 409.

〔註二〕 「モルガン」ハ此ノ三種ノ婚姻形體ノ他ニ、二個ノ婚姻形體即チ(1)The Syndyasmian or Pairing Family (偶婚家族) (2) The Patriarchal Family (父權的家族)ノ存在ヲ認メテ居ル。然シ「モルガン」ニ從ヘバ、コレラハ中間的 (intermediate) ノモノデアツテ、從來存シタ血族關係ヲ表ハス言葉ニ 變更ヲ與ヘ若クハ新タナル言葉ノ組織ヲ、創設スル程マデニ、人類ニ重要ナ一般的名モノデハナカツタ (Ibid. p. 394)。從ツテ血族關係ヲ表ハス言葉ト、婚姻ノ形體トノ關係ヲ、論述セントスル者ニトツテハ、暫ラク此ノ二ツノ形體ハ、之ヲ除外シテ觀察スルガ便宜ナコトト思フ。

「モルガン」ノ云フ、三種ノ異ナル血族關係ヲ表ハス言葉ノ組織ト、ソレヨリ推論シタ三種ノ婚姻ノ形體トノ關係ヲ、分説スレバ、大體次ノ如クデアル。

I. 「マレイ」式ノ親族稱呼 (The Malayan System of Consanguinity)

此ノ親族稱呼ハ「ポリネシア」人 (The Polynesians) ノ中ニ、殊ニ「ハワイ」人 (The Hawaiian) ノ中ニ於テ、典型的ニ行ハレテ居ル。即チ「ハワイ」人ハ自分自身ノ子ヲ其ノ息子、娘ト呼ブノミナラズ、自分ノ兄弟姉妹ノ子ヲモ亦同ジヨウニ息子、娘ト呼ブ。ソシテ自分ノ父母ノ兄弟ハ自分ノ父ト同様ニ、之ヲ父ト呼ビ、父母ノ姉妹ハ自分ノ母ト同様ニ、之ヲ母ト呼ビ、自分モ亦父母ノ兄弟姉妹カラ子ト呼バレテ居ル。即チ人ハ其ノ兩親ノ凡テノ兄弟姉妹ノ共同ノ子トセラレテ居ル。從ツテ自分ノ父母ノ兄弟姉妹ノ子ハ、自分ニトツテ自分自身ノ兄弟姉妹ト同様ニ、兄弟姉妹タル關係ヲ有スルコトニナル。從ツテ又此ノ親族稱呼ノ下ニ於テハ、伯叔父母、甥、姪、從兄弟姉妹ト云フ様ナ觀念ハ存スル餘地ガナイ。勿論、現存ノ婚姻形式カラ生ズル實際ノ血族關係ハ、此ノ親族稱呼ノ意味スル所トハ、一致シテハ居ラナイ。

「モルガン」ハ此ノ親族稱呼ヨリシテ、之ニ對應スベキ、兄弟各自ハ其ノ姉妹ノ全部 (姉妹、從姉妹、從々姉妹、從々々姉妹タルトヲ問ハズ、苟クモ姉妹タル關係ガ認め得ル範圍ニ屬スル

凡テノ姉妹ヲ含ム) ヲ妻トシ、又姉妹各自ハ其ノ兄弟ノ全部(兄弟、從兄弟、從々兄弟、從々々兄弟タルトヲ問ハズ、苟クモ兄弟タル關係ガ認メ得ル範圍ニ屬スル凡テノ兄弟ヲ含ム) ヲ夫トスルト云フ多夫多妻制ノ婚姻ノ形式ノ存在シタリシコトヲ推論シテ〔註〕此ノ家族組織ヲ The Consanguine Family (血族制家族) ト名ヅケタ。「モルガン」ハ云フテ居ル——現今ニ於テハ、最低級ノ野蠻人ノ間ニスラ、此ノ The Consanguine Family ノ婚姻ノ形式ハ存シナイノデハアルガ、此ノ種ノ婚姻ノ形式ガ存在シタリシコトヲ、假定スルニ非ザレバ、此ノ「マレイ」式親族稱呼ノ因ツテ生ジタ理由ヲ、説明スルコトガ出來ナイノデアルト (Morgan, Systems of Consanguinity and Affinity of the Human Family, p. 488)。蓋シ前述ノ親族稱呼ガ示スガ如クニ自分ノ兄弟ノ子ヲ自分ノ子ト呼ブ以上、自分ノ兄弟ノ妻ハ、自分ノ妻デモアツタト云フ即チ、兄弟ガ其ノ妻ヲ共有シタリシ生活ノアツタコトヲ信ゼシムルシ、又自分ノ姉妹ノ子ハ自分ノ子トナサレテ居ル以上、自分ハ自分ノ姉妹ノ夫デアル。又同様ニシテ、自分ハ他ノ自分ノ姉妹ノ夫デモアル。斯クシテ姉妹ハ、其ノ夫ヲ共有シタデアラウ。

之ヲ要スルニ、此ノ時代ニ於ケル婚姻ノ形式ハ、兄弟姉妹(從兄弟姉妹、從々兄弟姉妹等ヲ含ム) デアルコトガ、當然ニ相互間ニ夫婦ノ關係ヲ作り出スモノデアルガ故ニ、祖父母ハ祖父母ノ列ニアル自己ノ兄弟姉妹ト相互ニ夫婦デアリ、父母ハ父母ノ

列ニアル自己ノ兄弟姉妹ト相互ニ夫婦デアリ、自分ハ自分ノ列ニアル自己ノ兄弟姉妹ト相互ニ夫婦デアリ、自分ノ子ハ自分ノ子ノ列ニアル自己ノ兄弟姉妹ト相互ニ夫婦デアリ、更ニ自分ノ孫ハ自分ノ孫ノ列ニアル自己ノ兄弟姉妹ト相互ニ夫婦デアルト云フ様ニ、婚姻ノ範圍ガ世代 (Generations) ニヨツテ區分サレタ多夫多妻制ト云フコトニナル。

〔註〕「モルガン」ハ此ノ Consanguine Family ノ存在セシコトヲ證スルニハ、親族稱呼 (System of Consanguinity) ニ依ラザルベカラズトナシ、更ニ Consanguine Family ト Malayan System of Consanguinity トノ關係ニ關シテ、次ノ如ク述ベラレテ居ル——It (The Malayan system of consanguinity) defines the relationships that would exist in a consanguine family; and it demands the existence of such a family to account for its own existence. Moreover, it proves with moral certainty the existence of a consanguine family when the system was formed. (Ibid, pp. 410. 411.)

II. 「ツラン」式ノ親族稱呼 (The Turanian System of Consanguinity)。

此ノ親族稱呼ハ、「アメリカ」土人ノ間ニ一般ニ行ハレ、又南印度ノ「ドラヴィデア」語 (Dravidian language) ヲ用フル土人ノ間ニモ行ハレ、更ニ北印度ノ「ゴーラ」語 (Gaura language) ヲ用フル土人及ビ「オーストラリア」土人ノ間ニ於テモ、多少

變更ヲ受ケタ形ニ於テ行ハレテ居ル。即チ「ツラン」式親族稱呼ノ下ニ於テモ、男ハ自分ノ兄弟ノ子ハ、之ヲ自分自身ノ子ト同様ニ、息子、娘ト呼ビ、ソシテ此等ノ者モ亦彼ヲ父ト呼ブノデアアルガ、自分ノ姉妹ノ子ハ、之ヲ息子、娘トハ呼バズシテ、甥、姪ト呼ビ、此等ノ者モ亦彼ヲ父トハ云ハズシテ、伯叔父ト呼ブノデアアル。女モ亦自分ノ子ノミナラズ、自分ノ姉妹ノ子ヲモ、其ノ息子、娘ト呼ビ、此等ノ者モ亦彼女ヲ母ト呼ブノデアアルガ、自分ノ兄弟ノ子ハ、息子、娘デハナクテ、甥、姪ト呼ビ、此等ノ者モ亦彼女ヲ、伯叔母ト呼ブノデアアル。從ツテ兄弟ノ子同志若クハ姉妹ノ子同志ハ、互ヒニ兄弟姉妹デハアルガ、兄ノ子ト其ノ妹ノ子若クハ弟ノ子ト姉ノ子トハ互ヒニ兄弟姉妹デハナクテ、從兄弟姉妹トナル。

「モルガン」ハ此ノ親族稱呼ヨリシテ、之ニ對應スベキ婚姻形式ガ、存在シタリシコトヲ推斷シテ、此ノ婚姻形式ヲ「プナルアン・ファミリー」(The Punaluan Family)ト稱シテ居ル。「モルガン」ニ從ヘバ、人類進化ノ過程ニ於テ Punaluan Family ハ Consanguine Family ニ次イデ出現シタモノデアアル。ソシテ其ノ進歩ハ、自分ノ肉身ノ兄弟姉妹〔註一〕間ニ於ケル婚姻關係ノ存在ヲ、排除シタコトニアル (Ibid. p. 433) 〔註二〕。蓋シ此ノ親族稱呼ノ下ニ於テハ、男ハ自分ノ兄弟ノ子ヲ自分ノ子ト呼ブガ故ニ、兄弟ハ共同ノ妻ヲ持ツテハオツタガ——從ツテ、妻ハ其ノ夫ノ兄弟ニトツテモ亦妻デアリ、其ノ夫ノ兄弟ハ悉ク彼女ノ

夫デハアルガ——自分ノ姉妹ノ子ハ、之ヲ子ト呼バナイ以上、
 自分ノ姉妹ハ、最早、彼ノ妻デハナイト推測デキルカラデアル。
 又女ハ自分ノ姉妹ノ子ヲ自分ノ子ト呼ブガ故ニ、姉妹ハ共同ノ
 夫ヲ持ツテハ居ツタガ——從ツテ、自分ノ姉妹ノ夫ハ悉ク同時
 ニ自分ノ夫デハアルガ——自分ノ兄弟ノ子ハ、之ヲ子ト呼バナ
 イ以上、自分ノ兄弟ハ、最早、彼女ノ夫デハナイト推測デキル
 カラデアル。

〔註一〕 茲ニ自分ノ肉身ノ兄弟姉妹トハ own brothers and sisters
 ノ譯デアツテ、collateral brothers and sisters 即チ從兄弟姉妹
 從々兄弟姉妹等ニ對スルモノニ他ナラナイ。要スルニ、今日ノ
 觀念ヲ以テスレバ、前者ハ兄弟姉妹ニシテ、後者ハ兄弟姉妹ト
 同列ニ在ル從兄弟姉妹等ヲ指スモノデアル。

〔註二〕 「モルガン」ハ此ノ Consanguine Family カラ Punaluan
 Family へノ進歩ノ原因ヲ、次ノ如ク説明シテ居ラレル——
 From this first form to the second the transition was natural;
 a development from a lower into a higher social condition
 through observation and experience. It was a result of the
 improvable mental and moral qualities which belong to the
 human species. (Ibid. p. 455)

III. 「アリアン」式ノ親族稱呼 (The Aryan System of Con-
 sanguinity)。

以上述ベタルニツノ親族稱呼ヲ、「モルガン」ハ Classificatory
 System of Relationship ト呼ビ、之ニ對シテ、此ノ「アリアン」

式ノ親族稱呼ハ、之ヲ Descriptive System of Relationship ト呼ンデ居ル。蓋シ此ノニツノ間ニハ、極メテ根本的ナ差異ガ認メラレルカラデアル。即チ Classificatory System of Relationship ハ或ル人ト或ル人トノ間ニ於ケル親族關係 (Relationship) ヲ記述スルモノデハナクテ、單ニ或ル人ト或ル範疇 (Category) ニ屬スル凡テノ人々 (群) トノ關係ヲ記述スルニ止マル。從ツテ其ノ表示スル所ハ Group-Relationships デアル。斯クノ如キ Group-Relationships ヲ表示スル制度ハ、其ノ起源ヲ Group-Marriage ニ持ツテ居ルモノデアルトナス (The only reasonable and probable explanation of such a system of group-relationships is that it originated in a system of group-marriage. See, Frazer, op. cit. i. 303. 304. 501.)。之ニ反シテ Descriptive System of Relationship ハ、常ニ或ル人ト或ル人トノ間ニ於ケル親族關係ヲ記述スル。從ツテ、此ノ親族稱呼ガ行ハレルコトヲ得ルカラニハ、ソコニ必ズヤ一男一女間ニ於ケル單一婚姻 (Single marriages between single pairs) ガ存セネバナラヌトナシ、「モルガン」ハ此ノ種ノ婚姻ヲ The Monogamian Family (一夫一妻制家族) ト呼ブ「モルガン」ハ「ツラン」式ノ親族稱呼ニ代ツテ、「アリアン」式ノ親族稱呼ガ起ツタ理由ヲ、婚姻ノ形式ガ Punaluau Family ヨリ Monogamian Family へト進化シタ爲メデアルトナシ、更ニ此ノ Monogamian Family ノ起源ヲバ、人類ノ財産觀念ノ發達ヘト結ビツケテ説明シテ居ラレル (ibid. pp.

398. 399)。

之ヲ要スルニ「モルガン」ハ Malayan System of Consanguinity ヨリシテ Consanguine Family ノ存在セシコト、即チ一群ノ中ニ於ケル兄弟姉妹ノ關係アル者ノ間ニ、團體的結婚ノ行ハレシコトヲ推論シ、次ニ Turanian System of Consanguinity ヨリシテ Punaluan Family ノ存在セシコト、即チ一群ノ中ニ於ケル姉妹ガ、各自ノ夫ヲ共有スル若クハ一群ノ中ニ於ケル兄弟ガ、各自ノ妻ヲ共有スル團體的結婚ノ行ハレシコトヲ推論シ、最後ニ Aryan System of Consanguinity ヨリシテ Monogamian Family ノ存在スルコト、即チ一男一女間ニ於ケル獨占的同棲 (Exclusive cohabitation) ノ伴フ婚姻ノ行ハレシコトヲ推論シタノデアアル。

以上記述シタ「モルガン」ノ學說ハ、廣ク學界ヲ支配シ、幾多ノ追隨者ヲ出シタコトハ、既述シタ通りデアアルガ (51頁參照) 又他方ニ於テ、之ニ對シテ有力ナル反對論モ現ラハレタノデアアル。就中 Westermarck ヲ始メ W.H.R. Rivers (Kinship and Social Organisation, London. 1914) Andrew Lang (Social Origins and Primal Law, London, 1903) N.W. Thomas (Kinship Organisations and Group Marriage in Australia, Cambridge, 1906) 及ビ G.E. Howard (A History of Matrimonial Institutions, Chicago, 1904) ハ其ノ有力ナルモノデアラウ。

先ヅ其ノ主要ナル非難ハ、「モルガン」ガ階級制度ニ屬スル親

族稱呼 (The nomenclatures of the classificatory systems of relationship) ハ當然ニ實際ノ血族關係ヲ表示スル制度 (A system of blood-ties) デアルトナシ〔註〕親族稱呼ガ、果シテ血族關係ヲ表示スルモノデアルカ否カノ點ニ關シテハ、何等探究ヲ試ミヨウトシナカツタコトニ加ヘラレル。

〔註〕「モルガン」ハ此ノ點ニ關シ、其ノ *Ancient Society*, p. 403 ニ於テ次ノ如ク主張セラレテ居ル——Consequently the three systems (three systems of consanguinity) are founded upon three forms of marriage; and they seek to express, as near as the fact could be known, the actual relationship which existed between persons under these forms of marriage respectively. It will be seen, therefore, that they do not rest upon nature, but upon marriage; not upon fictitious considerations, but upon fact; and that each in its turn is a logical as well as truthful system, --- ト。See also Howard, op cit. vol. i. p. 70.

此ノ點ニ關シテ Thomas 氏ハ血族關係 (consanguinity) ト親族關係 (Kinship) トハ、其ノ性質上明カニ之ヲ區別スルコトヲ要スト説カレテ居ル。蓋シ血族關係ハ一ニ出生 (birth) ニ依ルモノデアルガ、親族關係ハ法律若クハ慣習 (The law or custom of the community) ニ依ルモノデアツテ、即チ前者ハ生理學上ノ事實 ((Physiological fact) デアルニ反シ、後者ハ社會學上ノ事實 (Sociological fact) デアルカラデアルト〔註〕。

〔註〕 Thomas, op. cit. pp. 3. 4. 93.

此ノ兩者ヲ觀念上區別スベキ例トシテハ、吾々ハ母系親族制及ビ父系親族制ヲ擧ゲルコトガ出來ル。蓋シ母系親族制ノ行ハレタル時代ニアリテハ、親族ナリヤ否ヤハ、母方ノ系統ニ依ツテノミ定メラレ、後代、父系親族制ガ行ハルルニ至レバ、父方ノ系統ニ依ツテノミ、親族ナリヤ否ヤガ定メラルルニ至ルノデアアルガ、其ノ血族ナリヤ否ヤト云フコトニ關シテハ、母系親族制ガ行ハルルト、父系親族制ガ行ハルルトニ依ツテ何等ノ差異ヲ來サナイカラデアアル。別言スレバ、或ル社會ニ母系親族制ガ行ハレテ居ルカ、父系親族制ガ行ハレテ居ルカト云フコトハ、或ル人ト或ル人トノ間ニ親族關係アリヤ否ヤト云フコトニ關シテハ、影響ヲ及ボスモノデハアルガ、或ル人ト或ル人トノ間ニ血族關係アリヤ否ヤト云フコトニ關シテハ、何等ノ影響ヲ及ボスモノデハナイノデアアル。

更ニ英法ニ於テ、非嫡出子 (Illegitimate child) 〔註一〕ヲ「親ナシ子」(filius nullius) トナシナガラ、而モ他方ニ於テ非嫡出子ニモ近親相婚禁止 (Prohibitions of Marriage between near Relatives) ノ原則ガ適用サレル理由ニ至ツテモ 〔註二〕吾々ハ親族ト血族トヲ區別スルコトニ依ツテノミ、之ヲ理解スルコトガ出來ルノデアアル。彼ノ「イングランド」法ノ「Once a bastard always a bastard」ノ主義ト「スコットランド」法ノ準正 (Leg-

itimation per subsequens matrimonium) トヨリ生ズル效果ノ差異ノ如キ、亦同様ニシテ始メテ理解スルコトガ出來ルデアロウ。

〔註一〕 Illegitimate child 若クハ Bastard ハ從來「私生子」ト譯スルガ如クナルモ、寧ロ「非嫡出子」ト云フガ至當ニ非ザルナキカ。

〔註二〕 Reg. v. Brighton. (1861) 30 L.J.M.C. 197. 即チ裁判所ハ夫ガ其ノ亡妻ノ姪トナシタ婚姻ヲ無効ナラシメタノデアル。而モ此ノ事件ニ於テハ、姪ノ母ハ亡妻ノ母ノ非嫡出子ニ過ギナカツタノデアル。從ツテ亡妻ノ姪ト云フモ、亡妻カラ觀レバ、實ハ自分ト父ヲ異ニスル非嫡出子タル姉妹ノ娘 (Daughter of illegitimate half-sister) ト云フニ外ナラヌノデアル。之ヲ英法ノ立場ヨリ觀レバ、亡妻ト非嫡出子タル其ノ姉妹ノ娘トノ間ニ從ツテ亡妻ノ夫ト其ノ娘トノ間ニモ、何等ノ親族關係存スル筈ナク (A bastard is considered by the law to be *filius nullius*, and has legally no kindred except his own descendants.) 從ツテ又其ノ間ニ、何等ノ禁婚親族關係 (Relationship within the Prohibited Degrees) ハ存シナイノデアルガ。而モ他方ニ於テ、其ノ姪ノ母ハ亡妻ノ母ヲ natural mother トスル點ニ於テ、姪ト亡妻トノ間ニ血族關係 (伯叔母ト姪トノ關係) ハ存スルノデアアル。尙ホ W.P. Eversley, The Law of the Domestic Relations, pp. 77. 78. 590. 591. E. Jenks, Digest of Engl. Civ. Law, BK. IV, § 1855. 参照。

以上述ベタルガ如ク、親族ト血族トハ觀念上區別スベキモノナルニモ拘ハラズ、「モルガン」ガ親族制度ヨリシテ、直チニ血

族關係ヲ推斷シタノハ、正シイ論法トハ云ヘナイ。現ニ「モルガン」自身ノ説明ノ中ニ於テモ、親族稱呼ガ血族關係ヲ表示スルモノデナイコトヲ、裏書シテ居ル點ガ少クナイ。例ヘバ子ハ何人ガ果シテ自分ノ父デアルカ不明デアルカラ、自分ノ父タリ得ル可能ノ男子ハ、スベテ之ヲ父ト呼ンダト云フコトハアリ得テモ、自分ヲ現ニ生マヌ女例ヘバ母ノ姉妹ヲモ（前掲親族稱呼比較表參照）母ト呼ブト云フコトハ、即チ親族稱呼ガ、實際ノ血族關係ヲ表示スルモノデナイコトヲ、明カニ物語ツテ居ルモノデナケレバナラス。別言スレバ、「モルガン」自身「母」ト云フ稱呼ガ、母タル實際ノ血族關係ヲ表示セザルベキコトノアルヲ認メテ居ルノデアル。

親族稱呼ノ起源ガ、血族關係ノ表示ニ存セズトセバ、其ノ起源如何ノ問題ニ關シテ Westermarck (History. etc., vol. i. pp. 21, et seq. See also Idem, The Origin and Development of the Moral Ideas, vol. ii. pp. 197, et seq.) Rivers (Kinship. etc., p. 1.) Lang (Social Origins. etc., pp. 102. 103.) Thomas (Kinship Organisations. etc., pp. 122. et seq.) ハ、孰レモ性、年齢及ビ話者 (speaker) ノ相手方ニ對スル社會的地位等ガ、其ノ親族稱呼ニ重大ナ影響ヲ及ボスベキコトヲ説カレテ居ル。殊ニ「ウエスターマータ」ハ、父トカ母トカ云フ様ナ言葉ガ、子供ノ最モ容易ニ發音シ得ル音 (sounds) カラ組成サレル場合ノ頗ル多キコトヲ、「ブツシュマン」(J.C.E.Buschmann) 教授ノ作

ツタ多數ノ國語ニ於ケル父母ト云フ稱呼ノ比較表ヨリ推論シテ居ラレル〔註〕。

〔註〕 Buschmann 教授ハ、多數諸國ノ父母ト云フ稱呼ヲ比較シタ後ニ、凡ソ父ト云フ稱呼ニ、四ツノ典型ガ存スルト述ベラレテ居ル。即チ pa, ta, ap, at, ガ是デアル。之ト同時ニ、母ト云フ稱呼ノ四ツノ典型ハ ma, na, am, an, デアル——但シ處ニヨツテハ、之ガ全ク正反對ニナツテ、例ヘバ「イザベル」(Ysabel)ノ「マハガ」(Mahaga) 語デハ父ヲ「ママー」(mama) ト呼ビ南「インド」ノ「ツルヴ」人 (The Tuluvas) ハ父ヲ「アムメー」(amme) 母ヲ「アツペー」(appe) ト呼ンデ居ル (See Westermarck, op. cit. vol. i. pp. 242, 243)——而シテ Preyer 教授ニ依レバ、由來 pa-pa, ma-ma, tata, apa, ama, ata, ト云フ音ハ、人が息ヲ吐キ出ス時、唇又ハ舌デ吐キ出スノヲ妨ゲタ時ニ、ヒトリデニ出テクル音デアルト (See Idem, Die Seele des Kindes, p. 321)。

此ノ Preyer 教授ノ説明ト前掲 Buschmann 教授ノ擧ゲタ父母ト云フ稱呼ノ四ツノ典型トヲ比較スルトキ、父母ト云フ稱呼ノ起源ニ關シテ、何等カノ暗示ヲ得ルコトガ出來ヨウ。コノ四ツノ典型ニ屬セザル例ヘバ、父ヲ「リフ」(Lifu) 語デ「カカー」(Kaka) ト云ヒ、「バラデア」(Baladea)ノ「ドール」(Duauru) 語デ「チチャー」(Chicha) ト云ヒ、「マレー」語デ「チャチャー」(Chacha) 又ハ「チェッチュー」(Cheche) ト云フガ如キハ、人種ニヨツテ、或ル音ヲ出スコトニ關シテ、難易ノ差ガアコトニ結果スルモノデアルト、觀察サレ得ル場合ガ少クナイ。尙ホ Lubbock ノ Origin of Civilisation pp, 346—350 —モ此ノ種ノ父母ト云フ稱呼ノ比較表ガ掲ゲラレテ居ル。

而シテ幼兒ノ片言 (babble of infants) = 由來スル親族稱呼ハ、幼兒ガ大人ニナツテモ、幼兒ノ時ニ使ツタ親族稱呼ヲ其儘ニ用フルデアロウシ、又父トカ母トカト云フ言葉ガ、幼兒ノ片言ニ其ノ起源ヲ有スルモノトスレバ、其ノ言葉ニ深イ意味モアロウ筈ガナイト述ベラレテ居ル (Westermarck, op. cit. vol. i. pp. 242—246)。勿論「ウエスターマーク」氏ハ、スベテノ親族稱呼ノ起源ヲ斯克ノ如クシテ、説キ去ロウトスル者デハナイコトハ固ヨリデアル〔註〕。

〔註〕 Ibid. vol. i. pp. 251. 252.

前述シタル論難ノ他、(1)「モルガン」ノ云フガ如クニ、階級制度ニ屬スル親族稱呼ガ、血族制又ハ團體制結婚ノ、嘗テ存シタリシ證據デアツテ、其ノ痕跡ガ言語ノ上ニ殘存シテ居ルモノデアルト云フコトヲ主張シ得ルカラニハ、少クトモ其ノ前提要件トシテ、吾々ハ斯ノ如キ共產的結婚ノ状態ノ下ニ生活シテ居ツタ人々ト雖モ、尙ホ今日ノ一夫一妻婚ノ下ニ生活シテ居ル人人ガ持ツテ居ルト全ク同様ノ意義ニ於ケル「父」「母」「姉妹」「兄弟」「息子」「娘」等ト云フ觀念ヲ持ツテ居ツタコトヲ説明セネバナラスノデアル。而カモ此等ノ親族關係ヲ表ス言葉ハ、「モルガン」自身モ示スガ如クニ、階級制度ノ下ニ於テハ、極メテ不精確ニ用ヒラレタノデアツテ、此ノコトハ Lang 氏ガ云ツテ居ル

ガ如クニ〔註〕共產的結婚制ノ下ニ在ル人々ト、一夫一妻制ノ下ニ在ル吾々トハ、同ジク「父」「母」「姉妹」「兄弟」「息子」「娘」ト云フモ必ラスシモ其ノ意義、觀念ヲ同ジウスルモノニ非ザルコトヲ示スモノニ外ナラヌノデハアルマイカ。

之ヲ要スルニ、「モルガン」氏ノ學說ハ一夫一妻制ノ下ニ於ケル「父」「母」「姉妹」「兄弟」「息子」「娘」ト云フ觀念ガ、直チニ共產的結婚制ノ下ニ於テモ、存シタリシコトヲ、何等ノ説明ヲ試ミルコトナクシテ、推斷シテ議論ヲ進メタ點ニ於テモ非難セラレネバナラヌノデアアル。

〔註〕 Lang 氏ハ次ノ如ク云テ居ラレル—— Our ideas of these relationships could not enter the human mind, at the hypothetical stage of culture when nobody knew 'who is who' and the hypothesis is wrecked on that fact. (Ibid, pp. 102, 103.)

(2)更ニ Kroeber 教授及ビ Dr. Rivers ニ從ヘバ〔註〕「モルガン」ガ爲シタ親族關係ヲ表ス言葉 (terms of relationship) ノ組織ニ、根本的ニ異ナル二ツノ別—— Classificatory System of Relationship ト Descriptive System of Relationship——アルコトモ、非常ニ怪シクナツテ來タ。此ノ事ハ「モルガン」ノ學說ニトツテハ、誠ニ重大ナ事柄デアアル。蓋シ「モルガン」ハ Group-Relationships ヲ表示スル Classificatory System of Relationship ハ、其ノ起源ヲ Group-Marriage ニ持ツテ居ルモノデアルトナ

スカラデアアル。

〔註〕 Kroeber, 'Classificatory Systems of Relationship,' in Jour. Roy. Anthr. Inst. xxxix. p. 77.
Rivers, Kinship and Social Organisation. p. 76 sq.

Kroeber 教授ニ依レバ、スベテノ國語ガ單一ノ稱呼ノ下ニ、親等ヲ異ニシ、種類ヲ異ニスル多數ノ親族ヲ配合スルモノデアツテ、獨リ Classificatory System of Relationship ニ屬スル親族稱呼ノミニ關スル特性デハナイノデアアル。例ヘバ英語デ brother ト云フトキハ、兄ヲモ弟ヲモ含ムノミナラズ、男ノ brother タルト女ノ brother タルトヲ區別スルモノデハナイ。又英語ノ cousin ト云フ言葉ハ、三十二個ノ異ナツタ親族關係ヲ表示シテ居ルト 茲ニ於テカ、Descriptive System of Relationship ノ特色タル descriptive ナルコトハ、Classificatory System of Relationship ノ叙述スルトコロト、何等異ナル所ガナクナツテ來タノデアアル。

更ニ「モルガン」ノ學說ニ依レバ、父系親タルト、母系親タルトヲ區別セザル制度ハ、ソレヲ區別スル制度ヨリ、ヨリ古イモノデアアル。蓋シ後者ハ前者ヨリモ親族關係ヲ表ス言葉ガ、豊富デアアルカラデアアル。果シテ然ラバ、父ノ兄弟姉妹ヲモ、母ノ兄弟姉妹ヲモ、同一ニ類別スル現代英語ハ、父方ノ伯叔父母ト、母方ノ伯叔父母トヲ區別スル「アングロ、サクソン」語又ハ「ラテ

ン」語ヨリ、ヨリ古イモノデアルト云フコトニナラネバナナルマ
イ〔註〕。茲ニ於テカ、「モルガン」ノ Classificatory System of
Relationship ヨリ Descriptive System of Relationship へノ進化
ノ中ニ見出サレタ原則ハ、全ク破壊セザルヲ得ナイノデアアル。

〔註〕 Westernreck, op. cit. vol. i. p. 240.

以上記述シタルガ如クデアアルカラ、親族關係ヲ表ハス言葉ヨ
リシテ、婚姻ノ形式ヲ推斷スルト云フ「モルガン」ノ學說ハ、決
シテ正シイ基礎ノ上ニ立ツテオルモノトハ云ヘナイ。從ツテ「モ
ルガン」ノ學說ニ影響サレテ記シタ「フイゾン」「ハウイツト」
「スペンサー」「ギレン」ノ「オーストラリア」ノ土人ニ關スル報
告モ亦、決シテ正シイモノトシテ、之ヲ信ズルコトハ出來ナイ
ノデアアル。現ニ「クル」(E. M. Curr) マッチー (Rev. John
Mathew) ハ此等ノ報告ト全ク異ツテ、「オーストラリア」ニ於
テハ過去ニ於テ、男女ガ雜婚生活ヲシテ居ツタト云フ證據モ存
シナケレバ、又現ニ雜婚生活ヲシテ居ルノヲ、未ダ嘗テ見タコ
トモナイ。寧ロ其ノ反對コソ、著名ノ事實デアアル。團體の結婚ノ
存在セシコトヲ假定スルニ非ザレバ、説明スルコトノ出來ナイ
事實若クハ言語 (linguistic expression) ハ、タダノ一ツモ存シ
ナイ。寧ロ團體の結婚ノ存在ヲ假定スルコトニ依ツテ、却ツテ
之ト矛盾スル事實ガ、幾多モ存スルト述ベラレテ居ル〔註〕。

〔註〕 Curr, The Australian Race, vol. i. pp. 126. 142.

Mathew, 'The Australian Aborigines,' in Jour. and Proceed. Roy. Soc. New South Wales. vol xxiii. p. 404.

(Quoted from Westermarek)

Howard. Grosse. Bosanquet 孰レモ、此ノ説明ヲ是認セラレテ居ル〔註〕。就中、「グロ、セ」ハ之ヲ以テ最低級ノ社會ニモ、尙ホ家族ハ存スルモノナリトノ説ノ根據トナサレテ居ル。

〔註〕 Howard, History of Matrimonial Institutions, p. 70.

Grosse. Die Formen der Familie und die Formen der Wirtschaft, p. 42. (Quoted from Bosanquet) Bosanquet, The Family, p. 29.

以上述ベタルガ如クデアルカラ、吾々ハ巡遊者ノ野蠻人ニ關スル報告ヲ資料トシテ、研究ヲ進メ得ルガ爲ニハ、少クトモ多數ノ豐富ナル資料ヲ有シ、自ラ此等ノ資料ヲ相互比較検討スルノ餘裕ガナクテハナルマイ。蓋シ其ノ量(quantity)ニ依ツテ、多少ナリトモ其ノ質(quality)ヲ償ヒ得ルノ機會ヲ得ンガ爲デアル。僅カノ此種ノ報告ヤ記述ヲ資料トシテ、誇大ナル結論ヲ歸納スルコトハ、吾々ノ勤メテ避ケネバナラヌコトニ屬スル。

次ニ、表象若クハ遺風ヲ研究スルコトニ依ツテ、ソレニ對應スルトコロノ過去ノ人類ノ生活形式ヲ、推論スルト云フ研究方法ハ、從來多數ノ學者ニ依ツテ採用セラレタモノデアルコトハ

既ニ之ヲ述ベタ如クデハアルガ、自分トシテハ、此ノ研究方法ニ依ルコトニ就テモ亦躊躇セザルヲ得ナイ點ガアル。蓋シ表象ヤ遺風ガ、人類ノ文明ノ起源ヤ其ノ初期ノ發達ニ關シ、極メテ重要ナル研究資料デアルコトハ勿論デハアルガ、此ノ研究方法ヲシテ誤ラシムルモノハ、常ニ吾人ノ臆測ノ加ハルコトデアルコトヲ思ハナクテハナラナイ。即チ文明諸民族ノ間ニ現ニ保有セラレテ居ル遺風乃至表象ヲ解釋スルニ當ツテ、多數ノ野蠻乃至未開ノ民族ノ間ニ現存スル状態ト結ビ付ケ、以テ首尾一貫セル系統、説明ヲ立テント企ツルガ爲メニ、茲ニ多クノ想像臆測ヲ加味セネバナラヌニ至ルノガ、此ノ研究方法ノ陥リ易キ點デアルト云ハネバナラナイ。

C. Pre-Nuptial Unchastity.

例ヘバ「ポスト」(A.H. Post) ハ、其ノ著 Die Grundlagen des Rechts, p. 187 ニ於テ、未婚男女ノ私通ヲ許ス慣習ガ、低級民族ノ間ニ廣ク行ハレテ居ルト云フコトカラシテ、人類ハ原始時代ニ於テハ、一般ニ雜婚生活ヲ爲シテ居ツタモノデアルト云フ事ヲ推論シタルガ如キハ〔註〕即チ此ノ研究方法ニ屬スルノデアアル。蓋シ未婚男女ノ私通ヲ以テ、原始雜婚ノ遺風 (Relics of Primitive Promiscuity) デアルト解釋スルニアルカラデアアル。

〔註〕 Quoted from Westermarck, op. cit. vol. i. p. 126. See also

ibid (3rd edit.), p. 61.

勿論、吾々ハ未開民族ニ於テ、男女ガ婚姻前ニ爲ス私通、淫奔 (Pre-Nuptial Unchastity) ノ實例ハ、幾多之ヲ持ツテ居ル〔註一〕。然シナガラ是ヲ以テ、斯ノ如キ私通、淫奔ガ、低級民族ノ一般の特徴 (A universal characteristic of the lower races) デアルト考ヘテハナラナイ〔註二〕。

〔註一〕 此ノ實例ニ關シテハ Westermarck, Origin and Development of the Moral Ideas, vol. ii. 422 sqq. 参照

〔註二〕 Westermarck, op. cit. vol. i. pp. 138. 139. Idem, Origin, etc., vol. ii. pp. 424. 425.

蓋シ吾々ハ一方ニ於テハ、極メテ淫奔ナ低級民族ヲ多數有スルト同時ニ、又他方ニ於テハ、結婚前ニ爲ス男女ノ性交ヲ、極メテ稀有ノ事柄トスル且ツ之ヲ以テ、不面目 (disgrace) ナリトシ若クハ犯罪 (crime) ナリトシテ處罰スル低級民族モ亦多數存スルカラデアル。Westermarck ハ此ノ種ノ低級民族ニ屬スル南北兩「アメリカ・インド」人、「シベリア」人、「マレー」群島及ビ「ニュー・ギニア」ノ原住民、「オーストラリア」及ビ「アフリカ」ノ土人等多數ニ互リテ廣大ニ且ツ詳細ニ記述セラレテ居ル〔註〕。

〔註〕 Westermarck, op. cit. vol. i. pp. 139. et seq. Idem. Origin,

etc., vol. ii. pp. 425. et seq.

今茲ニ、二、三ノモノヲ其ノ例示トシテ揚ゲレバ、例ヘバ北「アメリカインド」人ニ屬スル「グリーンランド」人(The Greenlanders)ニ關シテ、「エゲーデ」(Hans Egede)ノ語ル所ニ依レバ、「グリーンランド」ニ於テハ、未婚婦人ハ既婚婦人ヨリモ貞淑デアル。自分ガ「グリーンランド」ニ滿十五ケ年住ンデ居ル間ニ、婚姻スルコトナクシテ子供ヲ得タ若イ女ハ、二、三人ニ過ギナカツタ。蓋シ斯ノ如キコトハ、最大ノ不名譽(The greatest of infamies)トセラレテ居ルカラデアル〔註〕。

〔註〕 Egede, Description of Greenland, p. 141. (Quoted from Westermarek, op. cit. vol. i. p. 141.)

又「ウイルケン」(G.A. Wilken)ノ報ズル所ニ依レバ、マレー(Malay)群島ニ於ケル「ニアス」(Nias)ニ於テハ、未婚ノ女子ガ妊娠スレバ、其ノ女及ビ其ノ女ヲ口説キ落シタ男(seducer)ハ共ニ死刑ニ處セラレル〔註〕。

〔註〕 Wilken, 'Plechtigeden en gebruiken bij verlovningen en huwelijken bij de volken van den Indischen Archipel,' in Bijdragen tot de taal-, land-en volkenkunde van Nederlandsch-Indië, ser. v. vol. iv. 434 sqq. (Quoted from Westermarek, op. cit. vol. i. p. 145)。

又「ムーア、ダヴィス」(Moore Davis)ノ語ル所ニ依レバ、「オーストラリア」土人ノ間ニハ、男女間ニ淫奔關係ハ滅多ニ存シナイ。此ノ事柄ニ關スル彼等ノ法律、就中 New South Walesノ法律ハ、極メテ嚴重デアアル。野宿スル場合ニハ、スベテノ若キ未婚男子ハ自ラ其ノ端ノ方ニ位置ヲ占メ、既婚男子ハ各其ノ家族ト共ニ其ノ中央部ヲ占メル。ソシテ未婚男子ハ娘及ビ既婚婦人ト雜談スルコトヲ許サレナイ。此ノ規定ヲ犯シタ場合ニ關スル制裁ハ、被害部落ノ者ニ依ツテ課セラルル場合モアルシ、又違犯者自身ガ自己ノ罪ヲ購ハンガ爲メニ、比較的短距離カラ五、六人ノ戰士ガ投ゲタ各數本ノ槍ヲ、單ニ楯若クハ根棒ヲ以テ、防ガネバナラスト云フコトニナツテ居ル場合モアルト〔註〕。

〔註〕 Moore Davis, *Aborigines of Victoria*, ii. p. 318. (Quoted from Westermarek, *op. cit.* vol. i. pp. 149. 150.)

更ニ「ムンゼンガー」(W. Munzinger)ノ報ズル所ニ依レバ、「アフリカ」ノ「ベニ、アマー」人(The Beni Amer)ニ於テハ、既婚婦人ハ如何ナル事ヲ爲シテモ差支ヘナイト思ツテ居ルガ、未婚婦人ハ極メテ眞實デアアル。ソシテ、若シモ娘ガ結婚セズニ母トナレバ、其ノ娘、其ノ父及ビ其ノ子供ハ皆ナ殺サレテ了フノデアアル。之ト同様ノ習慣ハ「マレア」人(The Marea)ノ中ニモ存スル〔註〕。

〔註〕 Munzinger, Ostafrikanische Studien, pp. 243, 322, 326.
 (Quoted from Westermarck, op. cit. vol. i. p. 154)。

以上述べタルガ如クデアアルカラ、淫奔若クハ不身持ト云フ事ヲ以テ、野蠻人ノ一般の特徴デアルト考ヘテハナラナイ。寧ロ其ノ反對コソ、眞實デアル様デアアル。蓋シ野蠻人が淫奔のナ風習ヲ持ツニ至ツタコトハ、開化人ト接觸シタト云フコトガ、多クハ其ノ原因ヲナシテ居ルモノデアルト云フコトヲ示ス多數ノ報告ガアルノミナラズ〔註〕

〔註〕 Westermarck ハ此ノ種ノ報告ヲ多數集メテ居ラレル (ibid. vol. i. pp. 127, et seq.)。今其ノ二、三ヲ例示スレバ、「エドワード、ステッフュンス」(Edward Stephens) ハ南「オーストラリア」ノ「アデレード」(Adelaide) 平原ニ嘗テ住ンデ居ツタ蠻族ニ關シテ語ツテ居ル。「原則トシテ——之ニハ例外ハナイガ——黒色人ハ、白色人ノ殖民地トハ離レテ住ンデハ居ルガ、白色人ノ中ノ不行跡ノ者ハ、土人ト近ヅキ、ニナラウト非常ニ努メル。其ノ目的ハ専ラ不道德ノモノデアアル……………私ハ猥褻化サレナイ以前カラ、土人ト一所ニ居ツテ、能ク彼等ヲ知ツテ居タ……………彼等ガ現在持ツテ居ル惡行ノ殆ンド全部ハ、白色人ノ傳ヘタ不道德ト、白色人ノ傳ヘタ酒ニ基クモノデアルト、私ハ確信シテ斷言スルコトガ出來ル」ト (Stephens, 'Aborigines of Australia,' in Jour. Roy. Soc. N.S. Wales, xxiii. 480.)。又「ヴァンクバー」(G. Vancouver) ガ「クック」(Cook) ト共ニ「サンドウイツチ」(Sandwich) 諸島ヲ訪問シタトキニハ、婦人ノ間ニハ淫奔ノ様子ハ殆ンド見ラレナカツタ。然ルニ數年

ヲ經テ、再ビ彼ガ其ノ諸島ヲ訪問シテ見ルト、婦人が淫奔デア
ルコトハ極メテ目立ツヤウニナツテ居ツタ。彼ハ此ノ變化ノ原
因ヲ、外國人トノ交際ノ結果ニ歸シテ居ル (Vancouver, Voy-
age of Discovery, i. 171 sq.)。「ポーナペ」(Ponapé. Caroline
Islands.)「タッナ」(Tanna. New Hebrides.)ノ婦人が其ノ貞淑
ヲ失ツタノモ亦同様ノ影響ヲ受ケタモノデアルト云ハレテ居ル
(Waitz-Gerland, Anthropologie der Naturvölker, vol. v. pt. ii.
108. Brenchley, Jottings among the South Sea Islands, p. 208.)
又「パワース」(Stephan Powers)ノ報ズル所ニ依レバ、「カリ
ホルニア」(California)ノ「ヨーカット」人(The Yokut)ハ、
現在デハ未婚ノ男女ガ極メテ放縱デアルガ、「アメリカ」人ノ
移住シナイ前ハ、比較的操正シクアツタト云ハレテ居ル(Pow-
ers, Tribes of California, p. 381.)。

更ニ「クウェーン、チャーロット」(Queen Charlotte)島民ニ關
シ、「ジャコブセン」船長(Captain Jacobsen)ノ語ル所ニ依レ
バ、島民ノ今日ノ墮落ハ、實ニ前世紀ノ中葉、此ノ地ニ來タ探
金鑛夫(gold diggers)ノ誘致シタモノデアルト(Woldt, Cap-
tain Jacobsen's Reise an der Nordwestküste Amerikas, p.
28)。

未婚男女間ニ於ケル貞節又ハ不貞節 (Pre-nuptial chastity or
unchastity)ノ問題ハ、結婚期ノ高低ニ依ツテ非常ニ影響サレル
モノデアルコト〔註一〕ト、文明ノ進歩ハ結婚期ヲ遅延セシメ、
加フルニ獨身者ヲ増加セシムルモノデアルコト〔註二〕トヲ綜
合考察スルトキハ、性的關係ノ放縱ハ——タトヒ、ヨリ高尚ナ
ル道德的的感覺ガ或ル程度マデ、情慾ヲ制御スルトハ云へ——文

明ノ進歩スルニツレテ、其ノ放縱ノ度ヲ増シテユクモノデアルト考ヘラルルカラデア。別言スレバ、春情發動期ヲ以テ結婚期トナスコトノ出來ル非開化民族ト、春情發動期ト結婚期トノ間ニ、非常ナ距離ヲ置クベク餘儀ナクセララル開化民族トヲ比較スレバ、婚姻前ニ於ケル私通乃至淫奔關係ハ、非開化民族ニ伴フ必然ノ固有ノ現象ニハ非ズシテ、寧ロ開化民族ノ間ニ發生スル可能性ガ、ヨリ多ク存スルノデア。而シテ既ニ開化民族ノ間ニ發生シタ此等ノ現象ガ、開化民族殊ニ情慾不満足者ノ多キ船員移民等ヲ經テ、非開化民族ヘト傳承シタモノデアルト、觀察サレル場合ガ極メテ多イノデア。

〔註一〕 此ノ事ヲ裏書スル統計ハ幾多存スル。Westermarckニ依レバ、歐洲ノ都市ニ於テハ、婚姻ノ數ガ減少スルニ從ツテ、逆ニ淫賣(Prostitution)ハ増大スル(v. Oettingen, Moralstatistik, pp. 199, 216.)。又「エンゲル」(Engel)及ビ其ノ他ノ學者ニ依ツテ、婚姻ノ數ガヨリ少イ年ニハ、非嫡出子ノ出生ノ割合ガヨリ増加スルト云フコトガ示サレテ居ル(Ibid. p. 327.)。

〔註二〕 平沼淑郎博士「經濟ヨリ觀タル婚姻法」——法學志林第十三卷二號。拙著親族法概論一五六頁乃至一五八頁參照。

之ヲ要スルニ、婚姻前ニ於ケル淫奔ハ人類進化ノ過程ノ或ル階段ニ於テ、主トシテ妻ヲ得ルコトノ困難(The difficulty of procuring a wife)ナル事情ヨリシテ、起ツタ現象デアツテ、人類原始状態ニ伴フ必然ノ現象デハナイノデア。從ツテ二、三

ノ低級民族ガ婚姻前ニ於テ極メテ淫奔デアルト云フコトヲ以テ人類一般ノ原始時代ニ於ケル雜婚ノ遺風 (A relic of a primitive condition of general promiscuity) デアルトシテ、説明スルコトハ、決シテ正シイ解釋デアルトハ云ヘナイノデアラウ。況シテ二、三ノ低級民族ノ間ニ行ハレテ居ル婚姻前ノ淫奔ト原始雜婚トハ、全ク其ノ性質ヲ異ニスルモノデアルヲ思ハバ、一層其ノ推論ノ正シカラザルヲ、信ゼザルヲ得ナイ。

從ツテ又、非開化民族ノ男女關係ガ放縱デアルノハ、其ノ倫理觀念ノ低級ノ爲メデアルト爲シ、倫理思想ノ發達ハ、能ク開化民族ヲシテ、雜婚狀態ヨリ婚姻制ヘト進化セシメタモノデアルト云フ説明ニ對シテモ、亦自分ハ前述ノ理由ニ依ツテ、之ニ賛同スルヲ得ナイ。殊ニ近時性慾學者ノ説明スル非開化民族ノ性慾ハ却ツテ文明人ニ劣ルモノデアルト云フコトヲ思ハバ、非開化民族ガ雜婚狀態ヲ繼續シテ居ル理由ヲ、其ノ性慾關係ト、之ニ結び付ケルニ倫理思想ノ低級トヲ、以テスル推論ノ正シカラザルヤ明ラカデアロウ。之ヲ要スルニ、性慾ノ強弱及ビ倫理思想ノ高低ハ、非開化民族ノ男女關係ニ、重大ナル影響ヲ及ボスモノデハナイノデアル。

D. The Jus Primae Noctis

次ニ「ラボツク」ハ婚姻ニ際シテ、花嫁ガ僧侶、君主、酋長又ハ貴族等ノ特殊ノ人ト、婚姻初夜ノ寢ヲ共ニスル慣習 (Jus

Primae Noctis) 〔註一〕若クハ來客ニ自己ノ妻ヲ貸ス慣習 (The Custom of Lending Wives to Visitors) 〔註二〕ヲ以テ、原始雜婚——「ラボック」ノ所謂 Communal Marriage 〔註三〕——ノ遺風デアルトナシ、此等ノ奇怪ナ慣習ヨリシテ、原始雜婚ノ存在ヲ推論シテ居ラレル。

〔註一〕 Jus Primae Noctis ハ世界ノ各地ニ涉ツテ、多數ノ民族ノ間ニ行ハレ若クハ嘗テ行ハレタ慣習デアル。今茲ニ其ノ二、三ヲ例示スレバ (Quoted from Westermarek, op. cit. vol. i. pp. 166, et seq.) 「ブラジル、インド」人 (The Brazilian Indians) ノ中ニ於テハ、新夫ニ先ンジナ花嫁ヲ試嘗スル權利即チ Jus Primae Noctis ハ、魔術師 (The medicine-man) 又ハ其ノ酋長ニ、現ニ與ヘラレテ居ルト云ハレテ居ル (v. Martius, Beiträge zur Ethnographie Amerika's i. 113. v. Spix and v. Martius, Reise in Brasilien, iii. 1182.)。

又「キューマナ」(Cumana) 即チ現今ノ Venezuela ニ於テハ、妾デナイ本妻 (Legitimate wives) ハ、僧侶ニ依ツテ其ノ處女ヲ汚サレル慣習ガアツテ、此ノ慣習ニ從ハナイコトハ、非常ナ罪惡デアルト考ヘラレテ居ツタ (Gomara, 'Primera parte de la historia general de las Indias,' in Biblioteca de autores españoles, xxii. 206.)。

更ニ「ヘロドタス」(Herodotus) ガ「ナサモニア」人 (The Nasa-monians) ニ關シテ、又「ボムボニウス、メラ」(Pomponius Mela) 及ビ「ソリナス」(Solinus) ガ「オーギレー」人 (The Augilae in the Cyrenaica) ニ關シテ、又「ディオドルス、シクルス」(Diodorus Siculus) ガ「バレアリック」島 (The Balearic

Islands) ニ關シテ、又「ガルシラッソー、デ、ラ、ベガ」(Garcilasso de la Vega) ガ「ペルー」(Peru) ノ或ル地方ニ關シテ、語ル所ヲ綜合スレバ、此等ノ各民族ニ於テハ、花嫁ハ婚禮客各自ト順次ニ婚姻第一夜ノ寢ヲ共ニスル慣習ガ、存在シテ居ツタノデアル (Westermarck, op. cit. vol. i. p.197)。

〔註二〕 此ノ The Custom of Lending Wives to Visitors [妻貸シ俗] ハ「エスキモー」人、南北兩「アメリカ、インド」人、「ボリネシア」人、「オーストラリア」人、「バーバル」人、東西兩黑人、「アラビア」人、「アビシニア」人、「カフィール」人、「モーコ」人等ノ間ニ廣ク行ハレ、若クハ嘗テ行ハレテ居ツタ (Lubbock, op. cit. p. 107. Westermarck, op. cit. vol. i. pp. 225, 226.)

〔註三〕 「ラボツク」ハ其ノ Communal Marriage ニ對シ、次ノ如キ説明ヲ與ヘラレテ居ル——The primitive condition of man, socially, was one in which marriage did not exist, or, as we may perhaps for convenience call it, of communal marriage, where all the men and women in a small community were regarded as equally married to one another. (Lubbock, op. cit. pp. 79. 80.)——從ツテ之ヲ雜婚ト解スルモ差支ヘナイコトト思フ。蓋シ Communal Marriage ト稱スルモ、コレハ單ニ便宜ノ爲メニ附シタ名稱ニ過ギナイ。一族ノ男女ガスベテ平等ニ無差別ニ、皆ナ夫デアリ妻デアルト見做サルルコトハ、「ラボツク」自身モ云フテ居ルガ如クニ、結局、無婚姻狀態ヲ指スモノニ他ナラヌカラデアル。尙ホ建部遜吾氏「普通社會學第三卷社會靜學」九五頁參照。

即チ「ラボツク」ニ從ヘバ、Jus Primae Noctis ハ個別婚ヲ行ハントスル者ガ、爲ス贖罪行爲 (Acts of Expiation for Indivi-

dual Marriage) = 他ナラナイノデアル。蓋シ彼ニ依レバ、原始時代ニ於テハ、部落内ノ總テノ女子ハ當部落内ノ總テノ男子ノ共有ニ屬シテ居ツタ。從ツテ此ノ時代ニ於テハ、一男ガ一女ヲ獨占スルト云フコトハ、其ノ部落全體ノ共有權 (Communal Rights) ヲ侵害スルモノデアルガ故ニ、許サルル限リデハナカッタ。然ルニ女ヲ他部落ヨリ掠奪スル風習ト共ニ、個別婚ノ俗ガ起ツテクルト、妻ヲ獨占セントスルニハ、先ヅ從來存シテ居ッタ部落員ノ女子ニ對スル此ノ共有權ノ行使ヲ一時認メテ、後始メテ適法ニ許サルベキモノデアルト考ヘラルルニ至ツタ (In many cases the exclusive possession of a wife could only be legally acquired by a temporary recognition of the pre-existing communal rights.—p. 437.)。斯クシテ此ノ部落員各自ノ共有權ヲ夫ガ認メル形式ハ、或ヒハ其ノ部落ノ代表者タル僧侶、君主酋長又ハ貴族等ニ花嫁ヲ (代表的ニ) 提供スルコトニ依ツテ爲サルル場合モアルシ、又婚姻ノ夜ニ婚禮客ニ花嫁ヲ提供スルコトニ依ツテ爲サルル場合モアル。其ノ孰レニセヨ、部落員ガ花嫁ニ對シテ有シタル共有權ノ行使ヲ、夫ガ一時認容スルコトニ依ツテノミ、夫ハ適法ニ花嫁ヲ獨占スルコトガ出來、此ノ夫ノ認容ハ即チ *Jus Primae Noctis* トナルモノニ他ナラヌト爲シテ居ラレル。從ツテ「ラボック」ハ此ノ *Jus Primae Noctis* ヲ以テ、部落ノ全員ガ女子ニ對シテ共有權ヲ有シタリシ時代ノ遺風デアルトナシ、又逆ニ此ノ *Jus Primae Noctis* ヨリシテ、女子ノ

共有状態即チ原始雜婚ノ存在ヲ推論セラレテ居ル〔註〕。

〔註〕 Lubbock, op. cit. p. 437 sq.

「バツホーフエン」(Bachofen, Das Mutterrecht, pp. 12, 13, 17, 18, &c.) 「ジロー、チューロン」(Giraud-Teulon, Les origines du mariage et de la famille, pp. 32, &c.) 「ポスト」(Post, Die Geschlechtsgenossenschaft der Urzeit, p. 37.) 「ブロツホ」(Bloch, Sexual Life of Our Time, p. 190.) 「ハウイツト」(Howitt, Native Tribes, p. 219.) 等モ之ヲ以テ原始雜婚ノ遺風トナス點ニ於テ同様デアル (Quoted from Westermarck, op. cit. vol. i. pp. 166. 203.)。

又「ラボツク」ニ從ヘバ、The Custom of Lending Wives to Visitors〔妻貸シ俗〕ヲ以テ、部落員各自ガ女ノ上ニ本來持ツテ居ツタ共有權ヲ夫ガ一時承認シ、ソコデ來客ガ一時的ノ部落員トシテ、此ノ共有權ヲ行使スルモノデアル (The practice, moreover, seems to recognise the existence of a right inherent in every member of the community, and to visitors as temporary members. p. 107.) トシテ説明セラレテ居ル。從ツテ「ラボツク」ハ此ノ〔妻貸シ俗〕ヲ以テ、亦同ジク原始雜婚ノ遺風 (A relic of ancient communism in women) トナスノデアル〔註〕。

〔註〕 「ポスト」モ亦之ト同様ニ、原始雜婚ノ遺風ト觀テ居ラレル (Post, Die Geschlechtsgenossenschaft der Urzeit, p. 34 sq.)。

Lippert, Kohler, Wilutzky モ亦然リ—— Quoted from Westermarck, op. cit. vol. i. p. 225.

由來、Jus Primae Noctis ノ起源乃至發達ノ説明ニ關シテハ、學者ノ間ニ幾多ノ論争ガアツテ、其ノ歸一スル所ヲ知ラナイ。此等ノ諸説ヲ紹介シ批判スルノハ、本稿ノ目的トスル所デナイカラ、此ノ問題ニ立入ルコトハ、敢テ之ヲ避ケネバナラス。タダ Jus Primae Noctis ヲ以テ、原始雜婚ノ遺風乃至痕跡ナリトナス「ラボック」ノ解釋ニツキテハ、茲デ是非共考察スルノ必要ガアル。蓋シ「ラボック」ニ從ヘバ、自己ノ共同婚説 (The hypothesis of promiscuity or “Communal Marriage”) ハ、此ノ Jus Primae Noctis ノ俗ニ依ツテ、更ニ一段ト有力ニナルト考ヘテ居ルカラデアアル。

「マツクレナン」ハ Jus Primae Noctis ヲ以テ、個別婚ノ宥免行爲 (Acts of expiation for individual marriage) デアルトナシタ「ラボック」ノ説明ニ對シテ、次ノ如キ批難ヲシテ居ラレル——若シ「ラボック」ノ云ノガ如ク、Jus Primae Noctis ガ古代ノ女子共有權 (An ancient communal right) ニ由來スルモノデアルトスレバ、Jus Primae Noctis ハ必ズヤ、夫タルベキ者ノ屬スル部落ノ男子ニノミ、與ヘラルベキモノデナケレバナラス。而モ事實ハ必ズシモサウデハナイ。此ノ特權ハ、或ヒハ花嫁ノ最近親族若クハ花嫁ノ屬スル部落ノ青年ニ與ヘラレ、或ヒ

ハ花嫁ノ最モ親シクシテ居ツタ男ノ友達ニ與ヘラレテ居ルト〔註一〕。而シテ「ウエスターマーク」ニ從ヘバ、タトヘ此ノ種ノ特權ガ、夫タルベキ者ノ屬スル部落ノ男子ニノミ與ヘラルル場合ガアツテモ、ソレハ妻タルベキ者ヲ捕護スルニ付イテ、種ト世話ヲシテクレタ事ニ對スル謝禮 (A reward for a good turn done) ノ意味ニ於テ、行ハルルモノニ他ナラヌトナサレテ居ル〔註二〕〔註三〕。

〔註一〕 McLennan, *Studies in Ancient History*. p. 341. Quoted from Westermarek, *op. cit.* vol. i. p. 199)

此ノ種ニ屬スル實例トシテハ Garcilasso de la Vega ノ報告ニ依ル peru ノ或ル地方ニ於ケル慣習等多數ヲ掲ゲルコトガ出來ル。殊ニ The Orang Sakai of the Malay Peninsula 及ビ Eastern Moluccas ニ關スル Miklucho-Maclay ノ報告ニ依レバ、Jus Primae Noctis ハ實ニ其ノ娘ノ父ニ屬スルノデアル (Westermarek, *op. cit.* vol. i. pp. 188. 189)。

〔註二〕 Westermarek, *op. cit.* vol. i. pp. 203. et seq.

〔註三〕 「マツクレナン」ハ、女ヲ捕獲シタ者ガ行使スル所ノ「戰勝ノ共同權」(A common war-right) ノ結果ト觀テ居ラレル。蓋シ彼ニ從ヘバ、女子ノ掠奪ハ個人的ニ行ハルルモノデハナクテ、寧ロ部落ガ共同的ニ行フモノデアルカラデアル。從ツテ又彼ハ個別婚ヲ行ハンガ爲メニ、掠奪婚 (Marriage by Capture) ノ俗ガ起ツタト云フ「ラボツク」ノ見解ニ反對シテ居ル。蓋シ掠奪ニヨリ個別婚ヲ行フニハ、掠奪ハ個人的ニ行ハルルコトヲ要スルカラデアル。而シテ掠奪婚ノ起源ニ關スル「マツクレナ

ン」ノ説明ハ、女兒殺害 (Female Infanticide) ノ結果、女子ノ
 缺乏ヲ來タシタルコトニ基因スルモノデアルトセラレテ居ル。

Jus Primae Noctis ガ A reward for a good turn done デアル
 コトヲ、暗示サセル幾多ノ報告ヲ「ウエスターマーク」ハ擧
 ゲテ居ラレル。例ヘバ東「アフリカ」ノ「ワタヴェタ」人 (The
 Wataveta) ノ中ニ於テハ、夫トナラウトスル者が妻トシヨウト
 スル女ヲ買入レタ後ニ、其ノ女ハ逃走シテ身ヲ隠クス。スルト
 男ハ女ヲ追跡搜索スルコトヲ四人ノ友達ニ依頼スル、友人ガ女
 ヲ捕ヘヤウトスルト、女ハ反抗スル風ヲスルダケデ、直チニ捕
 獲サレル。蓋シ女ノ捕護ハ單ニ形式的ノモノ (Ceremonial) タ
 ルニ過ギナイカラデアル。斯クテ捕ヘラレタ女ハ、男ノ母ノ家
 ニ連レラレテ行ツテ、其處ニ五日間 (A close prisoner トシテ)
 嚴重ニ監禁サレル。其ノ間、女ノ捕獲ニ功勞ノアツタ此ノ四人
 ノ友達ハ、其ノ女ヲ自由ニスルコトガ出來ル。此ノ特權ヲ友達
 ガ充分ニ行使シタ後ニ於テ、始メテ男 (legitimate husband) ハ
 其ノ女ニ夫トシテノ名乗リヲスル。ソレカラ新夫婦ハ其ノ知人
 ニオ目見得スルト云フコトニナツテ居ル。之ト類似ノ風習ハ「ワ
 タイタ」人 (The Wateita) ノ中ニモ亦存スルト〔註〕。

〔註〕 Westermarek, op. cit. vol. i. pp. 204. 205.

勿論「ウエスターマーク」ハスベテノ Jus Primae Noctis ガ

A reward for a good turn done ノ思想ニ由來スルモノデアルトシテ、説キ去ルモノデハナイ。或ヒハ、花嫁又ハ新夫婦ヲ祝福スル爲メニ Jus Primae Noctis ガ行ハルル場合モアルシ (Egede, Description of Greenland, p. 140.) 或ヒハ女ハ不淨ノモノデアルト云フ信仰 (The belief in woman's uncleanness) ニ其ノ起源ヲ有スルモノモアルシ (v. Martius, Beiträge zur Ethnographie Amerika's, i. 113 sq) 或ヒハ又酋長又ハ僧侶等ノ勢力家ノ威力ノ結果 (A consequence of might) ニ依ル場合モアルシ (Rivers, History of Melanesian Society, i. 386. Marco Polo, The Book of Ser M.P. the Venetian concerning the Kingdoms and Marvels of the East, ii. 268.) 更ニ或ヒハ初交ノ際ノ處女膜出血ニ對スル恐怖心 (The fear of hymeneal blood) ニ基ク場合モアル (Westermarck, op. cit. vol. i. pp. 190, et seq.) コトヲ説カレテ居ルガ、原始雜婚ノ存在ヲ推論サセルコトノ出來ルモノハ、一トシテ存シナイト述ベラレテ居ル。

之ヲ要スルニ「ラボック」ガ總テノ Jus Primae Noctis ヲ一ニ Arts of expiation for individual marriage トシテ、説明シ去ラウトシタノハ、其ノ The hypothesis of promiscuity or "Communal marriage" ニ additional probability ヲ與ヘントシテ其ノ解釋ヲ自己ノ目的乃至方便ノ爲メニ曲ゲタモノト云フベキデハナカロウカ。

「妻貸シ俗」 (The custom of lending wives to visitors) ニ至ツ

テモ、「ウエスターマーク」ニ從へバ、多クハ〔註一〕「款待ノ通常ノ作法」(The general rule of hospitality)ニ伴ツテ發生シタ出來事ニ他ナラヌノデアツテ〔註二〕強イテ之ヲ以テ、原始雜婚ノ遺風デアルトナスノハ、牽強附會モ亦甚シイモノデアル。蓋シ若シ「ラボック」ノ推論ニシテ許サルベキモノトスレバ、來客ニ衣食ヲ呈スルノハ、衣食共產時代ノ遺風デアルト云ハネバナルマイ。況シテ、來客ニ提供サルル女ハ、常ニ妻トハ限ラナイ。自己ノ姉妹ヤ娘ヤ下女ガ提供サレル處モアルシ、又娘ハ容易ニ來客ニ提供サレルガ、妻ハ決シテ之ヲ提供シナイ土地モ存スル。「ラボック」ノ説明ヲ以テシテハ、到底カカル場合ヲ包含スルコトハ、出來ナイノデアロウ。加フルニ、吾々ハ英領「コロンビア」海岸ノ土人 (The coast tribes of British Columbia) ガ「妻ヲ來客ニ一時的ニ獻ズルコトハ、來客ニ示シ得ル最大ノ敬意ノ一デアル」トナスガ如キ、又「エスキモー」人 (The Eskimo) ガ斯クノ如キ一時的贈呈ヲ以テ、「手厚イ款待ノ行爲」ト考ヘルガ如キ乃至贈呈セザルコトヲ以テ、無禮ト考へ若クハ來客ガ輕蔑サレタト考フルガ如キ〔註三〕ヲ考察スレバ、一層「ラボック」ノ説明ノ適當ナラザルヲ思ハザルヲ得ナイ。

〔註一〕 Westermarek, op. cit. vol. i. pp. 228—230.

〔註二〕 Westermarek, op. cit. vol. i. pp. 225, et seq.

〔註三〕 Westermarek, op. cit. vol. i. p. 227.

此ノ「妻貸シ俗」ト類似ノ「妻ノ交換俗」(The temporary exchange of wives) ヲ以テ原始雜婚ノ遺風トナス學者モアル〔註一〕。サレド「ウエスターマーク」ニ依レバ〔註二〕此ノ風習ハ享樂 (enjoyment.—they were not able to eat always of the same dish.) ノ爲メニ行ハルルコトモアルシ、又全然實利の動機 (practical reasons) ニ基ク場合モアルシ、又友情ノ徵 (a sign of friendship) トシテ行ハルル場合モアルシ、更ニ又或ル種ノ迷信ニ關係ヲ有スル場合モアルノデアツテ、決シテ原始雜婚ノ遺風トシテ觀察セネバナラヌ場合ハ存シナイノデアアル。蓋シ多クノ場合ニ於テ、妻ノ交換ハ、夫ト其ノ關係者トノ間ノ任意的協定 (A perfectly voluntary arrangement) ニ基クモノデアツテ斯ル請求權ヲ或ル男ガ、他人ノ妻ニ對シテ、當然ニ持ツテ居ルモノデアルト云フ様ナ強行的ナ性質ノモノデハナイカラデアアル。

〔註一〕 Paul Wilutzky, *Vorgeschichte des Rechts*, i. 20 sq
(Quoted from Westermarck, *op. cit.* vol. i. p. 230)。

〔註二〕 Westermarck, *op. cit.* vol. i. pp. 231—234.

E. Mother-right

一八六一年「スウキス」ノ法學者「バツホーフエン」(Johann Jacob Bachofen) ハ *Das Mutterrecht* ニ於テ、所謂母權制度 (A system of *Mutterrecht*, “mother-right.”) ガ處々ノ古代民族ノ間ニ行ハレテ居ツタト云フ事實ニ關シテ、世人ノ注意ヲ喚

起シタ。尙ホ其上ニ、彼ハ多數ノ古代著者ガ爲シタ叙述ト傳說及ビ神話トニ基イテ、斯カル母權制度ハ、何處ニ於テモ、父權 (father-right) 制度ノ濫觴ニ、先ダチシモノデアルト云フ結論ヲ導キ出シタ。其後數年ニシテ「マツクレナン」 (McLennan) ハ、「バツホーフエン」トハ全ク無關係ニ、主トシテ近代人種學 (Ethnology) 上ノ研究ニ基イテ、而モ「バツホーフエン」ト同一ノ假設 (Hypothesis) ヲ發表シタ。タダ「バツホーフエン」ハ母權制度ヲ説明スルニ、原始時代ニ於ケル女性ノ優越 (Supremacy of Women) ノ結果デアルトナスニ對シ、「マツクレナン」ハ原始時代ニ於ケル人類ノ雜婚若クハ一妻多夫 (Promiscuity or Polyandry) ノ存在ヲ肯定シ、其ノ結果、此ノ時代ニ於テハ、子ガ出生スルモ父親ヲ知ルニ由ナク、タダ母親ノミヲ知ルコトヲ得タルガ故ニ、親族團體ハ自ラ母系ニ依リテ構成セラレザルヲ得ナイトナス。即チ「マツクレナン」ハ「專ラ女系ニノミ依ル親族制」 (Kinship through females only) ノ存在理由ヲ、父系ノ不明ト云フコト (Uncertain paternity) ニ歸シ、父系ノ不明ハ、原始雜婚ノ當然ノ結果デアルト觀テ居ラレル (It is inconceivable that anything but the want of certainty on that point could have long prevented the acknowledgment of kinship through males; and in such cases we shall be able to conclude that such certainty has formerly been wanting—that more or less promiscuous intercourse between the sexes has formerly

prevailed.—(Studies in Ancient History, p. 88)—。

但シ mother-right ト云フ言葉ハ、我國ニ於テモ從來「母權」ト譯サレ、且ツ「バツホーフエン」及ビ其ノ一派ノ學者例ヘバ Giraud-Teulon, Lippert, Unger 等ハ、凡テ Mutterrecht ト云フ言葉ニ「gynocracy」「女性優越」ト云フ意味ヲ包含セシメテハ居ルガ〔註一〕「ウエスターマーク」ハ mother-right ト云フ言葉ヲ matriarchy トカ mother-rule トカト云フ言葉カラ、區別シテ使用シテ居ラレル。蓋シ「ウエスターマーク」ニ從ヘバ、血統ガ専ラ母親ヲ中心トシテ定メラルルト云フコト (Matrilineal Descent) ハ、當然ニ女子ガ社會的的政治的ニ優越シテ居ルコトヲ説明スルモノデハナイカラデアアル〔註二〕。從ツテ「ウエスターマーク」ハ mother-right ノ言葉ニハ、常ニ a political or military gynocracy ノ思想ヤ the headship of woman in the family ノ觀念ガ包含サレルモノデハナクテ〔註三〕常ニ存スル特徴ハ、單ニ母親ヲ中心トシテ、血統ヲ定ムルト云フコトニアルニ過ギナイト〔註四〕。從ツテ「ウエスターマーク」ニ從ヘバ、mother-right ハ「母權」ニハ非ズシテ、「母系」デアアル。「フリイドリツヒス」(Friedrichs, "Familienstufen und Eheformen," ZVR., X, 190, 191.) ガ Mutterrecht ト云フ語ヲ斥ケテ、母系親族制 (The Uterine System of Relationship) ヲ表示スル場合ハ Matriarchat ト云フ語ヲ擇ビ、女子ノ社會的的政治的優越ヲ表示スル場合ニハ Gynakokratie ト云フ語ヲ擇ンダノハ (Quoted from Howard,

op. cit. vol. p. 44) 極メテ意義深イコトデアル。之ヲ要スルニ「母系」制ハ必ズシモ「母權」制ヲ伴フモノデハナイノデアル。

〔註一〕 Howard, op. cit. vol. i. pp. 44. 45.

〔註二〕 It is convenient in the outset to note the importance of carefully distinguishing between the conception of mother-right, implying kinship in the female line, and that of gynocracy' denoting the supremacy of the female sex. (Howard, op. cit. vol. i. p. 44) See also, pp. 22, 23. The uterine family is far from being rare in negro Africa, but this does not in any way hinder the man from exercising a discretionary power over his wife or wives, and still more over his children..... This virile despotism may easily coexist with the adoption of uterine filiation. (Letourneau, op. cit. p. 305)。

〔註三〕 但シ Kautsky ハ Matrilineal Descent ガ行ハレテモ、必ズシモ a political or military gynocracy ヲ伴フモノデハナイガ、社會的生活即チ私法 (private law) ノ範圍ニ於テハ、Matrilineal Descent ノ行ハルルコトハ、女性ノ優越ヲ來スコト多キガ故ニ、mother-right ノ語ニハ the headship of woman in the family ノ觀念ヲ包含セシムルコトガ出來ルト。Peschel, Tylor 等亦然リ (Quoted from Howard op. cit. vol. i. pp. 44, 45)。

〔註四〕 Westermarck, op. cit. vol. i. pp. 276. 277.

母系繼承が行ハレテ居ルニモ拘ハラズ、尙且ツ父ガ其ノ家ノ長タル民族ノ實例ニ關シテハ、同書四三頁以下及ビ河田嗣郎氏著家族制度研究一一〇頁以下参照。

「マツクレナン」ノ主張ニ於テ、特ニ吾々ノ注意スベキ點ハ、

前掲九〇頁引用ノ原文ニ於テ見ラルルガ如ク、「専ラ女系ニノミ依ル親族制」ハ、父系ノ不明ト云フコト以外ノ事情ヨリシテハ存在スルコトナシトナス點デアル。斯クノ如ク母系親族制ノ存在ヲ以テ、原始雜婚ニ於テハ、父ヲ定ムルノ不能ナルノ結果デアルトナス説明ハ、其後幾多ノ共鳴者ヲ生ムニ至ツタ〔註〕。

〔註〕 例ヘバ Dr. Bloch ガ mother-right was the typical expression of the uncertainty of paternity which resulted from sexual Promiscuity. (Sexual Life of Our Time, p. 189) トナスガ如キ又 Frederick Engels ガ In all forms of the group family it is uncertain who is the father of a child, but certain, who is its mother. It is also obvious that, as far as group marriage exists, descent can only be traced on the mother's side and, hence, only female lineage be acknowledged. This is actually the case among all savage tribes and those in the lower stage of barbarism. (The Origin of the Family, pp. 49, 50.) トナスガ如キ乃至我國ニ於テモ西村眞次氏ガ「如上ノ亂婚、及ビ群婚ノ時代ニ於テハ、子ハ其母親ヲ正確ニ知ルコトガ出來テモ、其父親ヲ知ルコトガ出來ナイ。ソレ故ニ血統ノ承繼ハ勢ヒ母親ヲ中心トシナケレバナラナイ。ソレヲ母系繼承ト云フノデアル」ト説クガ如キ（文化人類學一三四、一三五頁参照）ハ、即チ是デアル。

茲ニ於テカ、吾々ハ母系親族制ガ多數ノ原始民族ノ間ニ行ハレテ居ルコトガ〔註〕「マツクレナン」ノ云フガ如ク、果シテ父

系ノ不明ニ基因シタルモノデアルカ否カ。更ニ進ンデ、其ノ父系ノ不明ハ原始雜婚ノ結果デアルカ否カラ確カメネバナラス。

〔註〕 其ノ實例ハ Bachofen, McLennan ノ著書ノ他、尙ホ Lubbock, op. cit. p. 121 sqq. Starcke, op. cit. sec. i. chs. i.—v. Letourneau, op. cit. chs. xvi.—xviii. 等参照。但シ「ウエスターマーク」ニ從ヘバ、父系親族制ノ行ハレテ居ル原始民族モ亦同様ニ多數存在スル。其ノ實例ニ關シテハ同氏 The History, etc., vol. i. p. 278. note (1). 及ビ1903年版98頁乃至104頁参照。

先ヅ第一ニ、母系親族制ノ存在ガ、父系ノ不明ニ原因スルト云フ説明ヲ以テシテハ、「ウエスターマーク」ノ提供スル「バレア」人 (The Barea) 「ロアンゴ」ノ黑人 (The Negroes of Loango) 「チャクチー」人 (The Chukchee) 及ビ南印度ノ「トーダ」人 (The Todas of Southern India) 等ニ關スル記述ハ、如何ニ之ヲ説明セントスルカ。即チ「バレア」人及ビ「ロアンゴ」ノ黑人ノ間ニハ、姦通ハ極メテ稀有ノ事デアルガ、而モ相續ハ専ラ母系ノミニ依ルノデアル。又「チャクチー」人及ビ南印度ノ「トーダ」人ノ間ニ於テハ、父ハ之ヲ確知スルヲ得ナイガ、而モ父系ガ行ハレテ居ル〔註一〕。從ツテ「ハートランド」(Dr. Hartland) ハ次ノ様ニ云フテ居ラレル。——母系親族制ハ單ニ父系ガ不明デアル場合ノミナラズ、父系ノ明ラカナ場合デモ行ハレルシ、又父系親族制ハ單ニ父系ノ明ラカナ場合ノミ

ナラズ、父系ガ不明ナ場合デモ行ハレル——ト〔註二〕。茲ニ於テカ、父系ノ不明ハ、以テ母系親族制ノ存在理由トナスニ足ラザルヤ明ラカデアロウ。況シテ父系ノ不明ヲ以テ、當然ニ原始雜婚ノ結果ト觀ルハ、決シテ正シイ論法ト云フヲ得ナイ。蓋シ父系ノ不明ハ離別 (The separation of husband and wife) 女子ノ姦通、妻貸シ俗、妻交換俗等ヨリシテモ、起リ得ル現象デアルカラデアアル。現ニ「インガム」(Ingham) ノ報ズル所ニ依レバ、「バコンゴ」人 (The Bakongo) ハ父系ノ不明ノ爲メニ、母系親族制ヲ採用シテ居ルトハ雖モ、雜婚ノ思想ハ彼等ニトツテハ誠ニ奇異ノ事ニ屬スルノデアアル〔註三〕。

〔註一〕 Westermarck, op. cit. vol. i. p. 285

〔註二〕 Hartland, Primitive Paternity, i. 301 sqq., particularly p. 325 (Quoted from Westermarck)

〔註三〕 Cf. Phillips, 'Lower Congo,' in Jour. Anthr. Inst. xvii. 229 (Quoted from Westermarck)

果シテ然ラバ、母系親族制ガ存在スルニ至ツタ理由如何。此ノ點ニ關スル學者ノ説明ハ頗ル區々デアアル。或ヒハ之ヲ以テ、生殖關係ニ關スル無智 (Ignorance of the fact that the birth of a child is the result of sexual intercourse between man and woman) ニ歸シ〔註一〕或ヒハ之ヲ以テ、原始時代ニ遡ル程、母子ノ關係ハ父子ノ關係ヨリモ一層親密デアアルコトニ基因スルモ

ノトシテ説明シ〔註二〕。

〔註一〕 高田保馬氏「社會學原理」八二二頁及ビ八二六頁參照。尙ホ之ニ對スル批判ニ至リテハ *Westermarck, The History, etc., vol. i. pp. 285 et seq*

〔註二〕 母子ノ關係ガ父子ノ關係ヨリモ一層親密デアルト云フハ、蓋シ原始時代ニ於テハ、夫婦ノ結合脆弱ノ結果離婚ガ屢ニ行ハレ、此ノ場合ニ子ハ常ニ母ニ屬セラレタ爲メデアル。又「ウインターボットム」(Winterbottom)ハ母子ノ關係ガ父子ノ關係ヨリモ一層親密デアルコトハ、一夫多妻 (Polygyny) ノ當然ノ結果デアルトナシ、母系親族制ノ存在理由ヲ一夫多妻ノ風習ト觀察シテ居ラレル。「マクドナルド」(D. Macdonald) ノ「ニュー、ヘブリデス」ノ「エフアテス」人 (The Efatese of the New Hebrides) ニ關スル報告、「カザリス」(Casalis) ノ「ベチュアナ」(Bechuana) 族ノ「バスト」人 (The Besuto) ニ關スル記述ハ孰レモ此ノ事ヲ裏書シテ居ル (*Westermarck, op. cit., vol. i. p. 296*)。我國ニ於テハ、高田保馬博士ガ此ノ説ヲ探ラレテ居ル (前掲書八二〇頁以下參照)。

更ニ又慣習上其ノ種族ニ行ハルル婚姻ノ形式ノ如何ニ因リテ或ヒハ父系親族制トナリ、或ヒハ母系親族制トナルモノデアツテ、母系親族制ハ即チ *Matrilocal Marriage* (招婿婚) ノ結果タルニ過ギヌト説ク〔註〕。

〔註〕 「タイラア」(Tylor, 'On a Method of investigating the Development of Institutions,' in *Jour. Anthr. Inst.* xviii. 258)

ハ母系親族制ハ、夫ガ婚姻 (Matrilocal Marriage) ニ因リテ、妻ノ家ニ入ル慣習ヲ有スル民族ノ間ニ行ハルルコト及ビ妻ガ婚姻 (Patrilocal Marriage) ニ因リテ、夫ノ家ニ入ルノヲ唯一ノ慣習トスル民族ノ間ニハ、決シテ完全ナル母系親族制ガ行ハルルモノニ非ザルコトヲ説イテ居ラレル (See also Westermarck, op. cit. vol. i. pp. 296, 297)。我國ニ於テモ岡松參太郎博士(「母系主義ト臺灣生蕃」——法學新報二七卷九號一一號、二八卷一號乃至五號七號八號參照) ハ臺灣生蕃ヲ調査シタ結果、婦女ガ其ノ家ニ留リテ、他部族ヨリ男子ヲ招婚シ、夫ハ自己ノ部族ヲ出デテ妻ノ家ニ入ル場合ニハ、自ラ母系主義ガ行ハルベキコト、之ニ反シテ、男子ガ其ノ家ニ留リテ、他部族ヨリ婦女ヲ迎娶シ妻ガ夫ノ家ニ入ル場合ニハ、父系主義ガ行ハルベキコトヲ説カレテ居ル。

其ノ孰レヲ是トスベキカハ、頗ル決定シ難キ問題ニ屬スルノデアアルガ、其ノ孰レモガ、母系親族制ヲ説明スルニ、原始雜婚ノ存在ヲ假定スルヲ要セザルニ至ツテハ誠ニ一デアアル。

次ニ又、母系親族制ガ父系親族制ニ先キ立ツタト云フ説明即チ、母系親族制ガ原始ノ形式デアツテ、父系親族制ハ之ニ代ツテ、起ツタモノデアルト云フ説明〔註〕ニ對シテモ、吾々ハ幾多ノ論難ヲ加ヘルコトガ出來ル。

〔註〕 此ノ説明ハ Bachofen, McLennan ニ依ツテ爲サレタ以來、Haberlandt, Wilutzky, Bloch, W.I. Thomas, Wundt, Kohler, Russell, Andrew Lang 等ノ學者ノ採用スル所トナツタ (Quoted from Westermarck, op. cit. vol. i. P. 278)。我國ニ於テ

モ高田保馬氏(前掲書八二〇頁以下参照)西村眞次氏(文化人類學一三四頁以下参照)等ハ孰レモ此ノ説ヲ採ラレテ居ル。

即チ、此ノ説明ヲ是認センガ爲メニハ、先ヅ第一ニ、母系親族制ノ因ツテ起リシ原因ガ、人類原始ノ生活ノ上ニ、一般ニ働イタコトヲ説明セネバナラス。而モ「マツクレナン」ノ云フ父系ノ不明ヲ來タス雜婚又ハ一妻多夫ヲ以テ、全人類社會ノ發達ニ於ケル一般ノ階段 (A general stage in the social development of man) ナリトナシ若クハ全人類ノ歴史ノ出發點(The starting-point of all human history) ナリトナスコトハ、後段ニ於テ詳述スルガ如ク、今日ノ科學ノ、全ク許サザル所ニ屬スル。而シテ第二ニハ、父系親族制ノ行ハレテ居ル現今多數ノ野蠻人ハ、其ノ以前ニ於テ、行ハレテ居ツタトナス母系親族制ノ痕跡ヲ、何故ニ全ク止メザルカヲ説明セネバナラス。殊ニ最低級野蠻民族タル Kalahari Bushmen ニ屬スル Auin 人、中央「アフリカ」ノ Pygmy 人、Malay 半島ノ野蠻人、Philippine ノ Negrito 人、南 Sumatra ノ Kubu 人等ノ間ニ父系親族制ガ行ハレテ居ツテ、母系親族制ノ行ハレタ痕跡ハ全ク存シナイノデアアル〔註〕。

〔註〕 Westermarck, op. cit. vol. i. pp. 280, 281.

第三ニハ、同一時代ノ相接近セル同一民族ニシテ、文化ノ程

度モ同一ナルニモ拘ハラズ、一方ノ民族ニハ母系親族制ガ行ハレ、他方ノ民族ニハ父系親族制ガ行ハルル〔註一〕理由ヲ説明セネバナラヌ。殊ニ父系親族制ヲ行フ民族ガ、母系親族制ヲ行フ民族ニ比シテ、必ズシモ文化ノ程度ガ高イトハ限ラナイ點〔註二〕ハ母系原始說ヲ以テ如何ニ之ヲ説明セントスルカ。

〔註一〕 Westernmarek, op. cit. vol. i. p. 278.

〔註二〕 例ヘバ臺灣生蕃ニ關シ、岡松參太郎博士ノ報ズル所ニ依レバ、「タイヤル」族「セーダツカ」族「サイセツト」族及ビ「ソオウ」族ニハ父系主義ガ行ハレ、「アミ」族及ビ「バイワン」族ノ支族タル「プマ」族ニハ、母系主義ガ行ハレテ居ル。而シテ母系主義ノ「アミ」族「プマ」族ハ全蕃族中比較的最モ進歩開化シタモノデアツテ、父系主義ノ諸族ハ、皆ナ開明ノ程度ガ之ニ劣ツテ居ルト述ベラレテ居ル（前掲同氏論文參照）。

蓋シ此等ノ事ハ、現今ニ於テハ、或ヒハ父系親族制ヲ行フ民族ガアリ、或ヒハ母系親族制ヲ行フ民族ガアリ、或ヒハ父系及ビ母系ノ兩親族制ヲ行フ民族ガアルニモ拘ハラズ、其ノ以前ニ於テハ、一般ニ全人類ハ、母系親族制ヲ行ヒシモノデアルト云フコトヲ主張セントスル者ノ當然説明スベキ事項ニ屬スルカラデアル。而モ吾々ハ此等ノ點ニ關シテ、現今充分ノ説明ヲ得ルコトガ出來ナイノミナラズ、寧ロ此ノ兩種ノ間ニハ、先後ノ關係アルニハ非ズシテ、各民族ノ社會的事情ノ如何ニ依リテ、古カラ或ル民族ニハ、母系親族制ガ行ハレ、他ノ民族ニハ、父

系親族制が行ハレタト觀ルベキコトヲ、暗示サセル幾多ノ資料ガ提供サレテ居ルノデアル〔註一〕。從ツテ自分ハ母系親族制ヲ以テ、總テノ民族ノ原始的制度ナリトナスハ、恐ラクハ、正當ニ非ザルベキヲ信ズル者デアル〔註二〕。

〔註一〕 Westermarck, op. cit. vol. i. 295—297.

河田嗣郎「家族制度研究」一九三頁以下（家族ノ形態ト經濟ノ形態）参照。

岡松參太郎博士前掲論文参照。

〔註二〕 Starcke ハ原始的民族、殊ニ「アメリカ」及ビ「オーストラリア」ノ野蠻人ノ慣習ヲ廣ク調査シタ結果、逆ニ、父系ノ原始性ヲ主張シテ居ラレル(The Primitive Family in its Origin and Development, pp. 26, 27, 30, 118.)。

之ヲ要スルニ、母系親族制ハ原始雜婚ノ存在ヲ假定スルニ非ザレバ、説明出來スモノデハナイ。寧ロ原始雜婚ノ結果トシテ之ヲ説明スレバ、幾多ノ不都合ヲ惹起スルニ至ルコトハ、既ニ之ヲ述ベタガ如クデアル。從ツテ母系親族制ヨリシテ、原始雜婚ヲ推論スル方法モ亦決シテ正シイモノト云フコトハ出來ナイノデアル。

(5) 結論

上述シタルガ如クデアルカラ、婚姻制度ノ起源ヲ究メルガ爲メニハ、其ノ基本タルベキ研究ノ方法ハ、勢ヒ眼ヲ他ヘ轉ジ、

他ノ途ヲ選バネバナラナイノデアアル。此ノ點ニ關シ「ウエスターマーク」ハ、吾々ニ適切ナ方法ヲ示シテ居ラレル〔註一〕。曰ク吾々ハ或ル社會的現象ノ依ツテ起リシ原因ガ、全人類ニトツテ、普遍的性質ノモノデアアルコトヲ臆斷シ得ナイ以上ハ、其ノ社會的現象ノ過去ニ於ケル普遍的存在 (The universal prevalence of a social phenomenon in the past) ヲ臆斷スルコトハ出來ナイノデアアル。換言スレバ現在ニ於テ吾々が持ツテ居ル社會的現象ヲ、記録ノ存セナイ遠イ過去ヨリ、既に持ツテ居ッタモノデアアルト臆斷シ得ルガ爲メニハ、少クトモ、其ノ社會的現象ヲ惹起スルニ至ツタ原因ガ、人類全體ニトツテ、普遍的ニ存在スルモノデアッタコトヲ、説明セネバナラナイノデアアル。從ツテ婚姻制度ノ起源ヲ究メルガ爲メニハ、先ヅ第一ニ、吾々ハ婚姻制度ノ依ツテ起リシ原因ヲ究メル必要ガアル。今假リニ、吾々が此ノ原因ノ普遍的存在ヲ臆斷シ得タトスレバ、次ニ第二段トシ、此ノ原因ノ存在ヨリシテ——此ノ原因ガ他ノ事情ニ依ツテ、妨ゲラレルコトガナイト臆斷シ得ラレル限リハ——更ニ婚姻制度ソノモノノ存在ヲ推測シ得ルコトニナルノデアアル。

而シテ此ノ婚姻制度ヲ惹起スルニ至ツタ原因ヲ明ラカニスルニハ、種々ノ科學、就中生物學 (Biology) 心理學 (Psychology) 經濟學 (Economics) 及ビ社會學 (Sociology) ノ各方面カラ、種種ノ助力ヲ求メネバナラヌコトニナラウ。蓋シ此等ノ生物學的、心理學的、經濟學的乃至社會學的の法則ハ、人類ノ進化發展ノ過

程ニ對シ、相牽連シテ作用ヲ及ボスモノデアルカラデアアル。殊ニ婚姻制度ハ、後段ニ於テ詳述スルガ如ク、人類ノ生存及ビ子孫ノ保存ニ對スル必要條件デアツテ、自然淘汰ノ影響ノ下ニ發達シタ本能 (An instinct which has been acquired through the process of natural selection) ニ其ノ源ヲ發シ、且ツ人類ノ社會的生活ノ發達ニ伴フテ確立セラレタモノデアアルガ故ニ、其ノ生物學的原因 (biological causes) ニ至ツテハ、婚姻制度ノ起源ニ關シテ、極メテ重要ナル資料ヲ供スルモノデアロウ〔註二〕。

〔註一〕 Westermarck, op. cit. vol. 1. pp. 20—25.

〔註二〕 現ニ「ルトウルノオ」(Ch. Letourneau) ハ此ノ點ニ關シテ、次ノ如クニ云ハレテ居ル——As sociology finally depends on biology, it will be necessary to seek in physiological conditions themselves the origin of great sociological manifestations. (The Evolution of Marriage, p. 2)。

It was a great defect of the earlier treatises on marriage that the biological aspect of the problem was entirely ignored, and even now it is not sufficiently recognised (Westermarck, op. cit. vol. i. p. 22)

此ノ「ウエスターマーク」ノ研究方法ニ從ツテ、婚姻制度ノ起源ヲ探究スルトシテモ、茲ニ一ノ豫備知識ガ必要ニナツテクル。ソレハ、人類ノ古代ニ關スル或ル種ノ知識デアアル。蓋シ若シ一定ノ此ノ種ノ豫備知識ヲ具ヘズシテ研究ニ入ルナラバ、吾

吾ハ或ル原因ガ古代ニ於テモ、人類ニ作用シテ居ツタカドウカガ、全ク不明ニナリ、結局、婚姻制度ノ起源ハ、之ヲ明ラカニスルヲ得ナクナルカラデアアル。

人類ノ原始状態ニ關スル根本的の説明ニ、從來二ツノ相反セル見解ガアルガ如クデアアルガ〔註一〕吾々ハ、此ノ二ツノ見解ノ是非ヲ茲ニ論ズルマデモナク、今日ニ於テハ、其ノ一ツ——人類進歩説トデモ云フベキカ——ヲ單ナル假説 (Hypotheses) ト思ハナイデ、信ジテモヨイヨウデアアル〔註二〕。即チ多數ノ學者ニ依ツテ主張サレル様ニ、人類ハ最初ハ單ナル野蠻人デアアルニ過ギナカッタガ、歴史ノ進路ハ——勿論或ル種族ハ時々 (或ル場合ニハ數世紀ノ長イ間) 其ノ發達ヲ靜止シ、若クハ更ニ退歩サヘシタ場合モアルガ——大體ニ於テ、文明ヘト向ツテ前進シテ居ルト云フ見解ガ是レデアアル (Lubbock, op. cit. p. 397)。即チ今日最モ進化シタ種族ト雖モ、嘗テハ野蠻ノ状態ニアリシモノデアアルコト及ビ人類ト云ヒ得ル最初ノ生物即チ原人 (Homo Primitivus, Primitive man) ハ、恐クハ、或ル猿ニ似タ祖先ヨリ漸次ニ變形シテ來タモノデアアルト云フコト〔註三〕ヲ推測シテ差支ヘナイコトニナル。從ツテ、又此ノ事カラシテ、吾々ハ現在ノ状態ニ於テ、人類ノ有スル種々ノ性質ノ中デ、或ル種ノ性質ハ、原人ノ時代ニ於テモ、既ニ之ヲ有シテ居ツタモノデアアルト云フコトヲ推測スルコトガ出來ル。蓋シ下等動物ノ中デ、人類ニ最モ接近セル動物ガ、有シテ居ル性質デアツテ、且ツ現今ノ人

類モ亦此ノ性質ヲ保有シテ居ルニ於テハ、人類ノ祖先タル原人モ亦此ノ性質ヲ有シテ居ツタモノデアロウト推測スルコトハ、決シテ無理ナ推測デハナイカラデアアル。此ノ事ハ我々ヲシテ、原人ノ心理的性質ヲ講究スル上ニ於テ、幾多ノ知識ヲ與ヘルモノガアル（後段「男性ノ嫉妬」Masculine Jealousy 參照）。

之ヲ要スルニ、人類ト其他ノ諸動物トノ間ニ、生物的ニモ、心理的ニモ、基礎的差異ヲ設ケ、人類ヲ修飾スルニ、崇嚴ニシテ且ツ神祕ナ衣ヲ以テスル偏狹ナ見解ハ、近代科學ノ全ク許サザルトコロデアアル〔註四〕〔註五〕。

〔註一〕 Lubbock, op. cit. p. 397.

〔註二〕 Ch. Darwin, The Descent of Man, part 1. Westermarck, op. cit. p. 5.(3. edit.). Lubbock, op. cit. pp. 398, et seq. Morgan, op. cit. pp. 513—515.

〔註三〕 人猿同祖論デアツテ、猿即チ人祖論デハナイ。詳細ハ東洋學藝雜誌第一七九號ノ理學博士坪井正五郎氏「人ト猿」及ビ經濟論叢第五卷第一號ノ川村多實二氏「生物進化論ノ誤解」參照。

〔註四〕 It is only our natural prejudice, and that arrogance which made our forefathers declare that they were descended from demi-gods, which leads us to demur to this conclusion. But the time will before long come, when it will be thought wonderful that naturalists, who were well acquainted with the comparative structure and development of man, and other mammals, should have believed that each was the work of a separate act of creation. (Ch. Darwin, The Descent of Man,

pp. 36, 37.)。

〔註五〕「ルトウルノオ」(Ch. Letourneau) ハ此ノ點ニ關シテ、次ノ如ク云フテ居ラレル——人類ヲ他ノ動物ト全ク切り離シテ所謂半神(demi-gods)トナシテ了ツタ盲目的臆斷(blind prejudice)ハ、人類ヲ他ノ動物ト比較スルコトガ、人類自ラ人類ヲ卑下スルモノデアルト云フ思想ヲ生ミ、此ノ思想ハ實ニ人類學的社會學(Anthropological Sociology)ヲシテ、發達セシメナカツタ主要ナル原因デアアル云々(The Evolution of Marriage, p. 2)。

(未完)

「マレイ」式親族稱呼「ツラン」式親族稱呼及ビ「アリアン」式親族稱呼ノ比較表

(Morgan, op. cit. pp. 428—432, 456—461, 500—504. Lubbock, op. cit. pp. 73—75, table between pp. 140 and 141. Starcke, op. cit. pp. 289—299.)

Description of Persons	Hawaiian	(trans.)	Seneca-Iroquois	(trans.)	Latin	(trans.)
(1)。父	Makua kana	(男親)	(1)。Hanih	(父)	Pater	(父)
(2)。父ノ兄弟	Makua kana	(男親)	(2)。Hanih	(父)	Patruus	(父方ノ伯叔父)
(3)。母ノ兄弟	Makua kana	(男親)	(3)。Hocnoseh	(伯叔父)	Avunculus	(母方ノ伯叔父)
(4)。父ノ父ノ兄弟ノ息子	Makua kana	(男親)	(4)。Hanih	(父)	Potru magni filius	(父方ノ大伯叔父ノ息子)
(5)。母ノ母ノ兄弟ノ息子	Makua kana	(男親)	(5)。Hocnoseh	(伯叔父)	Avunculi magni filius	(母方ノ大伯叔父ノ息子)
(6)。母	Makua waheena	(女親)	(6)。Noyeh	(母)	Mater	(母)
(7)。母ノ姉妹	Makua waheena	(女親)	(7)。Noyeh	(母)	Matertera	(母方ノ伯叔母)
(8)。父ノ姉妹	Makua waheena	(女親)	(8)。Abgahuc	(伯叔母)	Amita	(父方ノ伯叔母)
(9)。母ノ母ノ姉妹ノ娘	Makua waheena	(女親)	(9)。Noyeh	(母)	Materterae magnae filia	(母方ノ大伯叔母ノ娘)
(10)。父ノ父ノ姉妹ノ娘	Makua waheena	(女親)	(10)。Abgahuc	(伯叔母)	Amitae magnae filia	(父方ノ大伯叔母ノ娘)
(11)。息子	Kaikee kana	(男子)	(11)。Haahwuk	(息子)	Filius	(息子)
(12)。兄弟ノ息子	Kaikee kana	(男子)	(12)。{Haahwuk (M.S.*) Hasohneh (F.S.*)	{(息子) (甥)	Fratri filius	(兄弟ノ息子)
(13)。姉妹ノ息子	Kaikee kana	(男子)	(13)。{Hayawanda (M.S.) Haahwuk (F.S.)	{(甥) (息子)	Sororis filius	(姉妹ノ息子)
(14)。父ノ兄弟ノ息子ノ息子	Kaikee kana	(男子)	(14)。{Haahwuk (M.S.) Hasohneh (F.S.)	{(息子) (甥)	Patru nepos	(父方ノ伯叔父ノ孫息子)
(15)。父ノ姉妹ノ娘ノ息子	Kaikee kana	(男子)	(15)。{Hayawanda (M.S.) Haahwuk (F.S.)	{(甥) (息子)	Amitae nepos	(父方ノ伯叔母ノ孫息子)
(16)。母ノ兄弟ノ娘ノ息子	Kaikee kana	(男子)	(16)。{Hayawanda (M.S.) Haahwuk (F.S.)	{(甥) (息子)	Avunculi nepos	(母方ノ伯叔父ノ孫息子)
(17)。母ノ姉妹ノ息子ノ息子	Kaikee kana	(男子)	(17)。{Haahwuk (M.S.) Hasohneh (F.S.)	{(息子) (甥)	Materterae nepos	(母方ノ伯叔母ノ孫息子)
(18)。娘	Kaikee waheena	(女子)	(18)。Kaahwuk	(娘)	Filia	(娘)
(19)。兄弟ノ娘	Kaikee waheena	(女子)	(19)。{Kaahwuk (M.S.) Kasohneh (F.S.)	{(娘) (姪)	Fratri filia	(兄弟ノ娘)
(20)。姉妹ノ娘	Kaikee waheena	(女子)	(20)。{Kayawanda (M.S.) Kaahwuk (F.S.)	{(姪) (娘)	Sororis filia	(姉妹ノ娘)
(21)。父ノ兄弟ノ娘ノ娘	Kaikee waheena	(女子)	(21)。{Kayawanda (M.S.) Kaahwuk (F.S.)	{(姪) (娘)	Patru neptis	(父方ノ伯叔父ノ孫娘)
(22)。父ノ姉妹ノ息子ノ娘	Kaikee waheena	(女子)	(22)。{Kaahwuk (M.S.) Kasohneh (F.S.)	{(娘) (姪)	Amitae neptis	(父方ノ伯叔母ノ孫娘)
(23)。母ノ兄弟ノ息子ノ娘	Kaikee waheena	(女子)	(23)。{Kaahwuk (M.S.) Kasohneh (F.S.)	{(娘) (姪)	Avunculi neptis	(母方ノ伯叔父ノ孫娘)
(24)。母ノ姉妹ノ娘ノ娘	Kaikee waheena	(女子)	(24)。{Kayawanda (M.S.) Kaahwuk (F.S.)	{(姪) (娘)	Materterae neptis	(母方ノ伯叔母ノ孫娘)
(25)。兄	Kaikuaana (M.S.)	(兄)	(25)。Haje	(兄)	Frater ⁺	(兄弟)
(26)。父ノ兄弟ノ息子	Kaikuaana (M.S.) (E.**)	(兄)	(26)。Haje (E.)	(兄)	Patru filius	(父方ノ伯叔父ノ息子)
(27)。母ノ姉妹ノ息子	Kaikuaana (M.S.) (E.)	(兄)	(27)。Haje (E.)	(兄)	Materterae filius	(母方ノ伯叔母ノ息子)
(28)。父ノ姉妹ノ息子	Kaikuaana (M.S.) (E.)	(兄)	(28)。Ahgaresch	(從兄弟)	Amitae filius	(父方ノ伯叔母ノ息子)
(29)。母ノ兄弟ノ息子	Kaikuaana (M.S.) (E.)	(兄)	(29)。Ahgaresch	(從兄弟)	Avunculi filius	(母方ノ伯叔父ノ息子)
(30)。姉	Kaikuwaheena ⁺ (M.S.)	(姉妹)	(30)。Ahje	(姉)	Sorores ⁺	(姉妹)
(31)。父ノ兄弟ノ娘	Kaikuwaheena (M.S.)	(姉妹)	(31)。Ahje (E.)	(姉)	Patru filia	(父方ノ伯叔父ノ娘)
(32)。母ノ姉妹ノ娘	Kaikuwaheena	(姉妹)	(32)。Ahje (E.)	(姉)	Materterae filia	(母方ノ伯叔母ノ娘)
(33)。父ノ姉妹ノ娘	Kaikuwaheena	(姉妹)	(33)。Ahgaresch	(從姉妹)	Amitae filia	(父方ノ伯叔母ノ娘)
(34)。母ノ兄弟ノ娘	Kaikuwaheena	(姉妹)	(34)。Ahgaresch	(從姉妹)	Avunculi filia	(母方ノ伯叔父ノ娘)

* M.S. ハ Male speaking ノ略ニシテ男ガ云フ場合ヲ示ス。同様ニシテ F.S. ハ Female speaking ノ略ニシテ女ガ云フ場合ヲ示ス。

** Elder ノ略ニシテ自分ヨリ年長ノ者ヲ指ス。
+ 自分ヨリ年長ノ者ニ限ラズ。